

**（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生
人口ビジョンおよび総合戦略の策定にかかる
市民アンケート結果報告書（案）**

平成 27 年 9 月

《目次》

I. 結婚・出産・子育て等に関するアンケート	1
■調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査項目	1
4. 回収結果	1
■調査の結果	2
1. あなたご自身について	2
2. 結婚について	3
問1. 結婚経験	3
問2. 結婚の意向	5
問3. 結婚希望	6
問4. 結婚の条件	7
問5. 結婚希望年齢	9
問6. 理想より現実の年齢が上回った理由	10
問7. 結婚の意向がない理由	11
3. 出産・子育てについて	12
問8. 子どもの有無	12
問9. 理想的な子ども数	13
問10. 最終的な子ども数	14
問11. 持つつもりの子ども数の方が少ない理由	15
問12. 子どもを持つ上で有効だと思う支援	16
問13. 出産希望年齢	18
問14. 理想より現実の年齢が上回った理由	19
問15. 出産の意向がない理由	20
4. 仕事と生活について	21
問16. 女性の結婚・出産・働き方	21
問17. 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）実現のために	22
5. 蕨市のまちづくりについて	23
問18. 満足度	23
問19. 人口問題に対する不安	25
問20. 不安の内容	26
問21. 人口問題への対応	27
問22. 少子化対策	29
6. 自由意見	31
II. 転入・転出や地域連携等に関するアンケート	33
■調査の概要	33
1. 目的	33

2. 調査方法.....	33
3. 調査項目.....	33
4. 回収結果.....	33
■調査の結果.....	34
1. あなたご自身について.....	34
2. 転入・転出について.....	36
問1. 出身地.....	36
問2. 居住歴.....	37
問3. 引っ越しのきっかけ.....	38
問4. 引っ越し先選定理由.....	40
問5. 以前の居住地.....	41
問6. 定住意向.....	42
問7. 住み続けたい理由.....	43
問8. 転出したい理由.....	44
問9. すぐに転出しない理由.....	45
問10. 転出先.....	46
問11. 子どもの状況.....	47
問12. 子どもの引っ越した状況.....	48
問13. お子さんの引っ越し先.....	49
問14. お子さんの引っ越し先選定理由.....	50
3. 蕨市のまちづくりについて.....	51
問15. 満足度.....	51
問16. 人口問題に対する不安.....	53
問17. 不安の内容.....	54
問18. 人口問題への対応.....	55
問19. 地域連携.....	57
問20. 主な利用先.....	59
4. 自由意見.....	65
III. 就職・進学状況や定住意向等に関するアンケート	67
■調査の概要.....	67
1. 目的.....	67
2. 調査方法.....	67
3. 調査項目.....	67
4. 回収結果.....	67
■調査の結果.....	68
1. あなたご自身について.....	68
2. 就職・進学について.....	69
問1. 就職先として希望する地域.....	69
問2. 就職先として希望する理由.....	71
問3. 就職したい業種.....	73

問 4. 就職先を選ぶ条件.....	75
問 5. 進学先として希望する地域.....	77
問 6. 進学先として希望する理由.....	78
3. 将来の定住意向について.....	79
問 7. 将来の定住意向.....	79
問 8. 住みたい理由.....	80
問 9. こだわらない・移りたい理由.....	81
4. 蕨市のまちづくりについて.....	82
問 10. 満足度.....	82
問 11. 人口問題に対する不安.....	84
問 12. 不安の内容.....	85
問 13. 人口問題への対応.....	86
問 14. 若者に選ばれるまちづくり.....	88
5. 自由意見.....	90

I. 結婚・出産・子育て等に関するアンケート

■調査の概要

1. 目的

この調査は、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、「(仮称) 蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」および「(仮称) 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するにあたり、市民の結婚・出産・子育て等に関する意向や実態等を把握するために実施しました。

2. 調査方法

- (1) 調査期間 平成 27 年 6 月
- (2) 調査対象 市内在住の 18 歳から 49 歳までの男女
- (3) 対象者数 1,000 人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から各地区の年齢層別の人口比率に基づき、男女別に無作為抽出
- (5) 調査方法 行政連絡員による送付、郵便による回答

3. 調査項目

- (1) 回答者自身について
- (2) 結婚について
- (3) 出産・子育てについて
- (4) 仕事と生活について
- (5) 蕨市のまちづくりについて
- (6) 自由意見

4. 回収結果

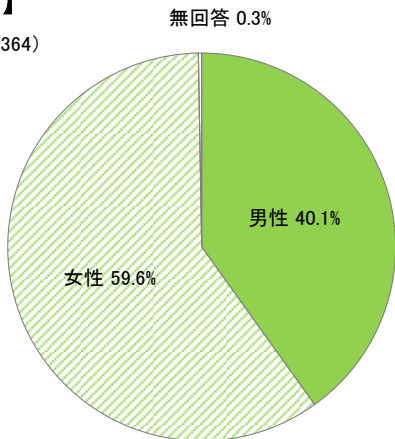
- (1) 配布数 1,000 票
- (2) 回収数 365 票
- (3) 回収率 36.5%
- (4) 有効回答数 364 票 (白票 1 票)

■ 調査の結果

1. あなたご自身について

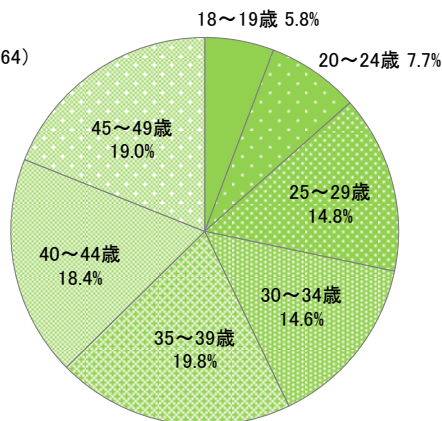
【性別】

(n=364)



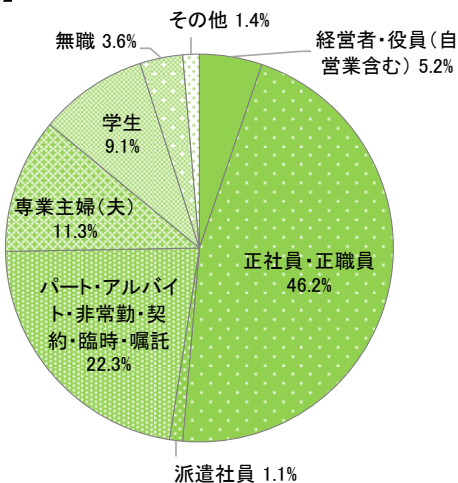
【年齢】

(n=364)



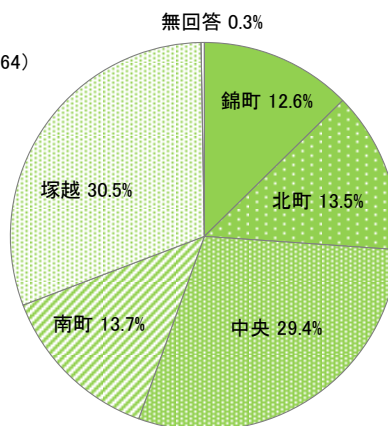
【職業】

(n=364)



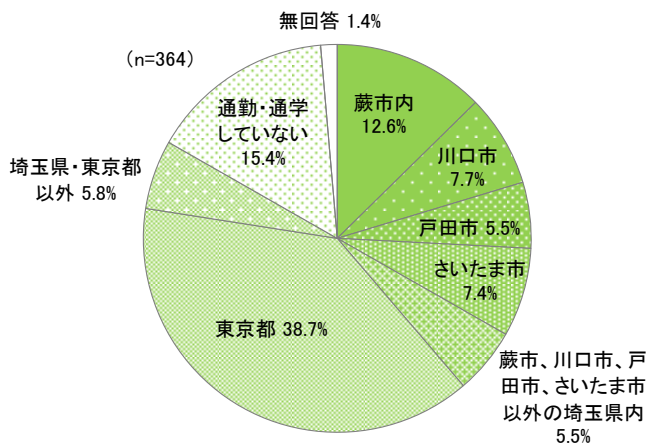
【居住地】

(n=364)



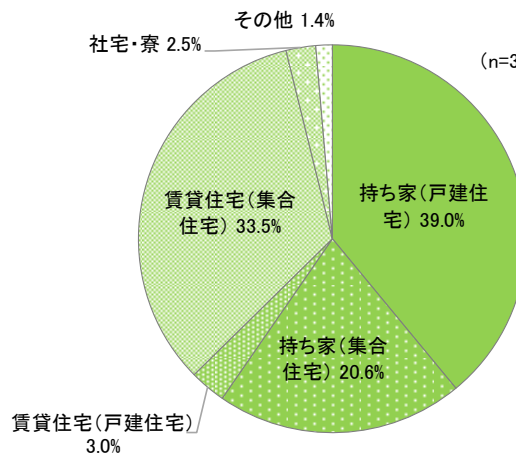
【通勤・通学地】

(n=364)



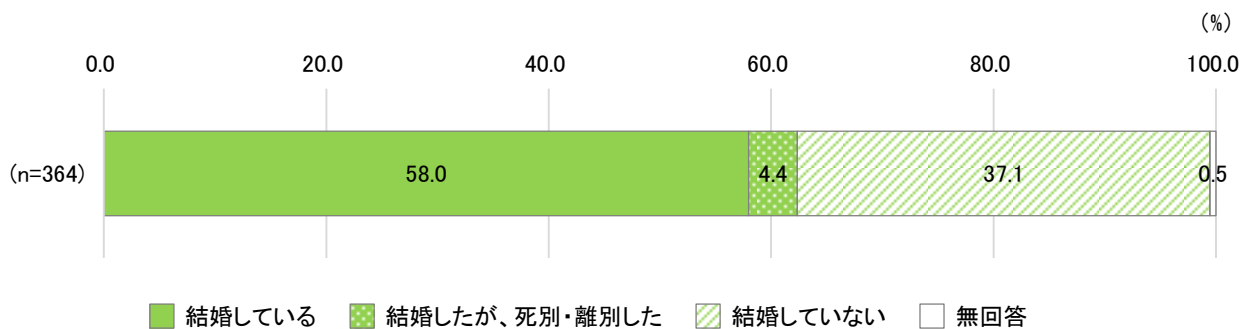
【住まい】

(n=364)



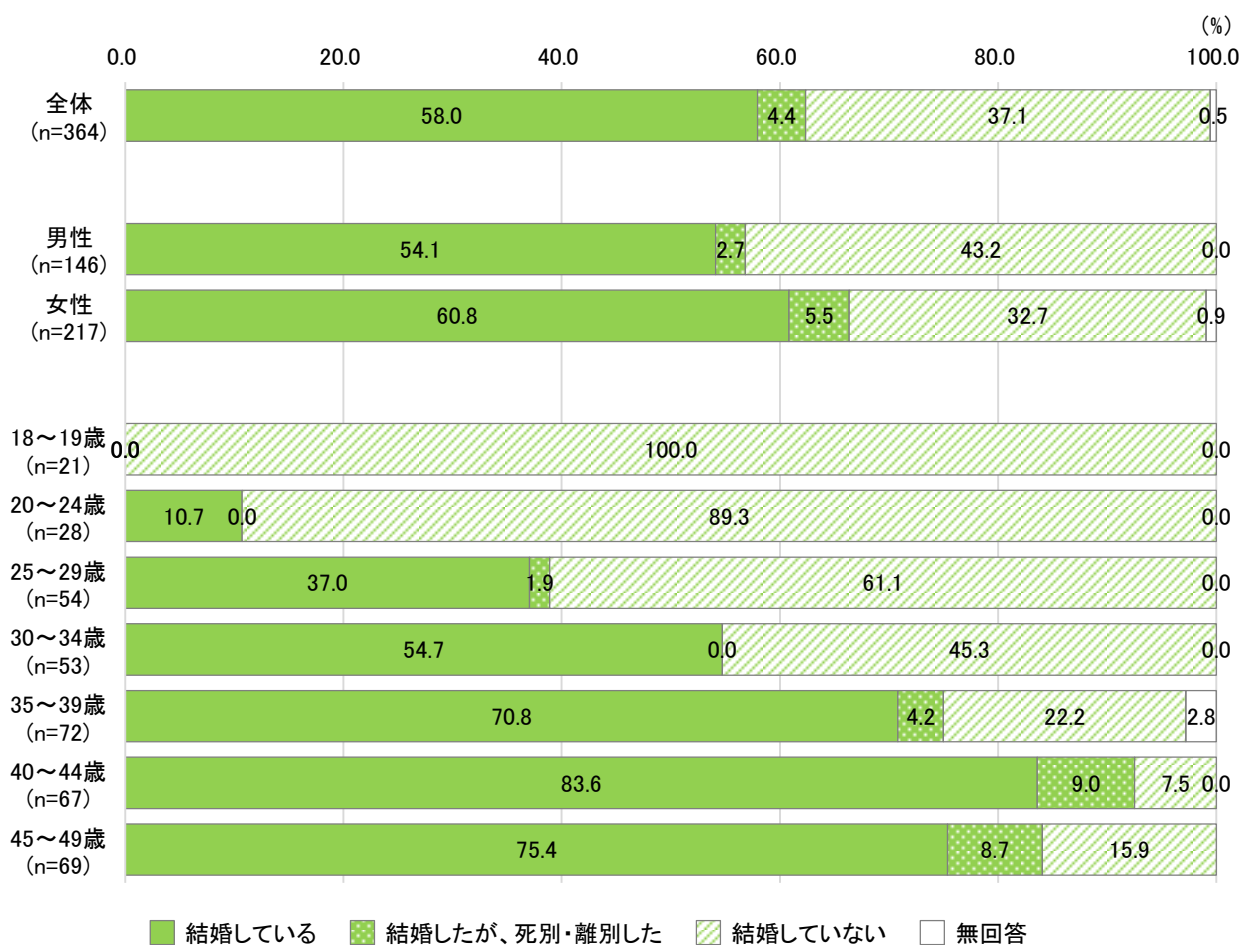
2. 結婚について

問1. **結婚経験** あなたは現在、結婚していますか。(〇印は1つ)



現在、結婚している人は 58.0%で、半数を超えています。一方、結婚していない人は 37.1%で、結婚したが、死別・離別した人が 4.4%となっています。

<属性別>

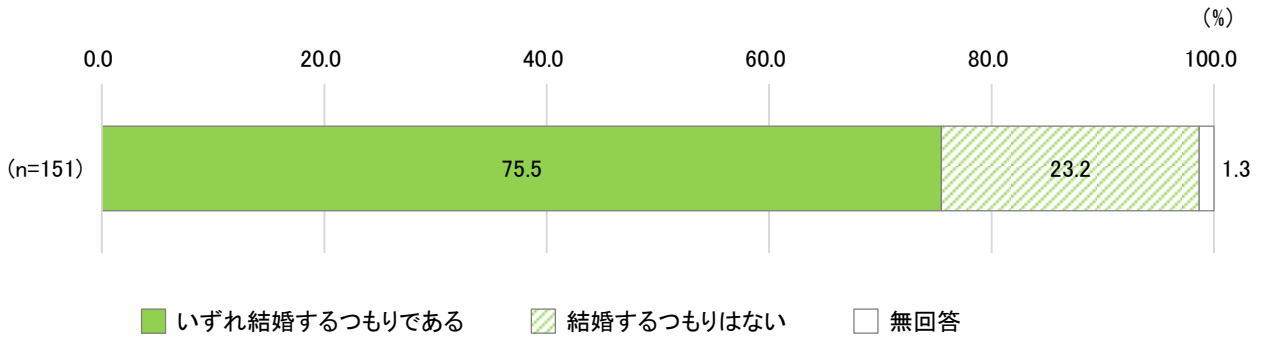


性別にみると、女性の60.8%が現在結婚しており、男性よりも結婚している割合が高くなっています。

年齢別にみると、現在結婚している人は、30～34歳で54.7%と半数を超え、40～44歳で83.6%と最も大きな割合を占めています。

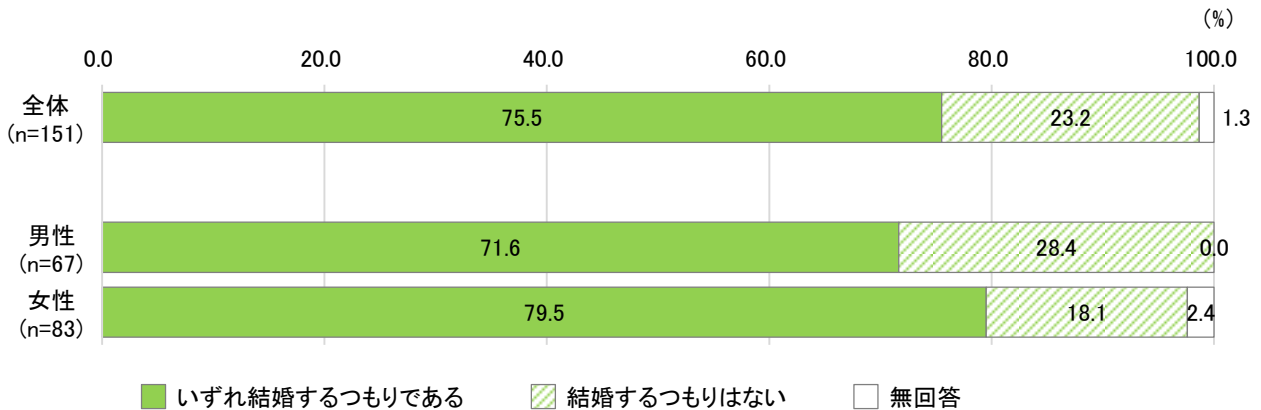
【問1で「結婚したが、死別・離別した」または「結婚していない」を選んだ方に伺います。】

問2. **結婚の意向** 結婚について、あなたのお気持ちに近いのはどれですか。
(○印は1つ)



現在結婚していない人のうち、「いずれ結婚するつもりである」は75.5%となっており、今後の結婚意向のある人が多くなっています。一方、「結婚するつもりはない」は23.2%となっています。

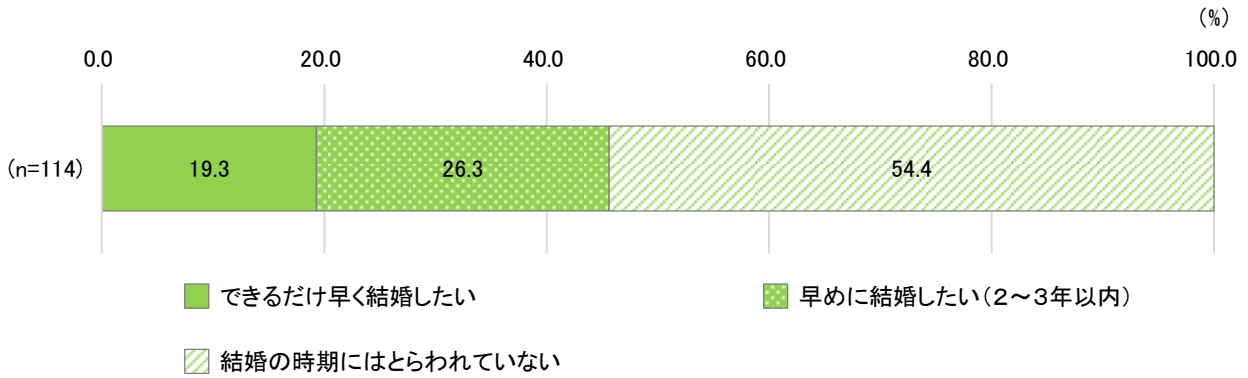
<属性別>



性別にみると、現在結婚していない人のうち、「いずれ結婚するつもりである」は、女性が79.5%、男性が71.6%となっており、女性の方が結婚意向のある割合が高くなっています。

【問2で「いずれ結婚するつもりである」を選んだ方に伺います。】

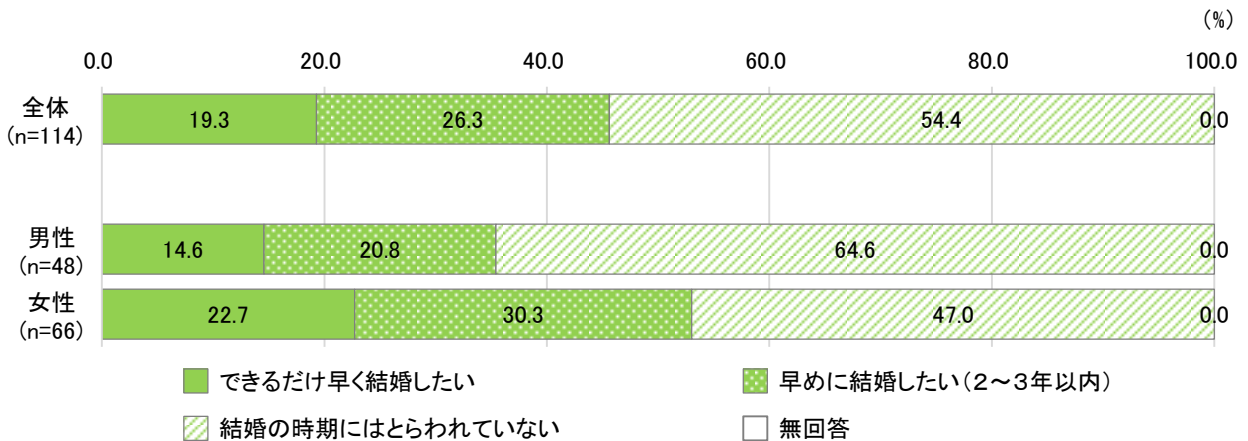
問3. **結婚希望** 希望する結婚の時期について、あなたのお気持ちに近いのはどれですか。(○印は1つ)



結婚意向のある人のうち、「結婚の時期にはとらわれていない」が54.4%と半数を超えて最も多くなっています。

一方、「早めに結婚したい(2~3年以内)」(26.3%)と「できるだけ早く結婚したい」(19.3%)の合計は45.6%で、残りの半数程度は、早めに結婚したいと考えています。

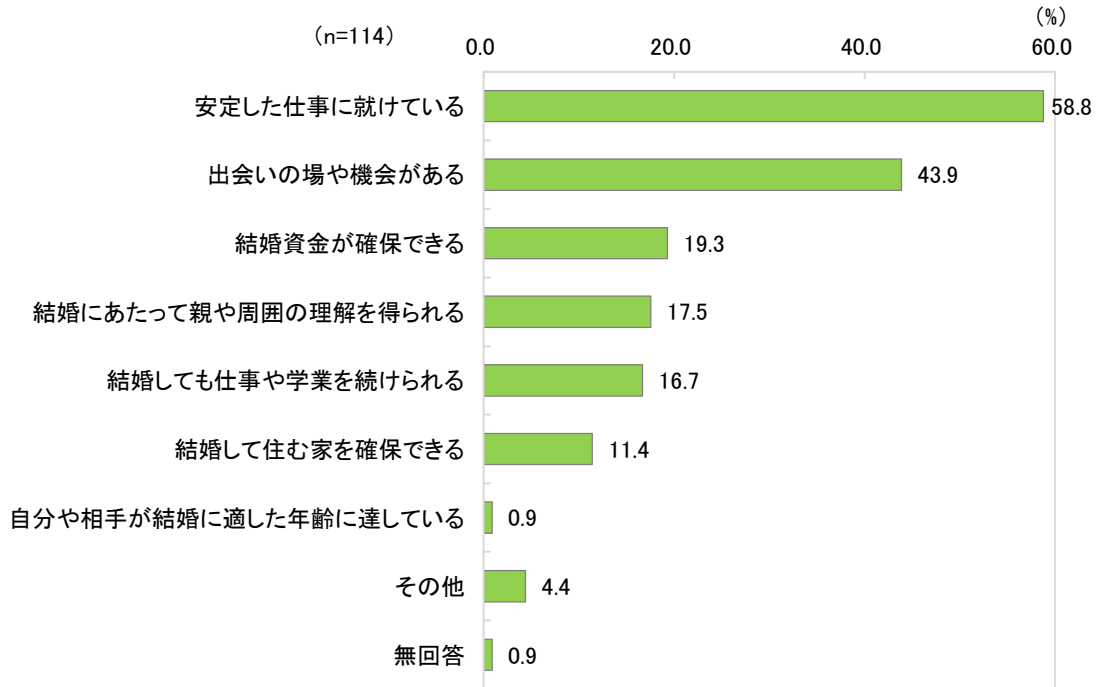
<属性別>



性別にみると、「できるだけ早く結婚したい」または「早めに結婚したい(2~3年以内)」と回答した女性の割合の合計は、53.0%であり、男性よりも女性の方が早めに結婚したいと考えています。一方、男性の半数以上(64.6%)は、「結婚の時期にはとらわれていない」と回答しています。

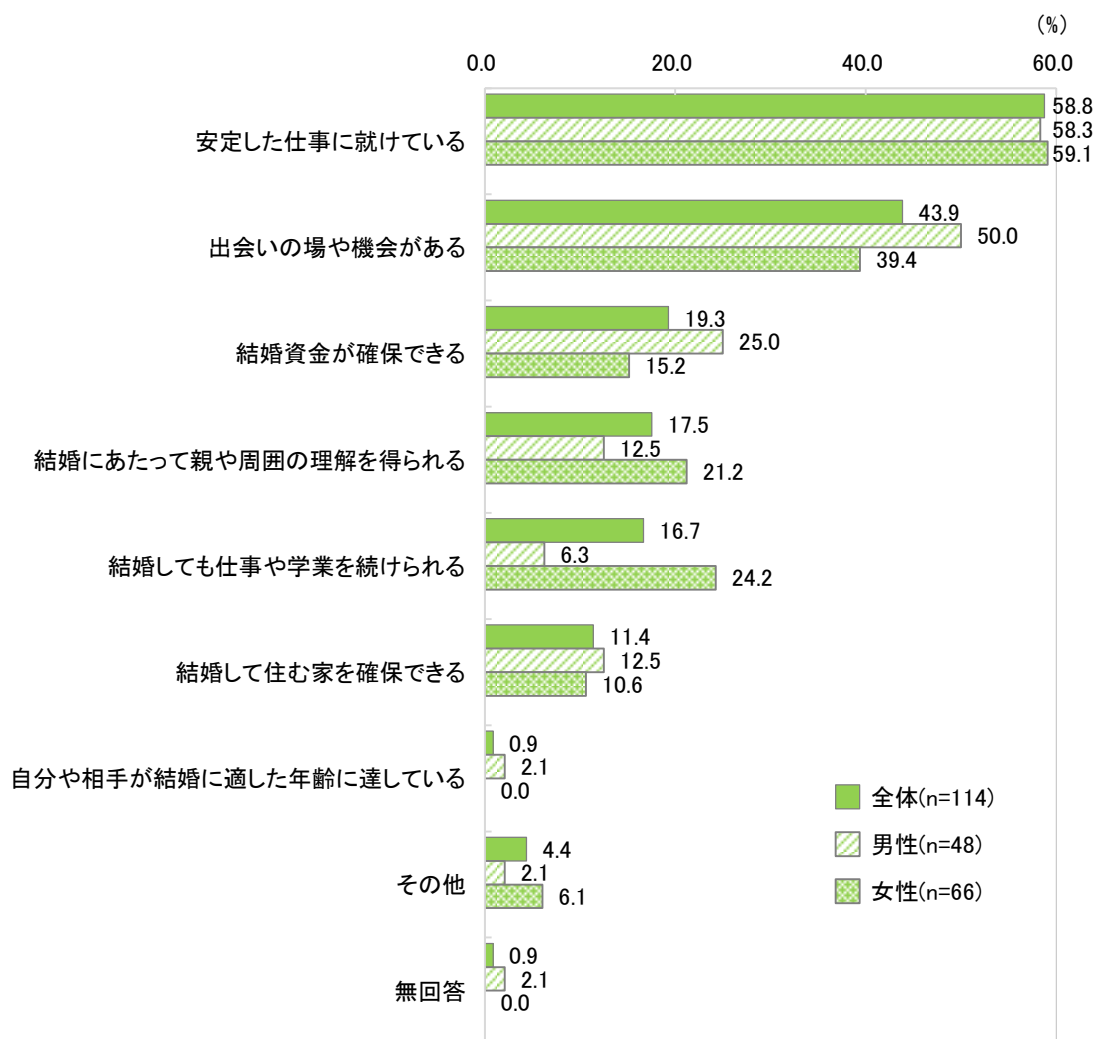
【問2で「いずれ結婚するつもりである」を選んだ方に伺います。】

問4. **結婚の条件** 結婚をするためには、どのような条件が必要だと思いますか。
(○印は2つまで)



結婚の条件として、「安定した仕事に就けている」が 58.8%と半数を超えて最も多くなっています。次いで、「出会いの場や機会がある」が 43.9%となっています。このほか、「結婚資金が確保できる」(19.3%)、「結婚にあたって親や周囲の理解を得られる」(17.5%)、「結婚しても仕事や学業を続けられる」(16.7%)と続いています。

<属性別>

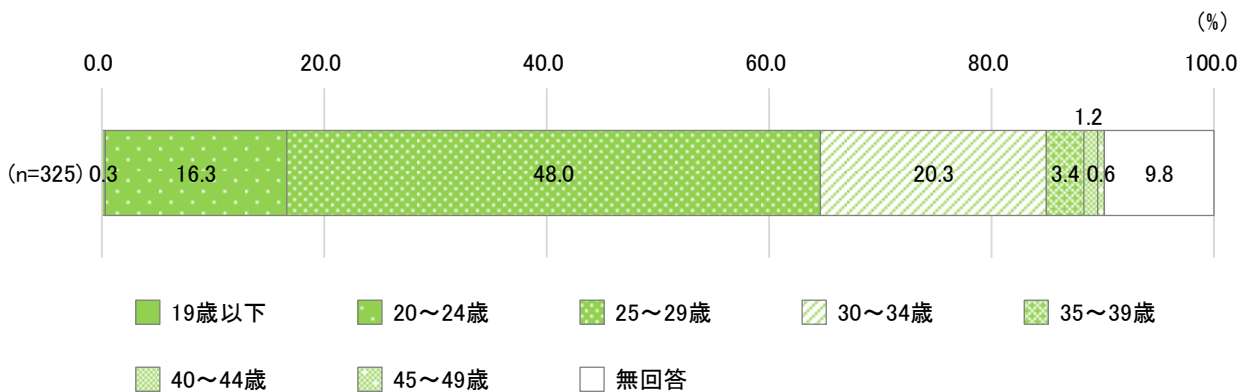


性別にみると、男女ともに「安定した仕事に就けている」、「出会いの場や機会がある」を結婚の条件として上位に挙げていますが、「出会いの場や機会がある」については、女性よりも男性の割合が多くなっています。また、男性は、「結婚資金が確保できる」について25.0%と、女性（15.2%）よりも高い割合になっています。

一方、女性は、「結婚しても仕事や学業を続けられる」について24.2%と、結婚の条件として上位に挙げています。

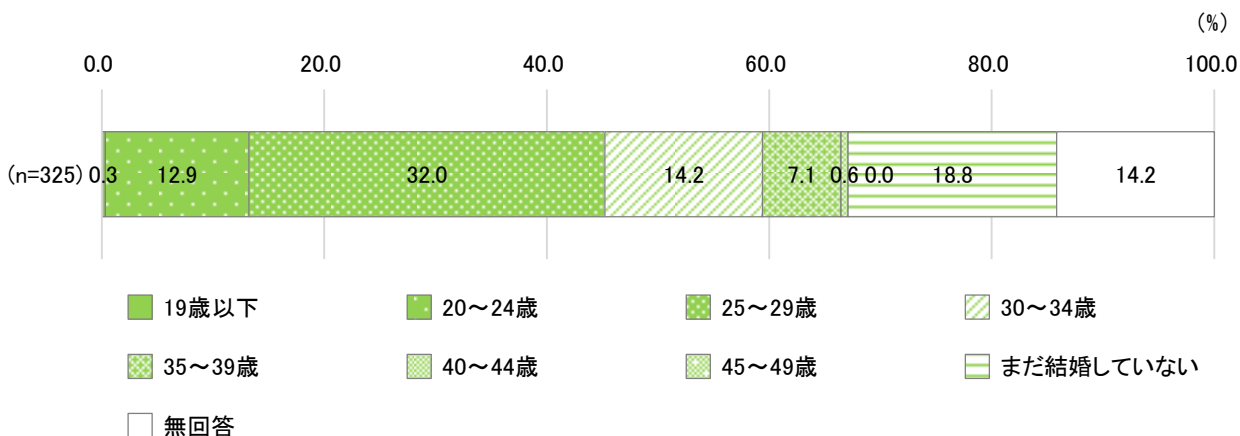
問5. **結婚希望年齢** すでに結婚している方は、初めての結婚以前のお考えをお答えください。あなたは、何歳くらいのときに結婚したいと思いますか（思いましたか）。また、実際には、何歳で結婚しましたか。（（1）と（2）それぞれ○印は1つ）

（1）結婚を希望する年齢（理想）



結婚を希望する理想の年齢は、25~29歳が最も多く、48.0%となっています。次いで、30~34歳が20.3%、20~24歳が16.3%、35~39歳が3.4%となっています。

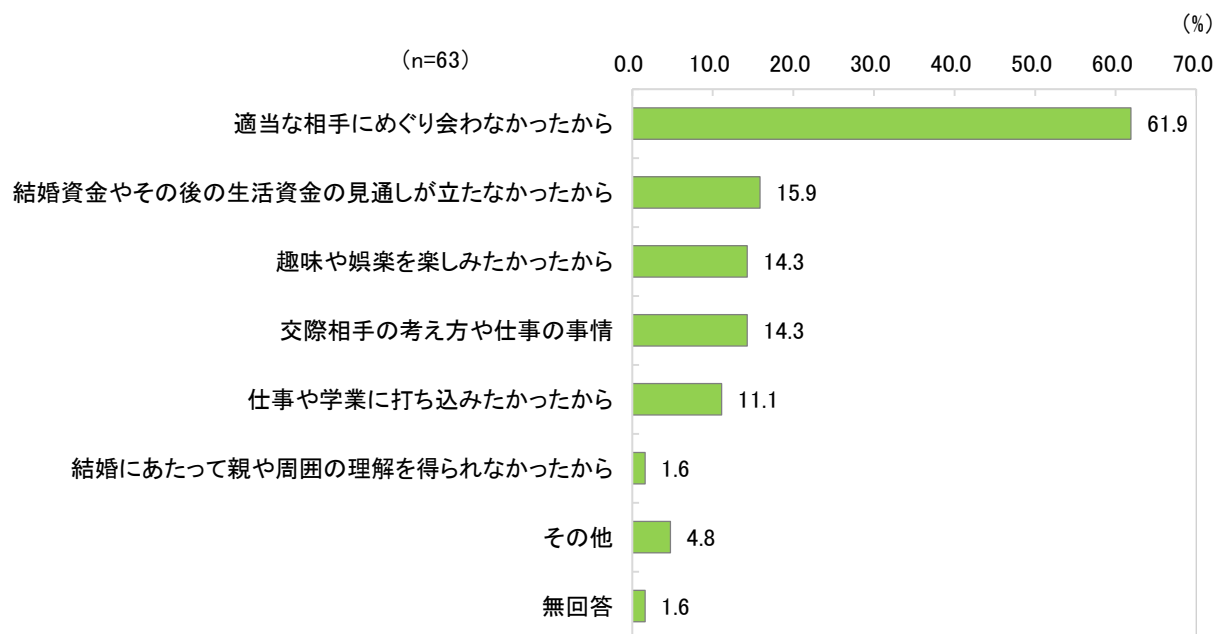
（2）初めて結婚した年齢（現実）



現実において、初めて結婚した年齢は、25~29歳が最も多く32.0%となっていますが、この年代での結婚を希望する割合よりも16.0ポイント下回っています。同様に、20~24歳、30~34歳の各年代でも、理想よりも現実に結婚した割合は、低くなっています。一方で、35~39歳で結婚した割合は、7.1%であり、この年代での結婚を希望する割合よりも2倍程度高くなっています。全体として、現実に結婚した年齢は、理想よりも上回る傾向があります。

【問5で「(1) 結婚を希望する年齢」より「(2) 初めて結婚した年齢」が上回った方に伺います。】

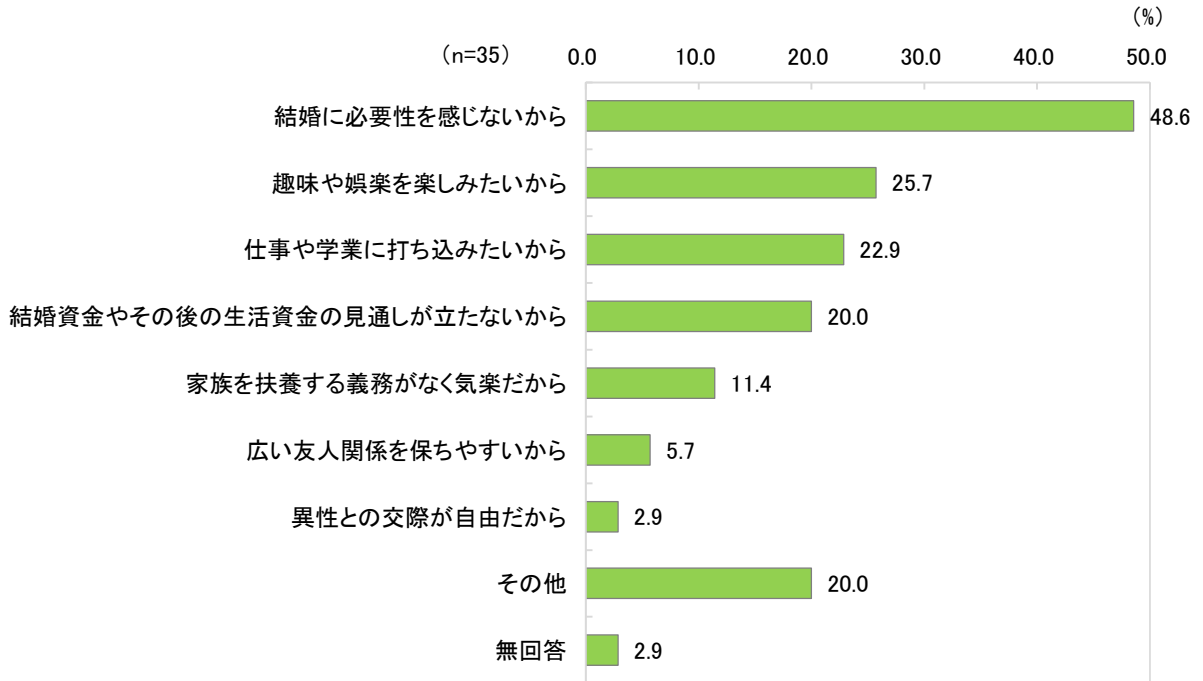
問6. 理想より現実の年齢が上回った理由 結婚について、結婚を希望する年齢より初めて結婚した年齢が上回った理由は何ですか。(〇印は2つまで)



結婚を希望する理想の年齢より、現実の年齢が上回った理由は、「適当な相手にめぐり会わなかったから」が 61.9%で、最も多くなっています。次いで、「結婚資金やその後の生活資金の見通しが立たなかったから」が 15.9%となっています。また、「趣味や娯楽を楽しみたかったから」(14.3%)、「交際相手の考え方や仕事の事情」(14.3%)、「仕事や学業に打ち込みたかったから」(11.1%)と続いています。

【問2で「結婚するつもりはない」を選んだ方に伺います。】

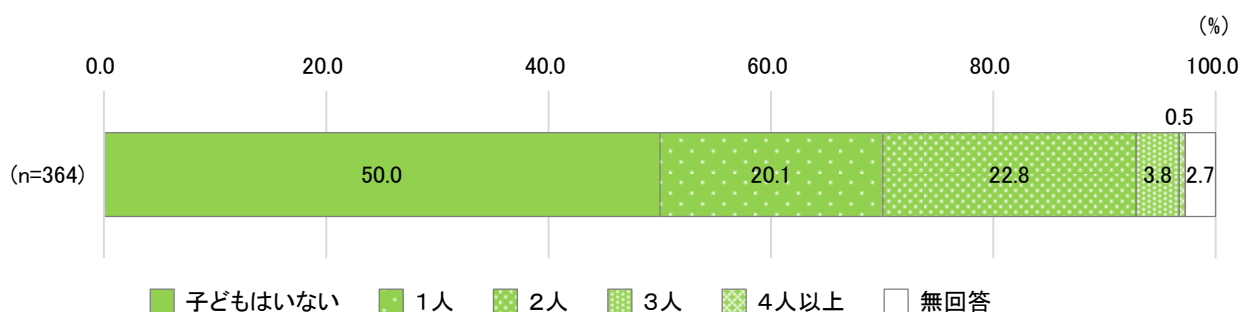
問7. **結婚の意向がない理由** 「結婚をするつもりはない」と回答した理由として、あなたのお気持ちに近いものは何ですか。(〇印は2つまで)



結婚の意向がない理由としては、「結婚に必要性を感じないから」が48.6%で、最も多くなっています。次いで、「趣味や娯楽を楽しみたいから」(25.7%)、「仕事や学業に打ち込みたいから」(22.9%)、「結婚資金やその後の生活資金の見通しが立たなかったから」(20.0%)と続いています。

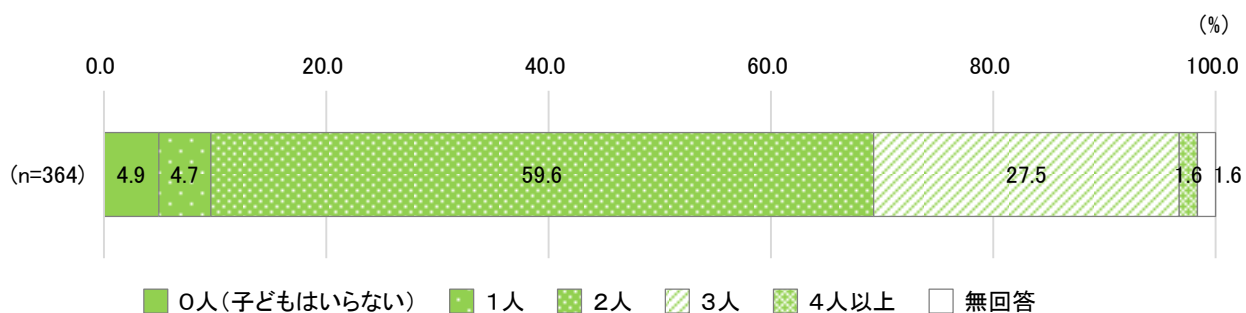
3. 出産・子育てについて

問8. **子どもの有無** あなたにはお子さんが何人いますか。(〇印は1つ)



子どもの有無については、子どもはいない人が 50.0%と半数を占めています。一方、子どもがいる人のうち、子どもが「1人」は 20.1%、「2人」は 22.8%と同程度となっています。子どもが「3人」(3.8%)、あるいは「4人以上」(0.5%) いる人は、わずかとなっています。

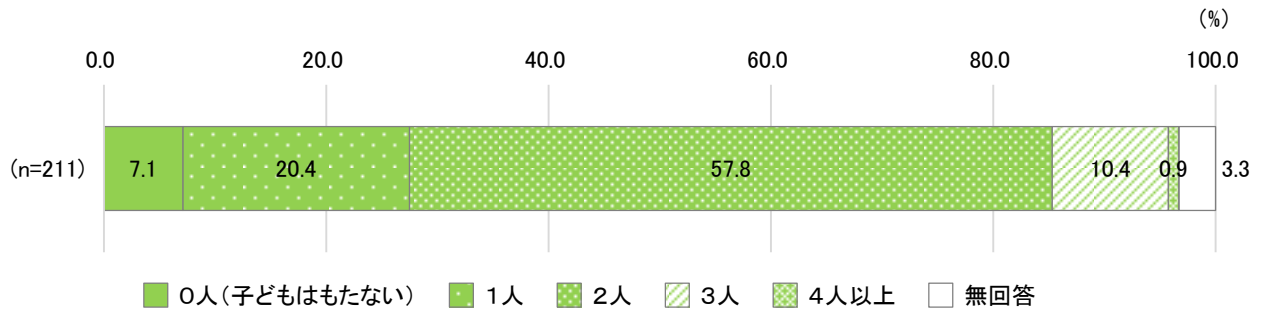
問9. **理想的な子ども数** 結婚や子育て経験の有無にかかわらず、あなた自身は子どもを何人持つのが理想だと思いますか。(〇印は1つ)



理想的な子どもの数は、「2人」が59.6%で最も多く、次いで「3人」が27.5%となっています。また、「1人」は4.7%、「4人以上」は1.6%となっています。一方、「0人(子どもはいらない)」は4.9%となっています。

【結婚している方に伺います。】

問10. **最終的な子ども数** あなた方ご夫婦は、生涯で何人のお子さんを持つおつもりですか。(〇印は1つ)

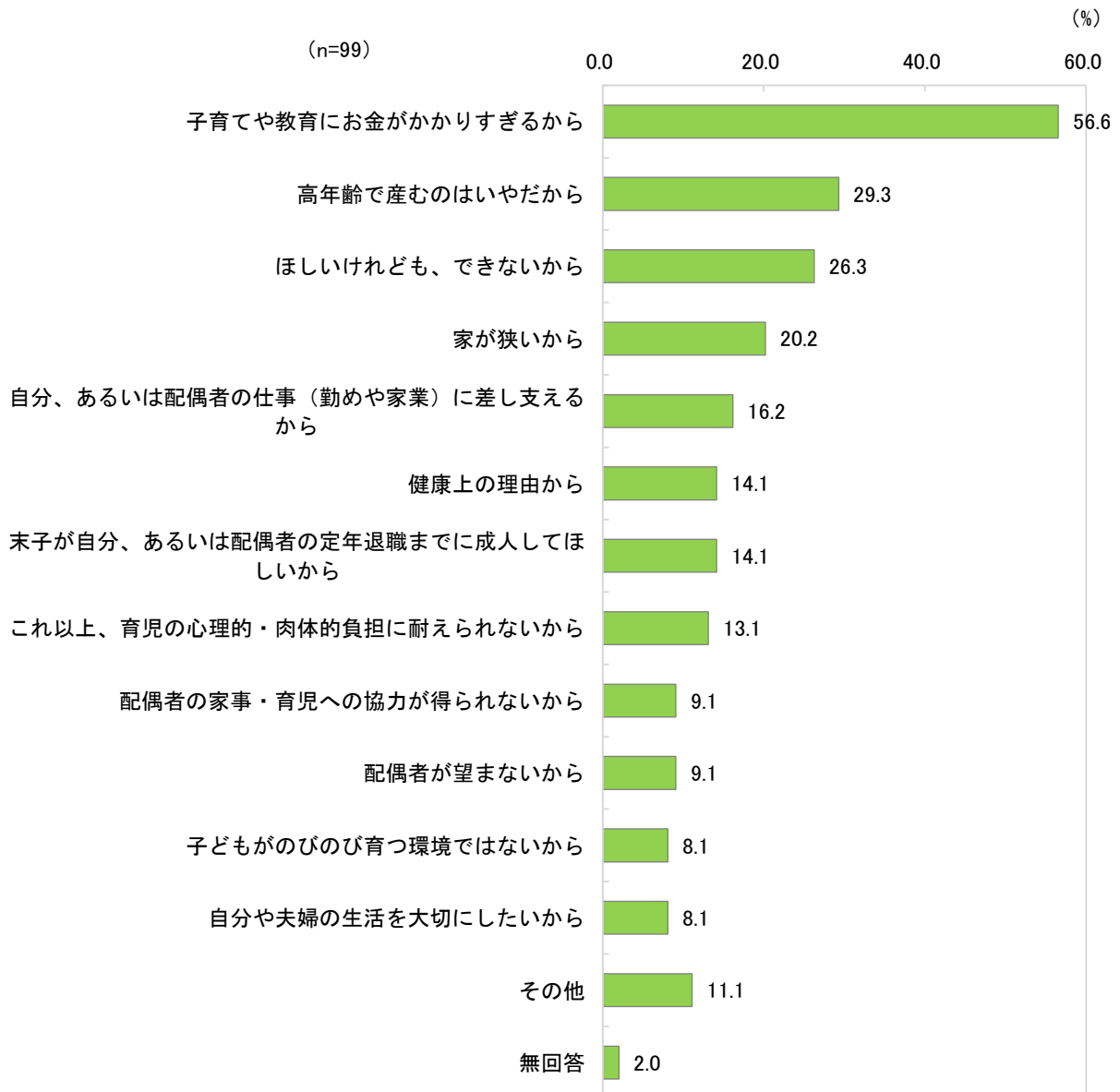


結婚している人のうち、生涯で持つつもりの子どもの数は、「2人」が57.8%と最も多くなっています。次いで「1人」が20.4%、「3人」が10.4%となっています。また、「0人(子どもはもたない)」が7.1%、「4人以上」が0.9%と続いています。

なお、蕨市の希望出生率は1.55で、国民希望出生率1.8程度を下回っています。

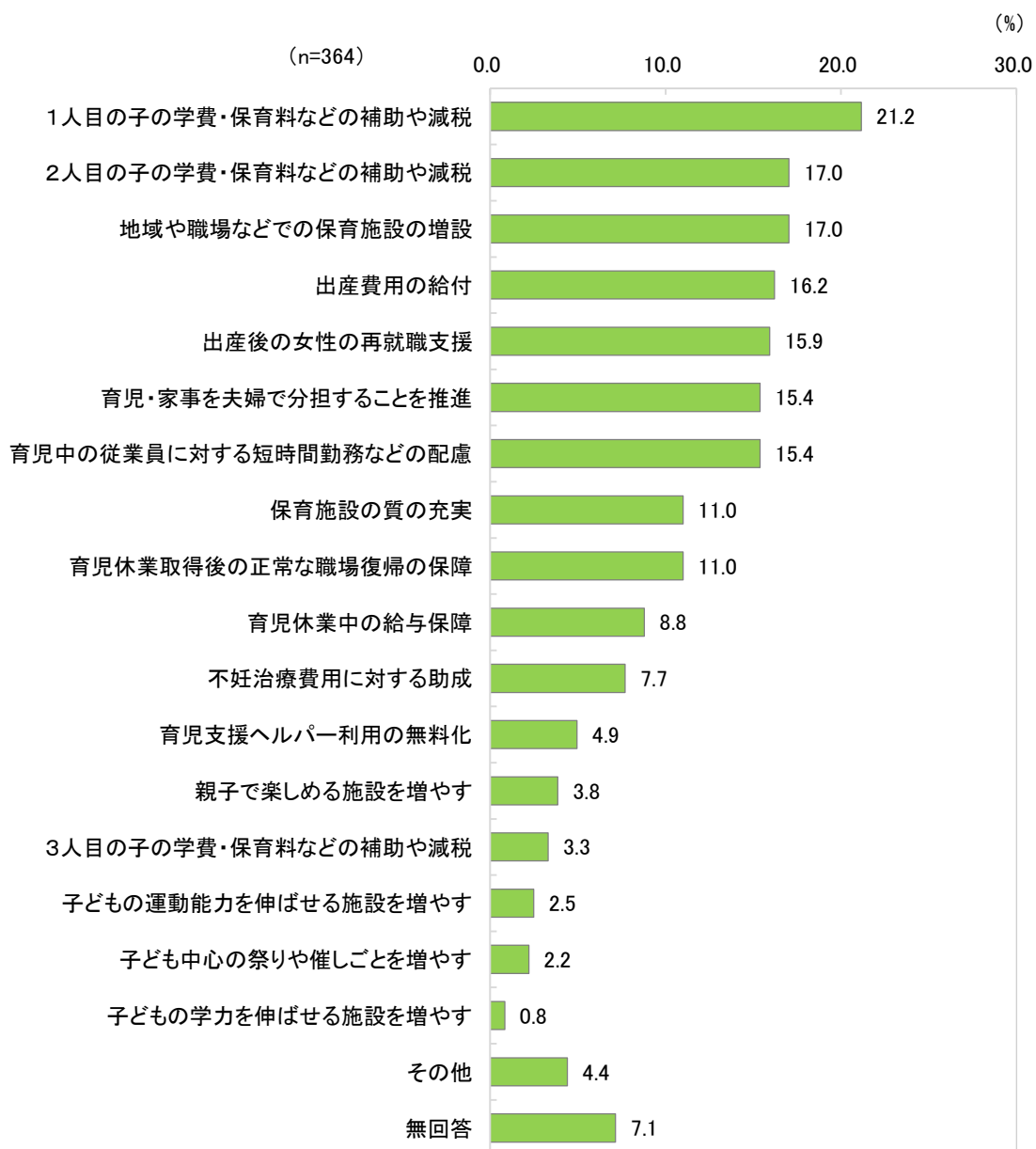
【問10（最終的な子ども数）が問9（理想的な子ども数）より少ない方に伺います。】

問11. **持つつもりの子どもの数が少ない理由** 最終的な子どもの数が、理想とする子ども数より少ないのは、なぜですか。（○印はあてはまるものすべて）



最終的な子どもの数が、理想とする子どもの数より少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」という経済的理由が最も多く、56.6%と半数を超えています。次いで、「高年齢で産むのはいやだから」が29.3%、「ほしいけれども、できないから」が26.3%と続いており、身体的な理由が上位となっています。このほか、「家が狭いから」（20.2%）、「自分、あるいは配偶者の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」（16.2%）と続いています。また、「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」（13.1%）、「配偶者の家事・育児への協力が得られないから」（9.1%）といった育児負担に関する理由も挙げられています。

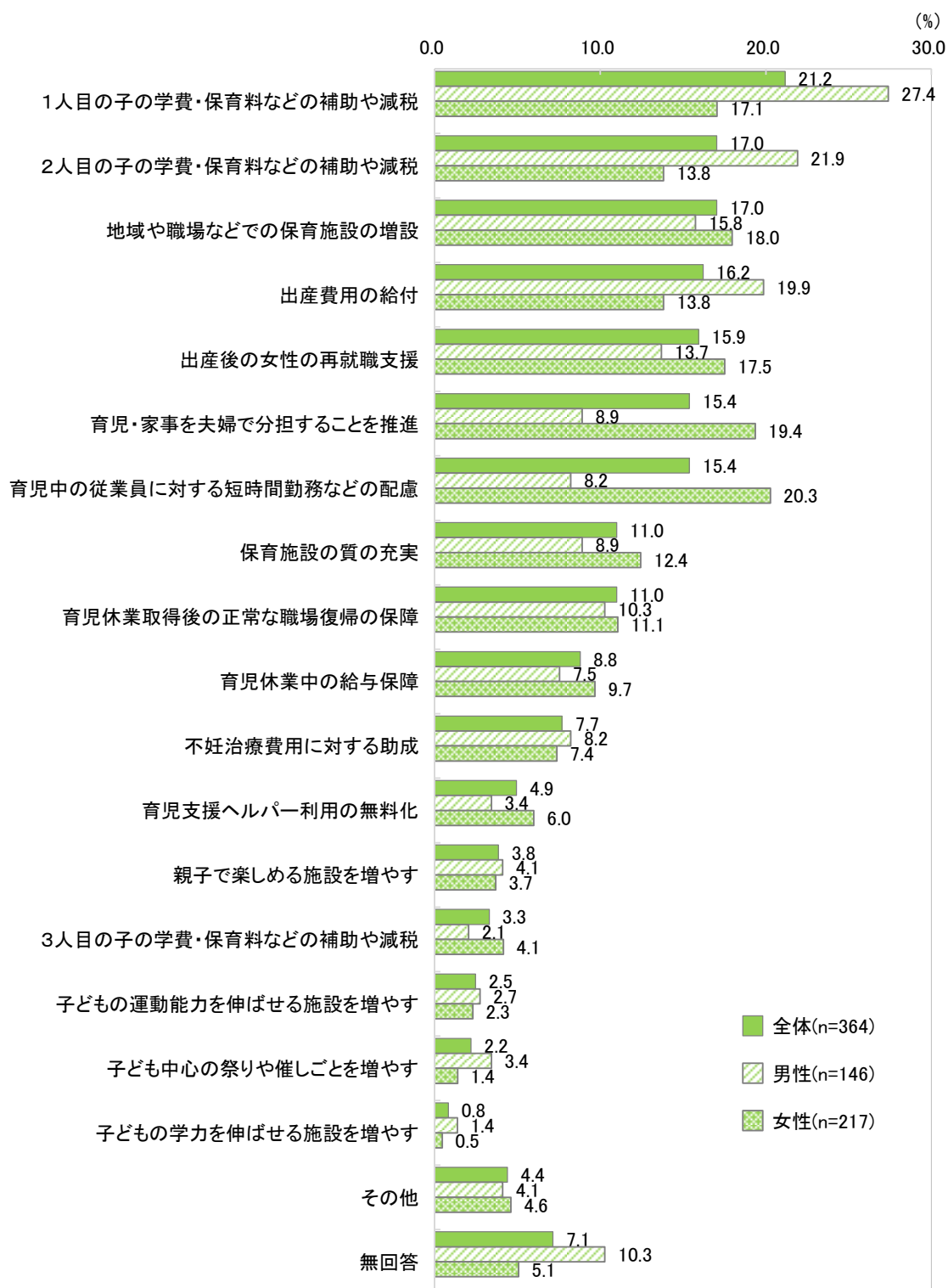
問12. 子どもを持つ上で有効だと思う支援 子どもを産み育てるための意欲を高めるためには、どのような対策が効果的だと思いますか。(〇印は2つまで)



子どもを持つ上で有効な支援について、「1人目の子の学費・保育料などの補助や減税」(21.2%)と「2人目の子の学費・保育料などの補助や減税」(17.0%)の合計は38.2%と、学費や保育料などの支援が上位を占めています。次いで、「地域や職場などでの保育施設の増設」(17.0%)、「出産費用の給付」(16.2%)、「出産後の女性の再就職支援」(15.9%)、「育児・家事を夫婦で分担することを推進」(15.4%)、「育児中の従業員に対する短時間勤務などの配慮」(15.4%)が15%を超えています。

全般的にみて、子育てに対する経済的支援が特に有効だと考えられています。また、保育施設に対する支援や、就業支援、育児・家事の分担が上位となっていることから、子育てと仕事の両立支援対策が効果的と考えられている傾向があります。

<属性別>

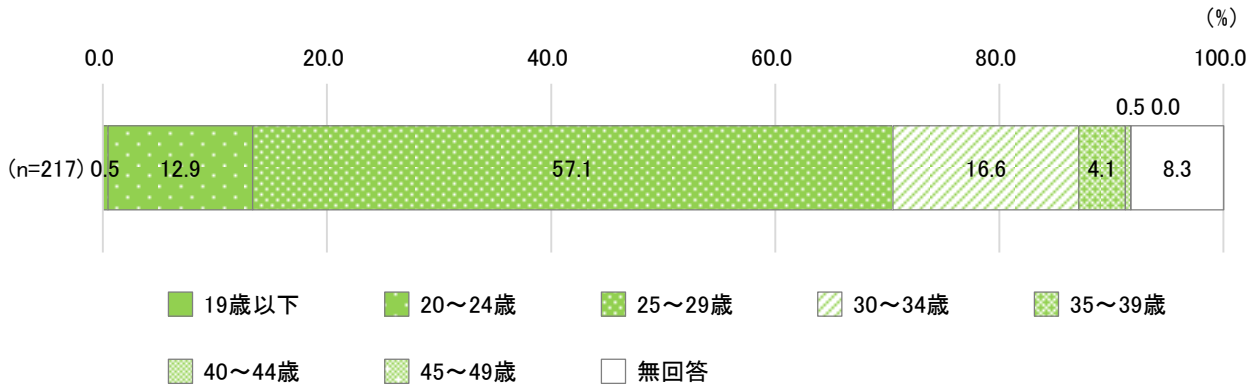


性別にみると、男性では、「学費・保育料などの補助や減税」(1人目と2人目の合計49.3%)、「出産費用の給付」(19.9%)といった経済的な支援が上位となっています。一方、女性は、「育児中の従業員に対する短時間勤務などの配慮」(20.3%)、「出産後の女性の再就職支援」(17.5%)のほか、「育児・家事を夫婦で分担することを推進」(19.4%)といった働き方への配慮や育児・家事の分担などが上位となっています。

【女性の方に伺います。】

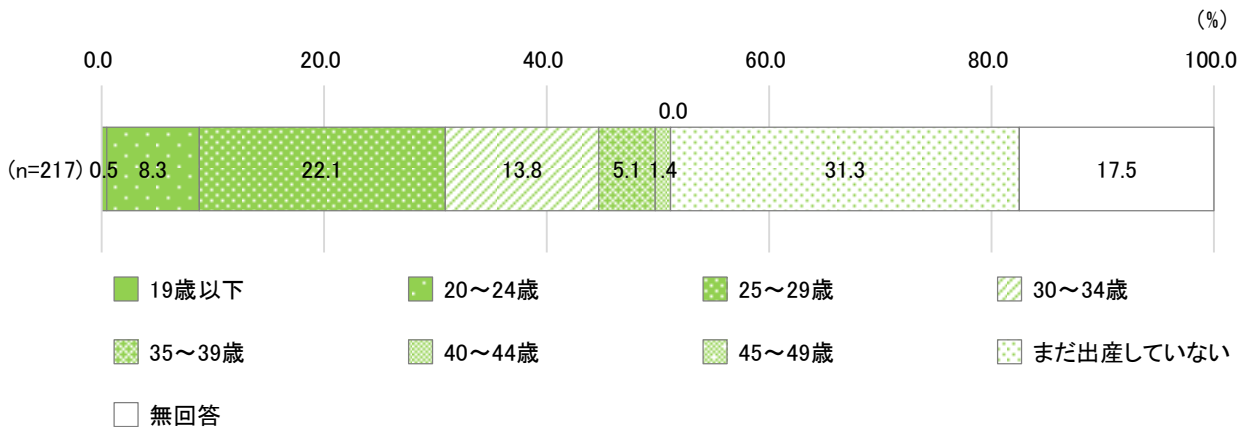
問13. **出産希望年齢** あなたは、第一子を何歳くらいのときに出産したいと思いますか。すでに出産している方は、出産以前のお考えをお答えください。また、実際には、何歳で出産しましたか。(1)と(2)それぞれ〇印は1つ)

(1) 出産を希望する年齢 (理想)



女性にとって、出産を希望する理想の年齢は、25~29歳が57.1%と半数を超えて最も多くなっています。次いで、30~34歳が16.6%、20~24歳が12.9%となっています。

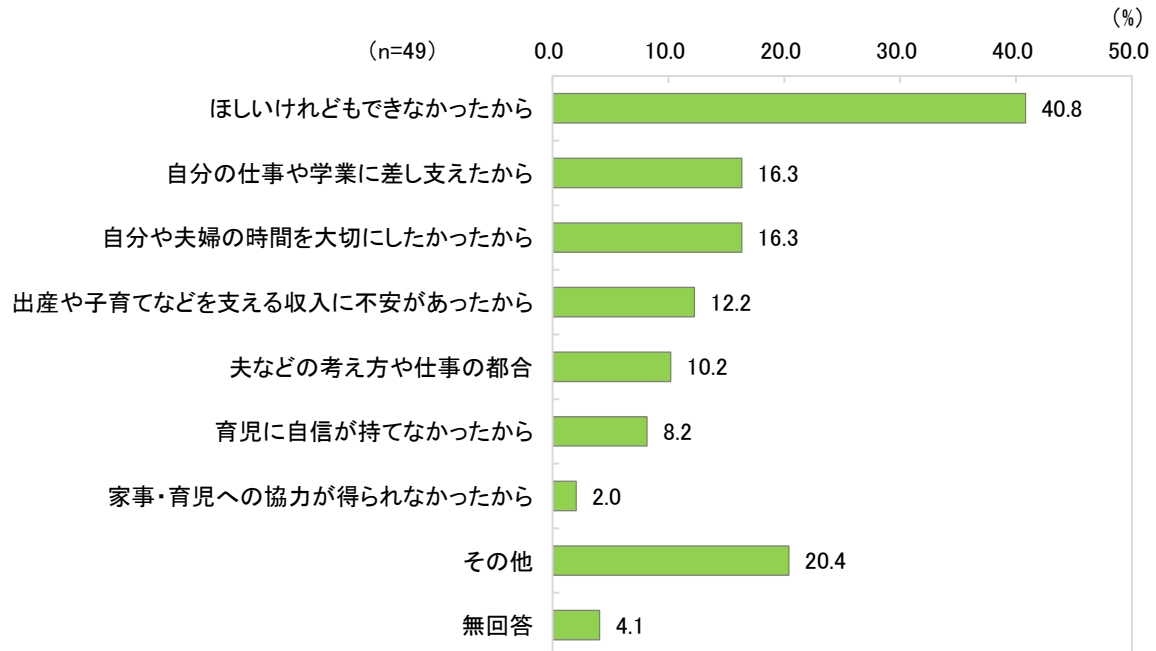
(2) 初めて出産した年齢 (現実)



現実では、初めて出産した年齢は、25~29歳が22.1%で最も多く、次いで30~34歳が13.8%、20~24歳が8.3%となっています。また、「まだ出産していない」が31.3%となっています。全体として、現実には初めて出産した年齢は、出産を希望する理想の年齢よりも上回る傾向があります。

【問13で「(1) 出産を希望する年齢」より「(2) 初めて出産した年齢」が上回った方に
伺います。】

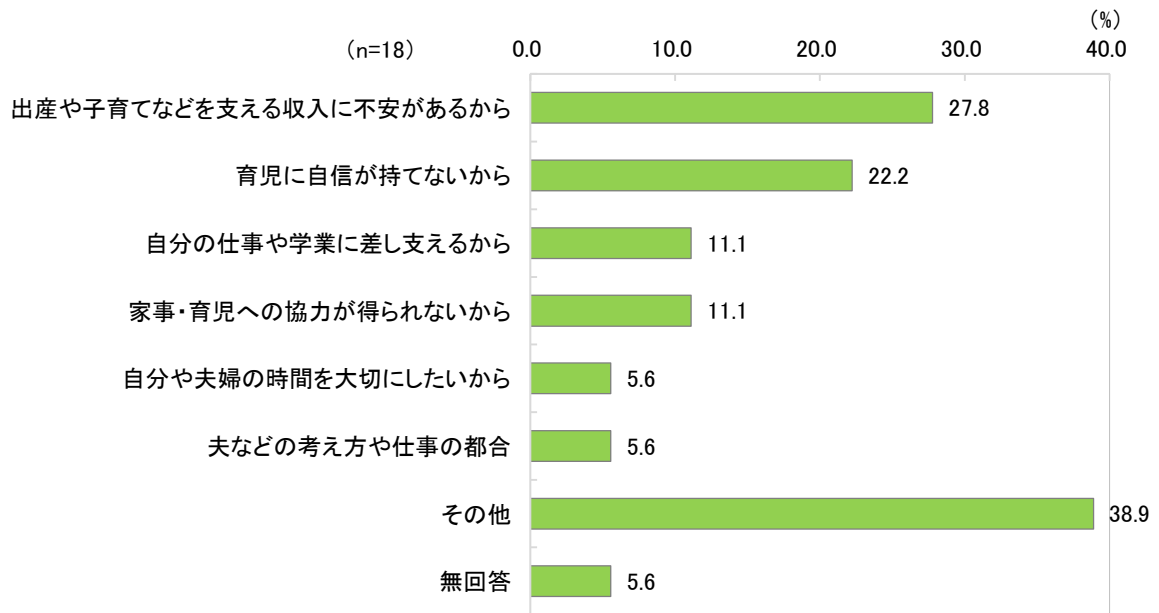
問14. 理想より現実の年齢が上回った理由 出産について、出産を希望する年齢より初めて
出産した年齢が上回った理由は何ですか。(○印は2つまで)



出産について、出産を希望する理想の年齢より、現実の年齢が上回った理由としては、「ほしいけれどもできなかったから」が40.8%と最も多くなっています。次いで、「自分の仕事や学業に差し支えたから」「自分や夫婦の時間を大切にされたから」がともに16.3%、「出産や子育てなどを支える収入に不安があったから」が12.2%となっています。

【出産するつもりはない方に伺います。】

問15. **出産の意向がない理由** 「出産をするつもりはない」と考える理由として、あなたのお気持ちに近いものは何ですか。(〇印は2つまで)

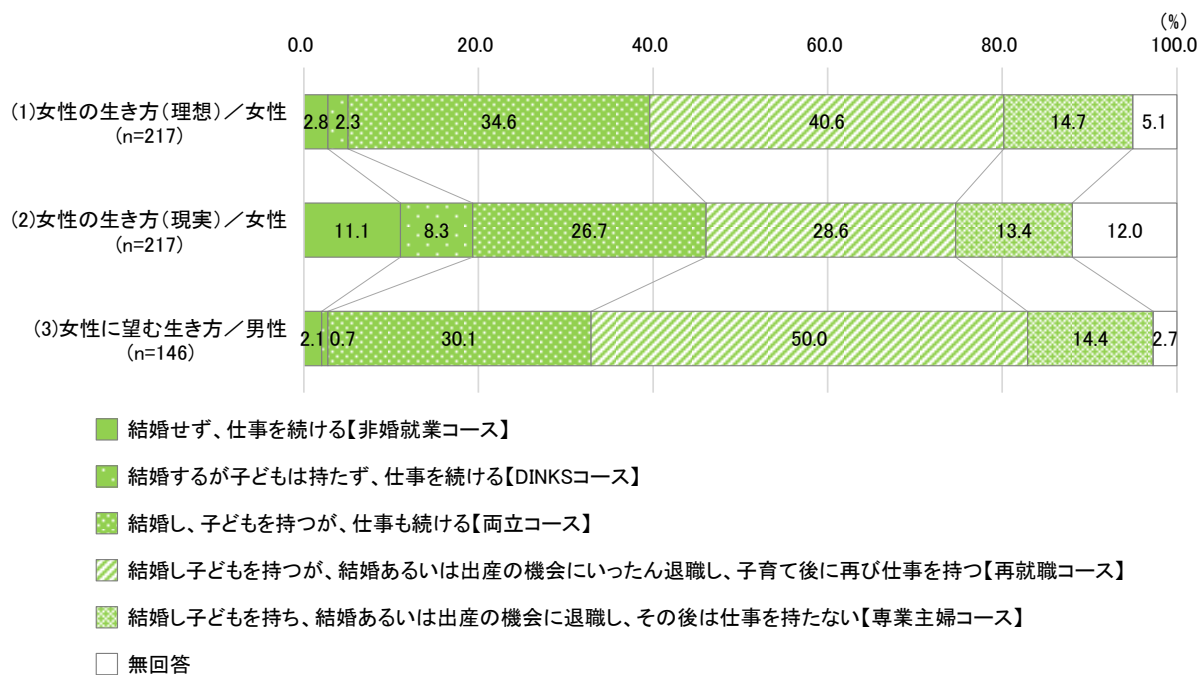


女性で出産の意向がないと回答した人は、8.3%となっています。

出産の意向がない理由としては、「出産や子育てなどを支える収入に不安があるから」が27.8%、「育児に自信が持てないから」が22.2%となっています。このほか、「自分の仕事や学業に差し支えるから」や、「家事・育児への協力が得られないから」がともに11.1%となっています。

4. 仕事と生活について

問16. **女性の結婚・出産・働き方** あなたの理想とする女性の生き方はどのタイプですか。また、理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。（男性は、女性に望む生き方をお答えください。）（女性は「(1) 理想」と「(2) 現実」の両方について、男性は「(3) 女性に望む生き方」について、それぞれ a~e のタイプのうち最も近いものを選んで、回答欄に○印を1つ）



注：【非婚就業コース】等の呼称は、第14回出生動向基本調査の結果概要（国立社会保障・人口問題研究所）による。

DINKS とは、Double Income No Kid の略。共働きで子どもを持たない、意識的につくらない夫婦を指す。

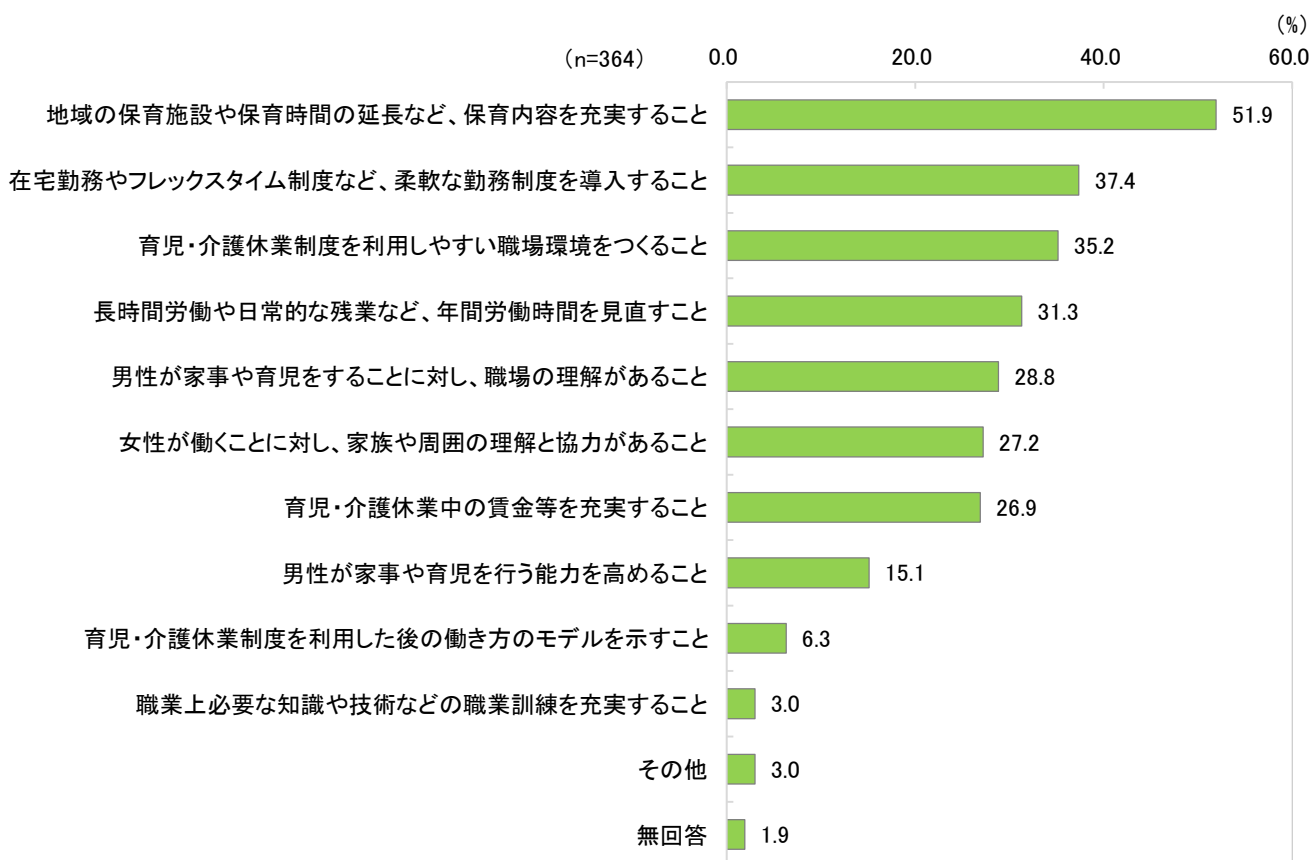
女性の理想の生き方のタイプは、「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」再就職コースが 40.6% と最も多くなっています。次いで、「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」両立コースが 34.6% となっています。

一方で、女性の現実の生き方のタイプは、再就職コースが 28.6%、両立コースが 26.7% とほぼ同等の割合となっており、それぞれ理想よりも少ない割合となっています。次いで、「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」専業主婦コースが 13.4% となっています。また、「結婚せず、仕事を続ける」非婚就業コース (11.1%) と「結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける」DINKS コース (8.3%) は、理想よりも多い割合となっています。

男性が女性に望む生き方のタイプとしては、再就職コースが 50.0% と最も多くなっています。次いで、両立コースが 30.1%、専業主婦コースが 14.4% となっています。

全般的に、男女とも、再就職コースあるいは両立コースの割合が多いことから、子どもを持ち仕事も続ける女性の生き方が理想ですが、現実にはやや難しい傾向にあります。

問17. **仕事と生活の調和（ワークライフバランス）実現のために** あなたは、仕事と家庭の両立を希望する人のために、どのようなことが必要だと思いますか。
 （〇印は3つまで）

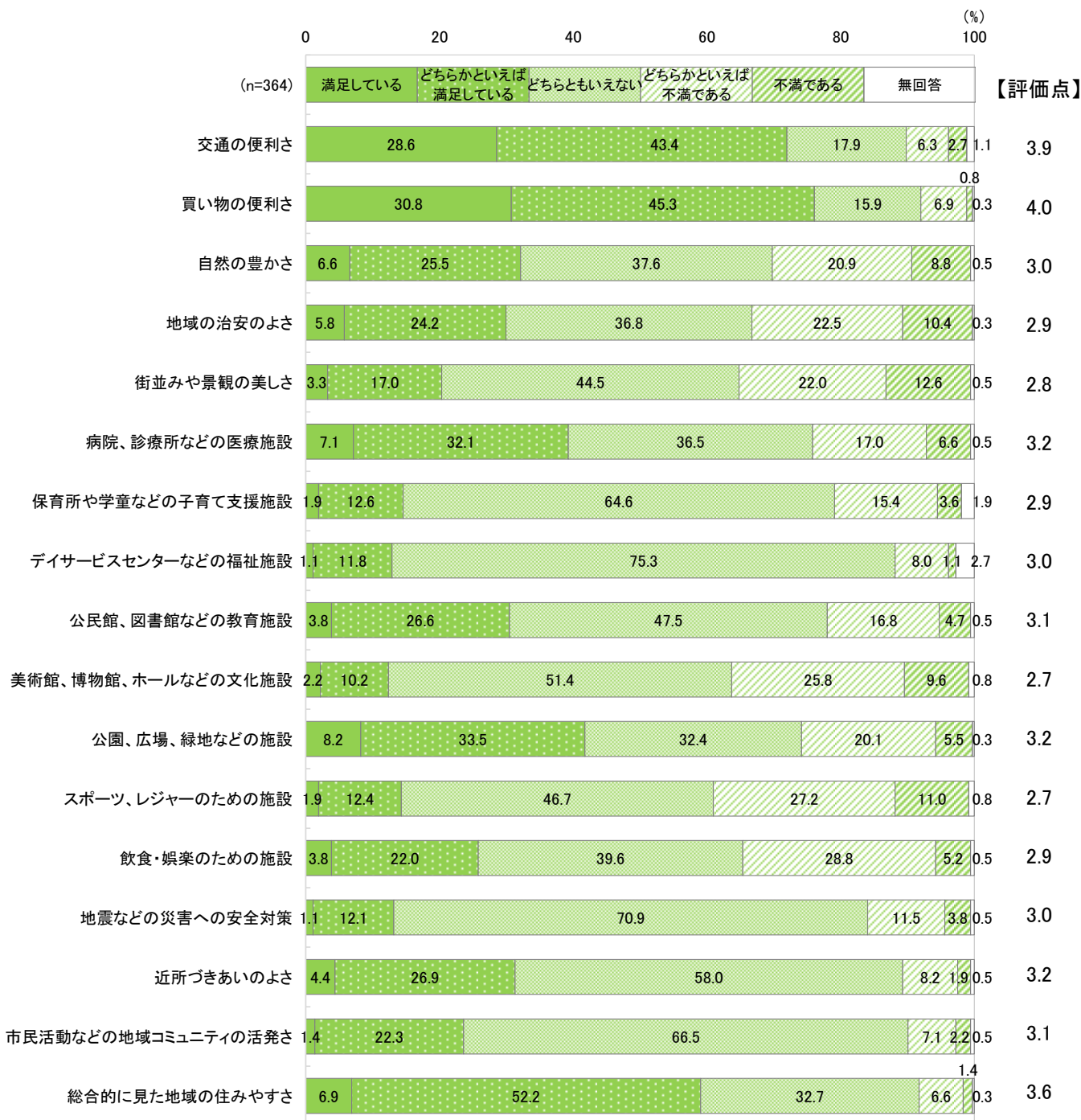


仕事と生活の調和（ワークライフバランス）実現のために必要なこととしては、「地域の保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実すること」が51.9%と最も多くなっています。次いで、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度の導入」（37.4%）、「育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境」（35.2%）、「長時間労働や日常的な残業など、年間労働時間の見直し」（31.3%）が30%を超えて上位になっています。このほか、「男性が家事や育児をすることに対し、職場の理解があること」（28.8%）、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」（27.2%）、「育児・介護休業中の賃金等を充実すること」（26.9%）が25%を超えています。

全般的に、保育の充実と、柔軟な働き方、および仕事と家庭の両立への理解が、ワークライフバランス実現のために必要と考えられている傾向があります。

5. 藤市のまちづくりについて

問18. **満足度** あなたの普段の生活に対する満足度について、お答えください。
 ((1)～(17)それぞれについて○印は1つ)



満足度の評価点平均 3.1

注：満足度の評価点は、「満足している・どちらかといえば満足している・どちらともいえない・どちらかといえば不満である・不満である」の回答数に、「5・4・3・2・1」点を与え、その合計を回答数（無回答を除く）で除して算出。

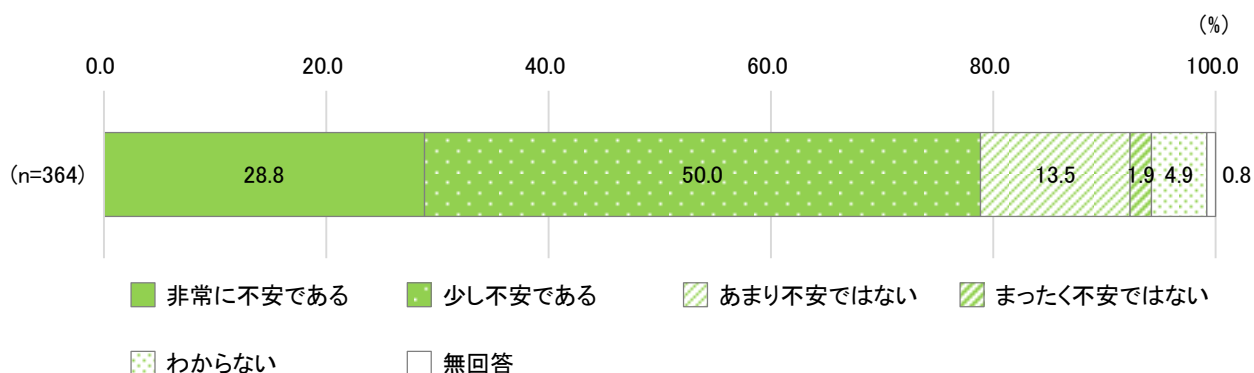
全項目に対する満足度の評価点の平均は、3.1です。

普段の生活に対する満足度の評価点は、「買い物の便利さ」(4.0)、「交通の便利さ」(3.9)において高くなっています。

一方、「美術館、博物館、ホールなどの文化施設」(2.7)、「スポーツ、レジャーのための施設」(2.7)、「街並みや景観の美しさ」(2.8)に対する満足度は低くなっています。また、「地域の治安のよさ」(2.9)、「保育所や学童などの子育て支援施設」(2.9)、「飲食・娯楽のための施設」(2.9)に対する満足度も低くなっています。

「総合的に見た地域の住みやすさ」は、3.6となっています。

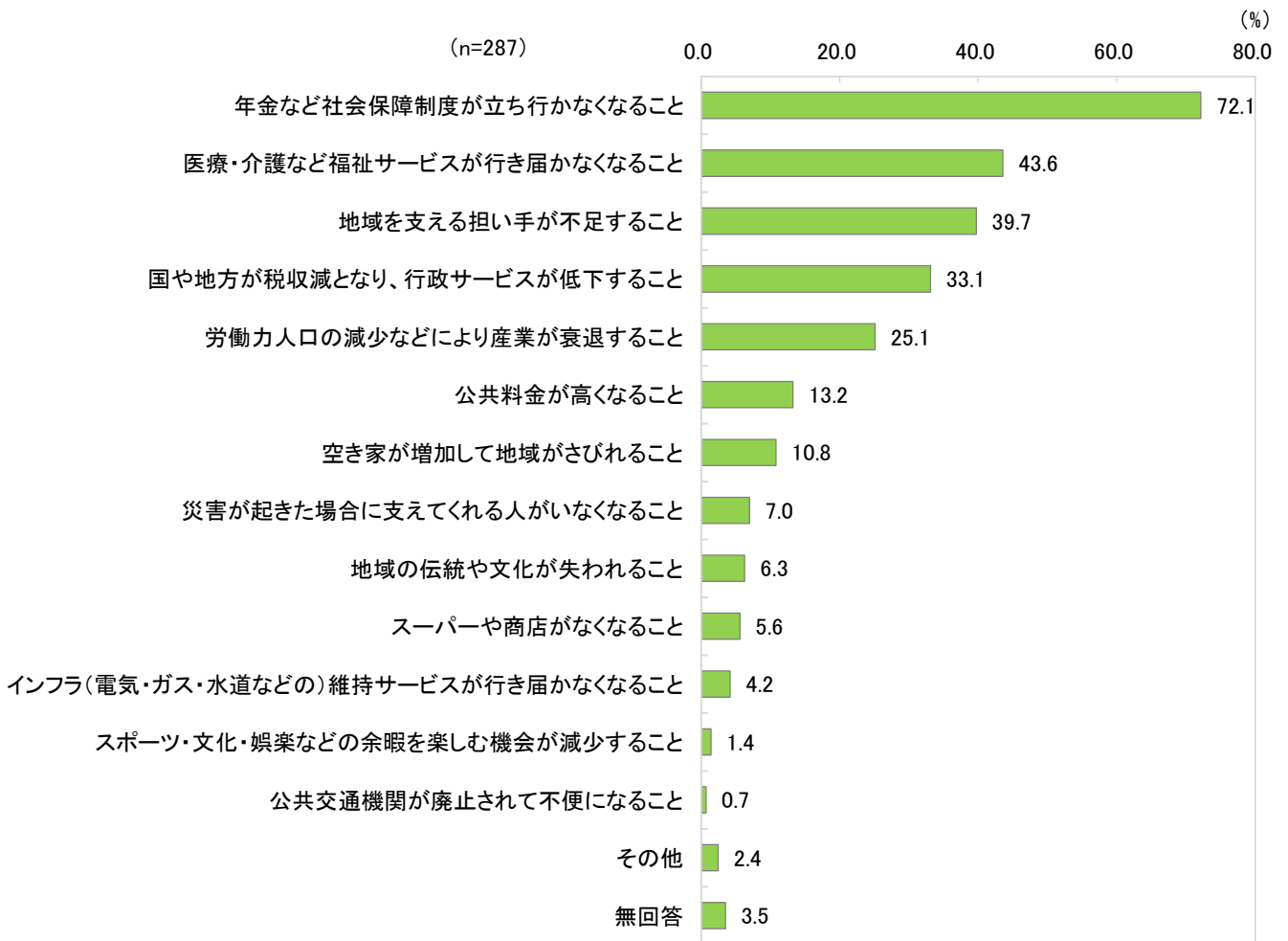
問19. **人口問題に対する不安** あなたは人口減少や高齢化といった人口問題に対して不安
 がありますか。(〇印は1つ)



人口減少や高齢化といった人口問題に対して、「非常に不安である」(28.8%)、または「少し不安である」(50.0%)の合計は、78.8%となっています。一方、「あまり不安ではない」(13.5%)、または「まったく不安ではない」(1.9%)の合計は、15.4%であり、多くの人が人口問題に対して不安を感じている傾向にあります。

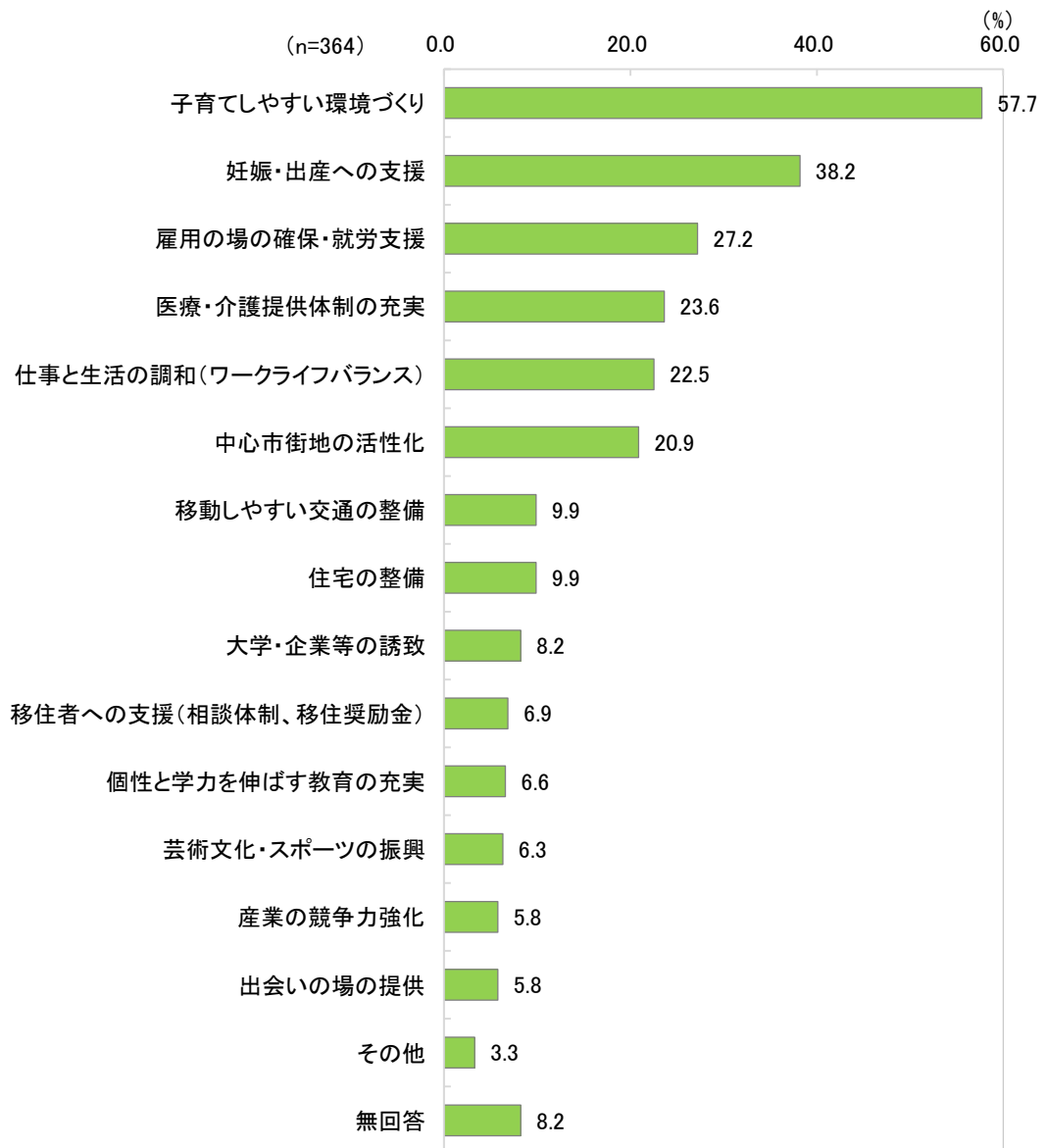
【問19で「非常に不安である」または「少し不安である」を選んだ方に伺います。】

問20. **不安の内容** 人口問題に対して、どのような不安がありますか。(〇印は3つまで)



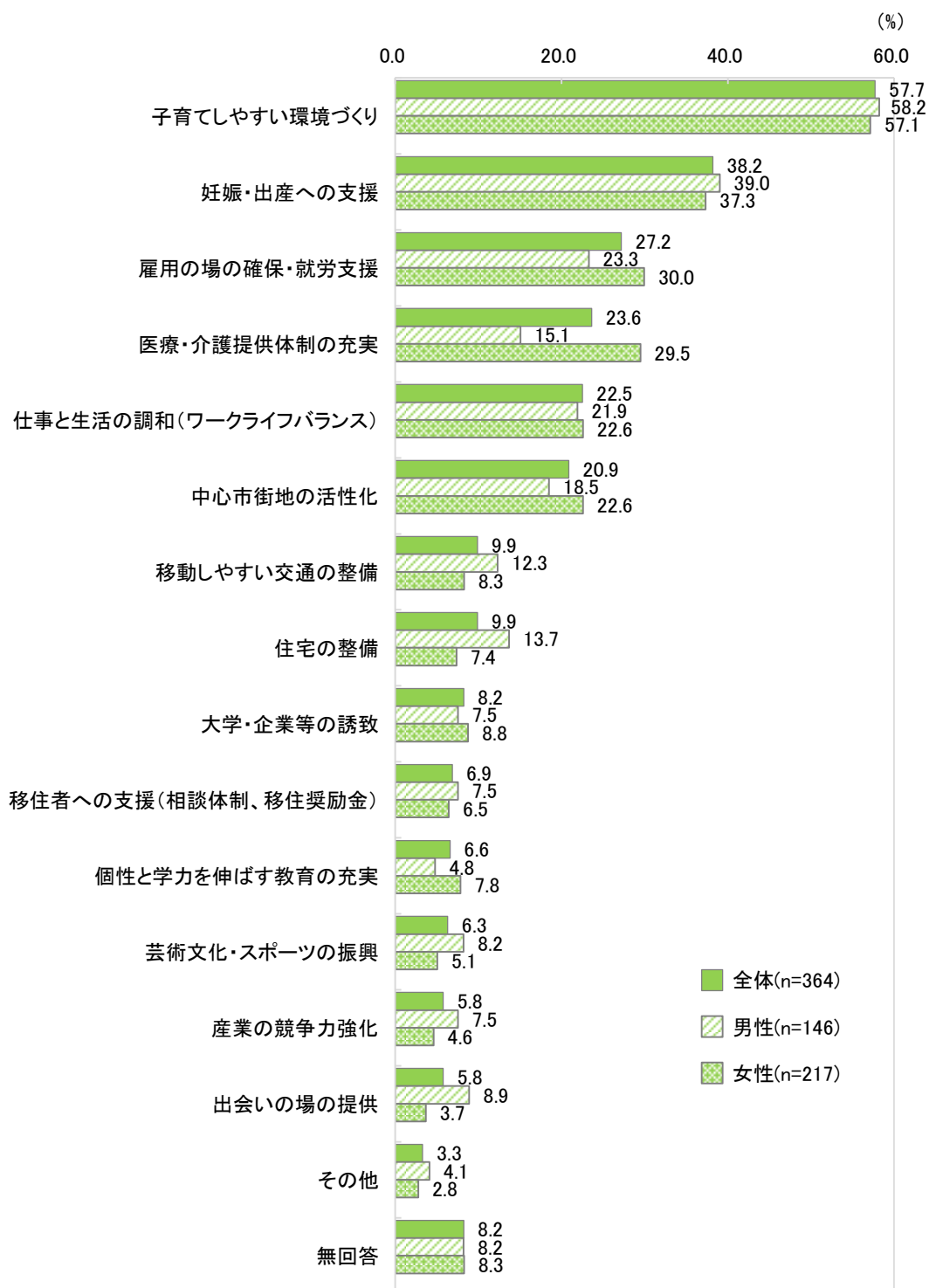
人口問題に対する不安の内容としては、「年金など社会保障制度が立ち行かなくなること」が72.1%と最も多くなっています。次いで、「医療・介護など福祉サービスが行き届かなくなること」(43.6%)、「地域を支える担い手が不足すること」(39.7%)が上位となっています。このほか、「国や地方が税収減となり、行政サービスが低下すること」(33.1%)、「労働力人口の減少などにより産業が衰退すること」(25.1%)が続いています。

問21. **人口問題への対応** 人口問題に対応するため、行政はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(〇印は3つまで)



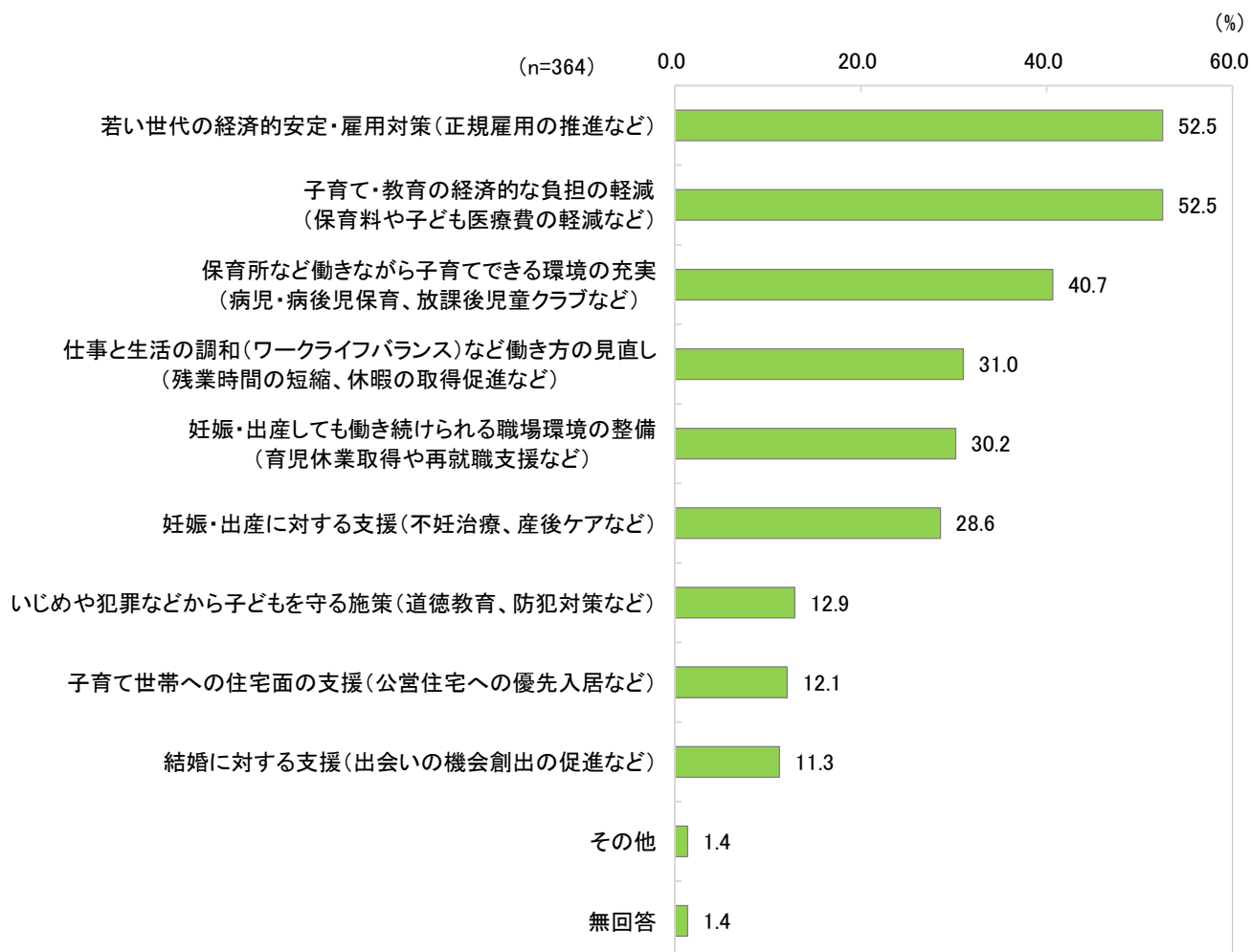
人口問題への対応として行政が取り組むべきことは、「子育てしやすい環境づくり」が57.7%と半数を超えて最も多くなっています。次いで「妊娠・出産への支援」(38.2%)、「雇用の場の確保・就労支援」(27.2%)が上位となっています。また、「医療・介護提供体制の充実」(23.6%)、「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」(22.5%)、「中心市街地の活性化」(20.9%)が挙げられています。

<属性別>



性別にみると、男女ともに「子育てしやすい環境づくり」次いで「妊娠・出産への支援」が上位となっています。また、女性は、「雇用の場の確保・就労支援」(30.0%)と「医療・介護提供体制の充実」(29.5%)について、男性(それぞれ23.3%、15.1%)よりも高い割合となっています。一方、男性は、「住宅の整備」(13.7%)や「出会いの場の提供」(8.9%)について、女性(それぞれ7.4%、3.7%)よりも高い割合となっています。

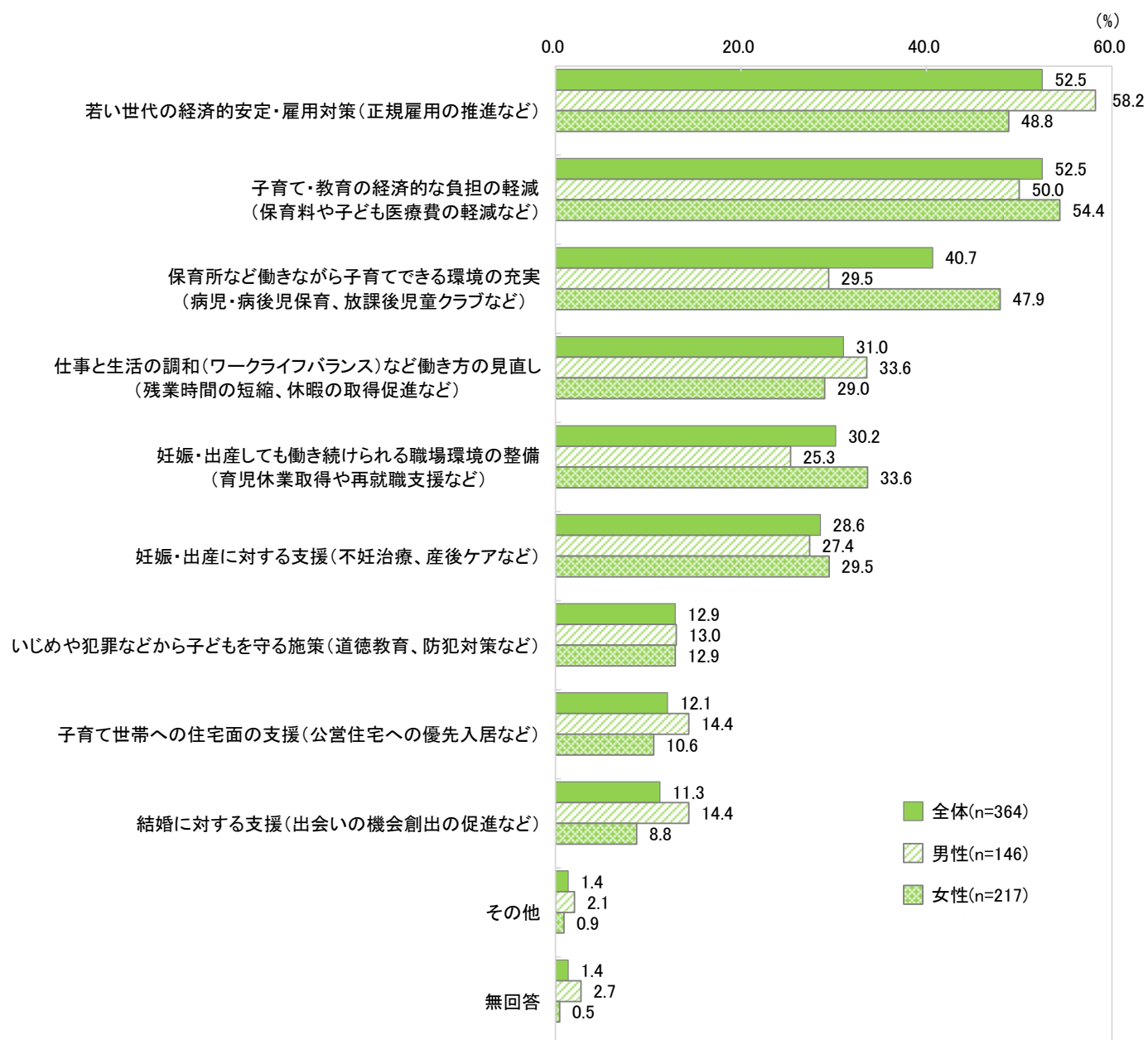
問22. **少子化対策** 少子化に歯止めをかけるため、行政はどのようなことを充実すればよいと思いますか。(〇印は3つまで)



行政が充実すべき少子化対策としては、「若い世代の経済的安定・雇用対策（正規雇用の推進など）」と「子育て・教育の経済的な負担の軽減（保育料や子ども医療費の軽減など）」が、それぞれ 52.5% で最も多くなっています。次いで、「保育所など働きながら子育てできる環境の充実（病児・病後児保育、放課後児童クラブなど）」が 40.7% となっています。

このほか、「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）など働き方の見直し（残業時間の短縮、休暇の取得促進など）」（31.0%）、「妊娠・出産しても働き続けられる職場環境の整備（育児休業取得や再就職支援など）」（30.2%）、「妊娠・出産に対する支援（不妊治療、産後ケアなど）」（28.6%）が続いています。

<属性別>



性別にみると、男性は「若い世代の経済的安定・雇用対策(正規雇用の推進など)」(58.2%)、女性は「子育て・教育の経済的な負担の軽減(保育料や子ども医療費の軽減など)」(54.4%)が最も多くなっています。

また、女性は、「保育所など働きながら子育てできる環境の充実(病児・病後児保育、放課後児童クラブなど)」(47.9%)と「妊娠・出産しても働き続けられる職場環境の整備(育児休業取得や再就職支援など)」(33.6%)も上位としていますが、男性ではそれぞれ29.5%、25.3%と女性よりも低い割合になっています。

6. 自由意見

結婚・出産・子育て等に関するアンケートの回答者 364 人のうち、110 人 (30.2%) から、延べ 129 件のご意見をいただきました。主なご意見は以下のとおりです。

1 結婚 (11 件)

- ・男性に安定した収入があれば、もっと結婚する人が増えると思う。
- ・就職や結婚ができないという方に、最初のきっかけ (機会の創出) または最後のひと押し (助成) として行政の支援があると良い。
- ・若い世代は時間や経済的に余裕がなくなっていると思う。
- ・女性一人でも生活できるため、結婚したいとは思いつつも願望のままになっている。気軽に参加できるイベント、街コン等があれば、多少は考えが変わるかなと感じた。

2 出産・子育て (51 件)

- ・子育てに必要な費用や、行政からの支援について分かりやすい情報提供があると良い。
- ・蕨市内には産婦人科が少なく、戸田市や川口市の病院へ通う人が多い。出産できる病院が近くにないと 2 人目、3 人目の時に検診へ連れて行くのが大変だと思う。
- ・近隣市の市立の保育園は土曜日でも子どもをフルタイムで預かってくれる。蕨市は土曜日に子どもを預けられないなど、全体的に遅れていると思う。
- ・保育園の開園時間が短く、遠方に職場があると利用が難しい。蕨市は東京のベッドタウンという側面もあるので、保育園の開園時間を見直すべきだ。
- ・ボール遊びなどができる場所が少ないからか、道路で遊んでいる子どもが多く、見ていて怖いと感じる。また、公園や路上での喫煙者が多く危険なので、子どもたちが安全に遊べるよう対応してもらいたい。
- ・家庭の悩み事を打ち明けられる、相談電話のサービスがあると良い。
- ・夫婦の問題・子育てのセミナーなど、講師の話の聞いたり、意見交換したりする場があると良い。
- ・蕨市は地域力が強く住民同士の絆もあり、子育てしやすいと感じるが、逆にその中に入れず孤立し、人知れず子育ての悩みを抱えて苦しんでいる人も多い気がする。赤ちゃん訪問の回数を増やすなどし、人と話す機会をつくれば、気持ちが楽になると思う。
- ・学校での教育には限界があると思う。親が子に責任とゆとりを持って接し、育むことができる環境づくりが必要だ。

3 仕事・生活（17件）

- ・学校等で役員を引き受けると、仕事を休まなければならない、その度に職場で休みを調整しなければならないことが苦痛だ。
- ・共働きでなければ生活が苦しくなることが問題だと思う。
- ・働きたい時期と出産、子育ての時期が重なってしまい悩まされる。
- ・働く女性が格好良いと思われていることが問題だと思う。
- ・有給さえも取得しづらい職場が多く、ワークライフバランスが取れていないと感じる。
- ・子どもと一緒に通勤できる託児所でパートとして働いている。核家族で暮らしていても働けるというのは、とても幸せな環境だと実感しており、そのような職場が増えたら良いと思う。
- ・在宅やフリーランスで働いている人に対する育児支援や理解が必要だと感じる。
- ・公民館などで行われる子育てサークルは平日開催が多く、仕事を持つ母親は参加できない。土日にもイベントを実施すれば、地域との交流が深まり、まちが良くなると思う。

4 まちづくり全般（28件）

- ・まち全体の美化を行うべきだ。まちが汚れていると治安が悪くなる気がする。
- ・高齢者よりも子どもの遊ぶ場所を大事にしてもらいたい。
- ・夜は周囲が暗く、母子で歩く際に不安を感じる。もう少し街灯を増やしてもらいたい。
- ・産婦人科を充実させ、子育て世代の高額所得者を優遇してはどうか。
- ・子育て世帯だけでなく、独身の人や子どもがいない夫婦、高齢者にも住みやすいまちにするべきだ。
- ・古い建物に危険を感じる。安全で綺麗なまちで子育てをしている人を見ると、結婚願望が高まると思う。
- ・外国人による犯罪を、地域、行政、警察が協力し合って減らしていくべきだ。
- ・蕨市は、東京のベッドタウンにしてコンパクトなまちであり、行政サービスを機動的に実施しやすいと思う。若者がどんどん流出する地方とは事情が違い、経済的に子育て支援をしっかりとすれば、評判が広まり、出生率を向上させることは可能だろう。

5 人口問題・少子高齢化（14件）

- ・若年層の正規・安定雇用及び女性への負担軽減がない限り、出生率が回復することはないと思う。
- ・女性が結婚・出産で職場を離れざるを得ない環境や、企業のあり方を、行政が本腰を入れて変えない限り、少子化は止まらないと思う。
- ・不妊治療対策が最も結果に結びつきやすい直接的な支援ではないか。
- ・少子高齢化はもはや抗えない流れなので、移民政策を推進するべきだと思う。

6 その他（8件）

- ・選挙運動のスピーカー行為を止めてもらいたい。子どもが毎回起きてしまって大変だ。

Ⅱ. 転入・転出や地域連携等に関するアンケート

■調査の概要

1. 目的

この調査は、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、「(仮称) 蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」および「(仮称) 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するにあたり、市民の転入・転出や地域連携等に関する意向や実態等を把握するために実施しました。

2. 調査方法

- (1) 調査期間 平成 27 年 6 月
- (2) 調査対象 市内在住の 20 歳以上の男女
- (3) 対象者数 1,000 人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から各地区の年齢層別の人口比率に基づき、男女別に無作為抽出
- (5) 調査方法 行政連絡員による送付、郵便による回答

3. 調査項目

- (1) 回答者自身について
- (2) 転入・転出について
- (3) 蕨市のまちづくりについて
- (4) 自由意見

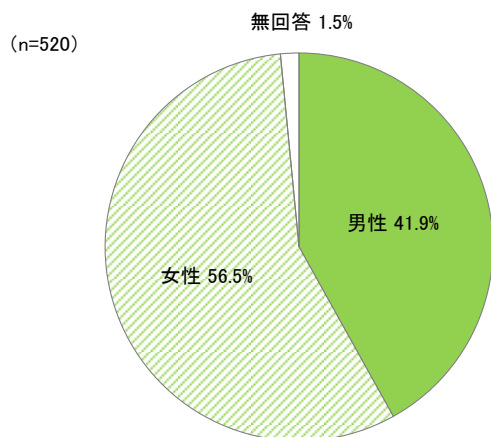
4. 回収結果

- (1) 配布数 1,000 票
- (2) 回収数 521 票
- (3) 回収率 52.1%
- (4) 有効回答数 520 票 (白票 1 票)

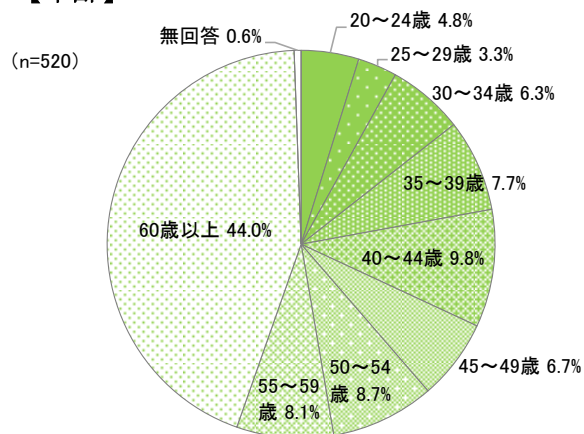
■ 調査の結果

1. あなたご自身について

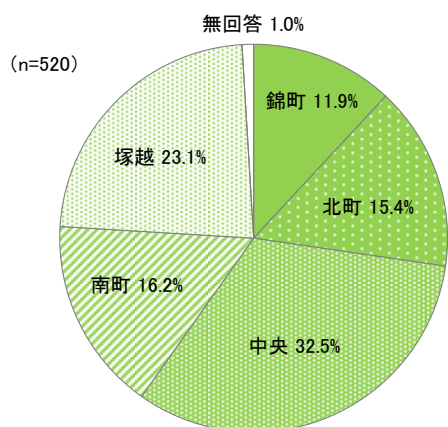
【性別】



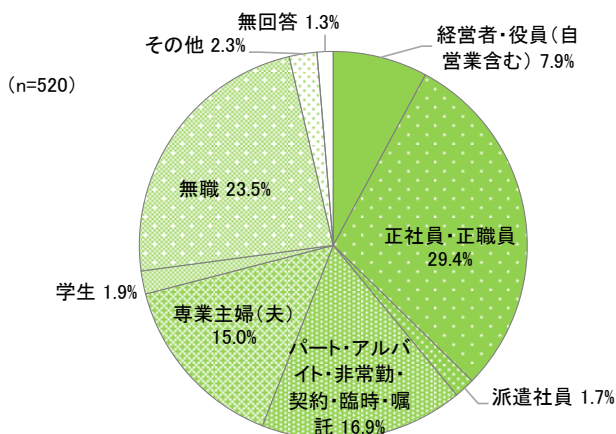
【年齢】



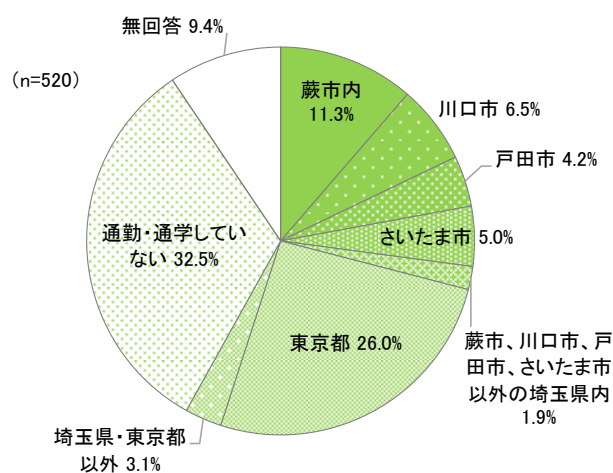
【居住地】



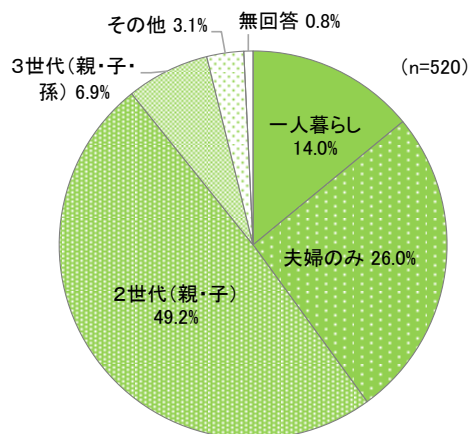
【職業】



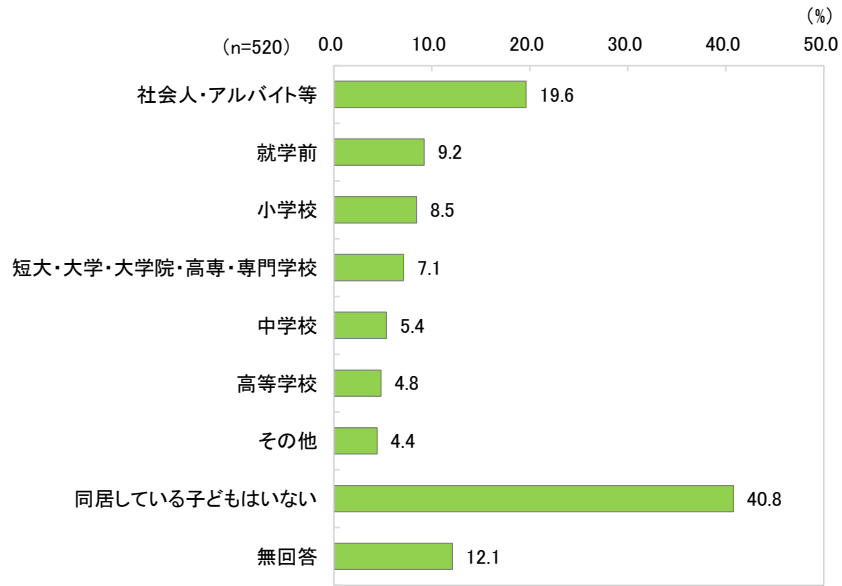
【通勤・通学地】



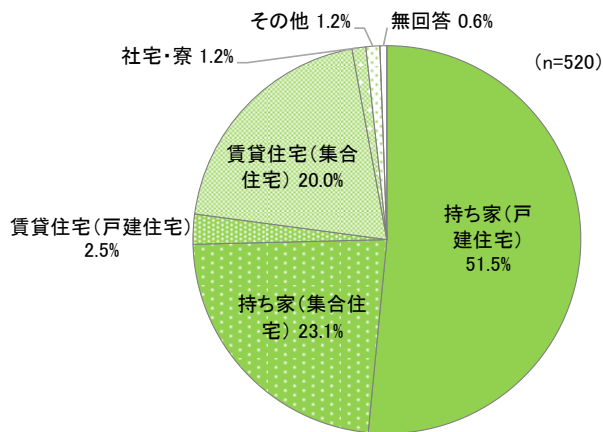
【家族構成】



【同居の子ども】

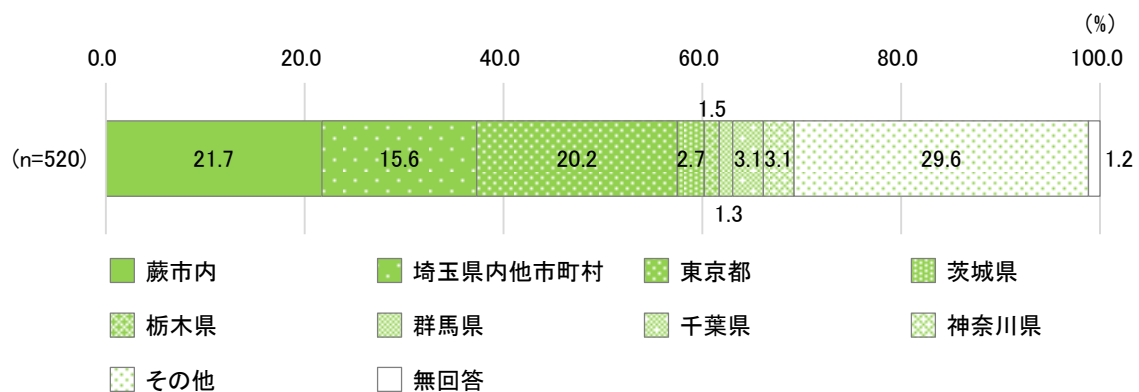


【住まい】



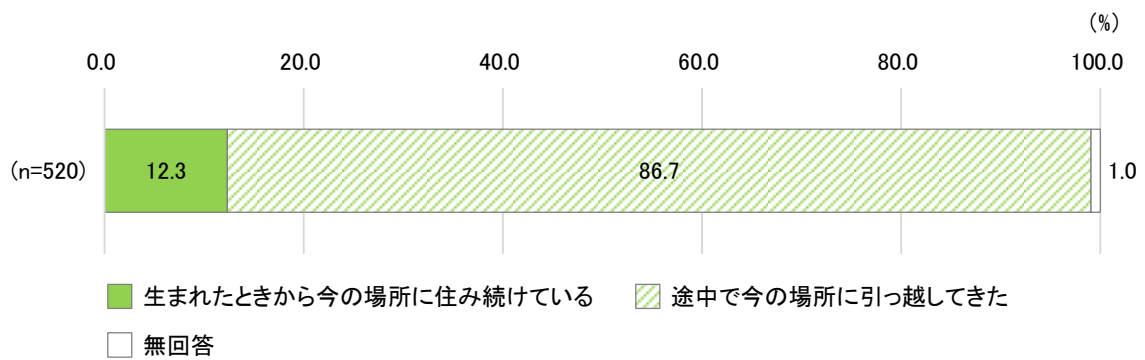
2. 転入・転出について

問1. **出身地** あなたの出身地はどこですか。(〇印は1つ)



出身地については、「蕨市内」が21.7%、「東京都」が20.2%と同程度となっています。「埼玉県内各市町村」は、15.6%となっています。また、その他（29.6%）の出身地も30%程度を占めています。

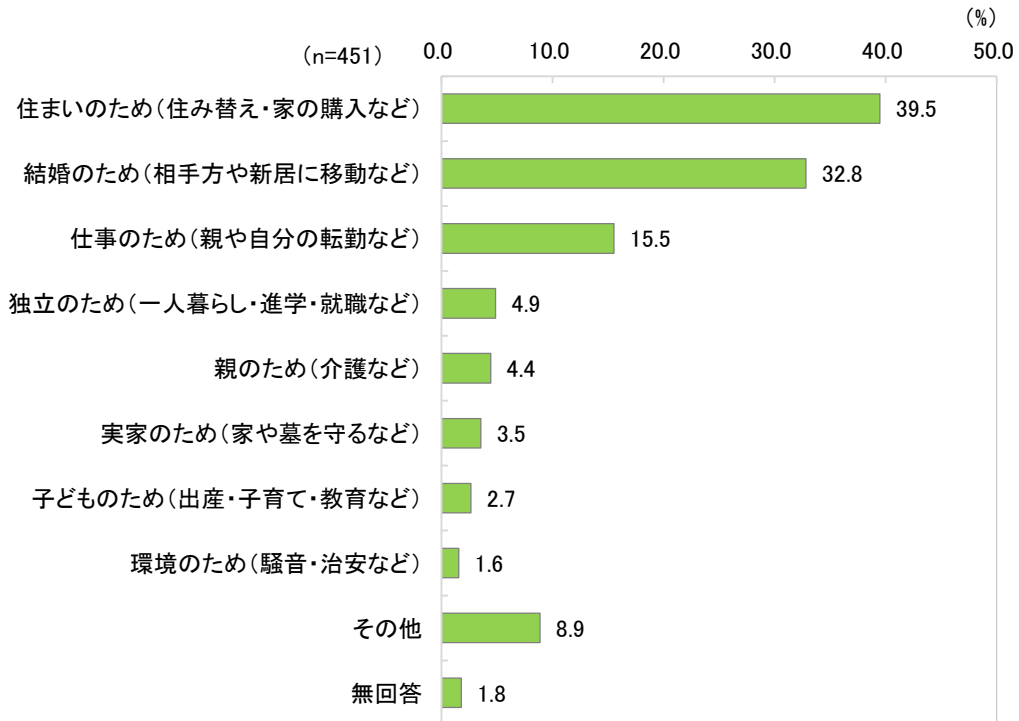
問2. **居住歴** あなたは、生まれたときから今の場所に住み続けていますか。それとも、途中で今の場所に引っ越してきましたか。(〇印は1つ)



途中で蕨市内の今の場所に引っ越してきた人は、86.7%と多くの割合を占めています。一方、生まれたときから今の場所に住み続けている人は、12.3%となっています。

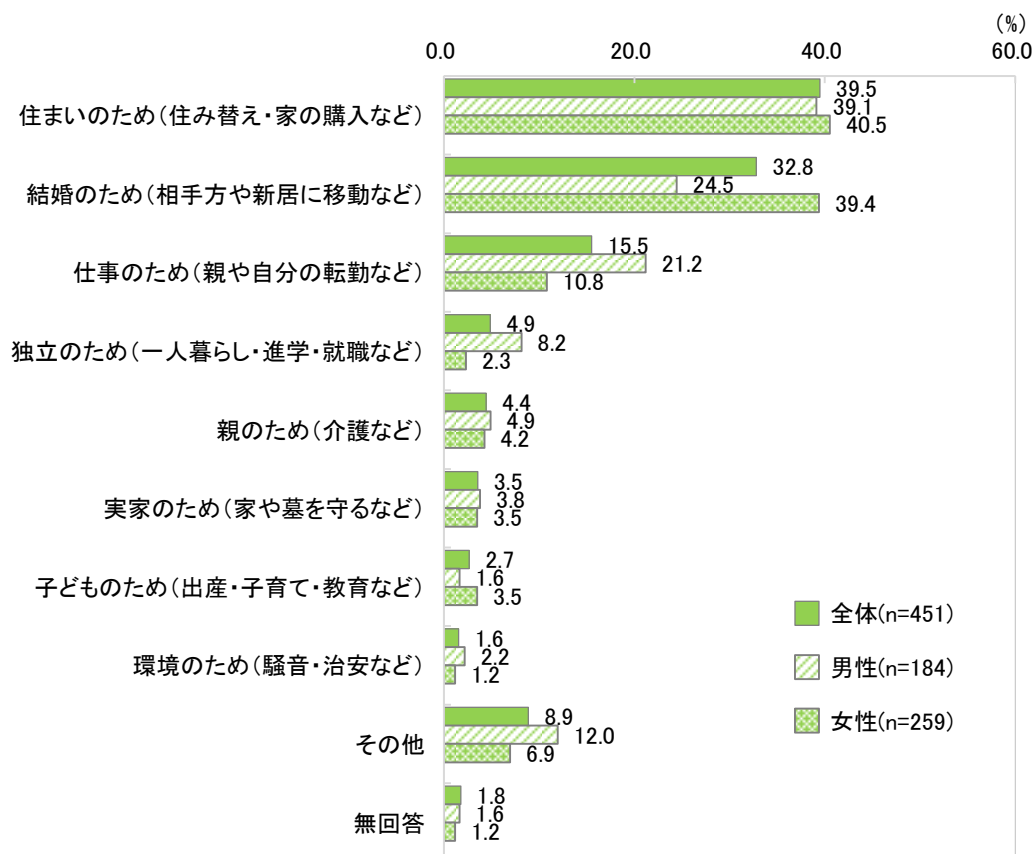
【問2で「途中で今の場所に引っ越してきた」を選んだ方に伺います。】

問3. 引っ越しのきっかけ あなたが今の場所に引っ越すことになったきっかけは何ですか。(〇印は2つまで)



引っ越しのきっかけは、「住まいのため(住み替え・家の購入など)」が39.5%と最も多く、次いで「結婚のため(相手方や新居に移動など)」が32.8%となっています。また、「仕事のため(親や自分の転勤など)」が15.5%と続いています。

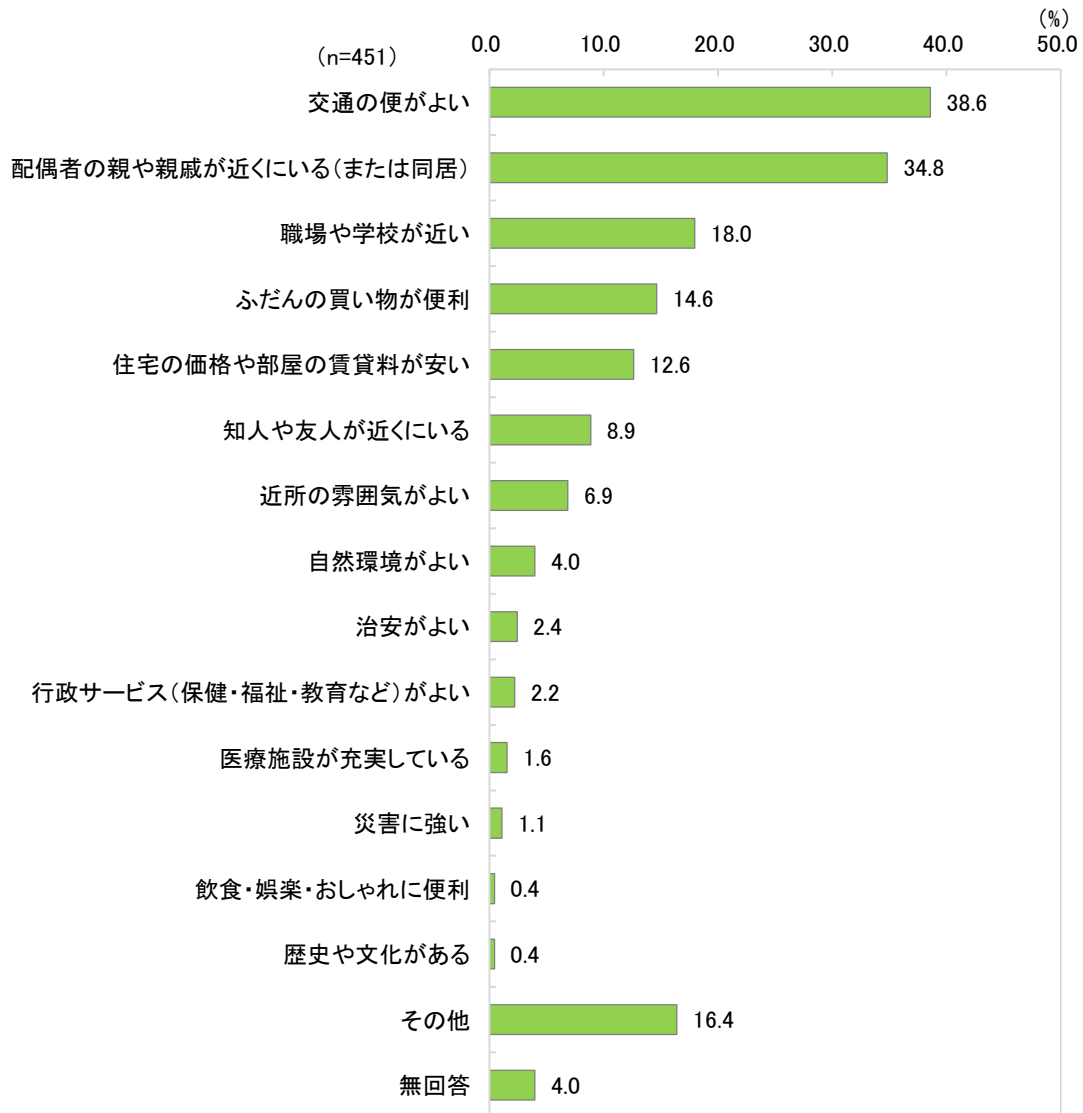
<属性別>



性別にみると、男女ともに「住まいのため（住み替え・家の購入など）」が最も多くなっていますが、「結婚のため（相手方や新居に移動など）」は、女性（39.4%）の方が男性（24.5%）よりも多くなっています。一方、「仕事のため（親や自分の転勤など）」は男性（21.2%）の方が女性（10.8%）よりも多くなっています。

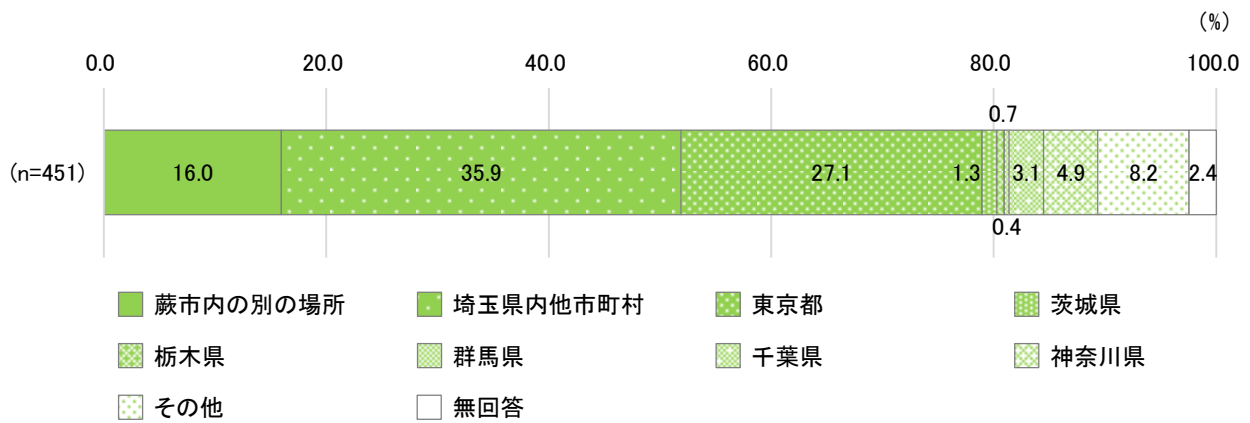
今の場所に引っ越すことになったきっかけは、女性は結婚のため、男性は仕事のためが多い傾向がみられます。

問4. **引っ越し先選定理由** あなたがその引っ越し先を選んだ理由は何ですか。
 (〇印は3つまで)



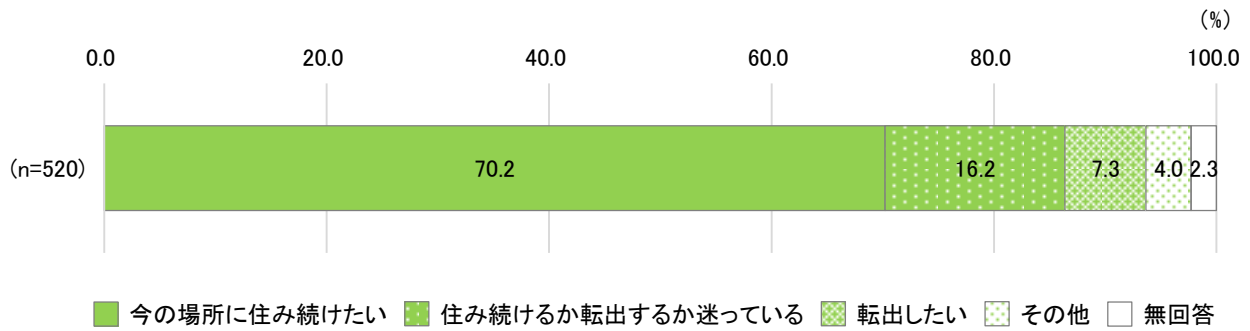
引っ越し先選定の理由は、「交通の便がよい」が 38.6%と最も多く、次いで、「配偶者の親や親戚が近くにいる(または同居)」が 34.8%となっています。そのほか、「職場や学校が近い」(18.0%)、「ふだんの買い物が便利」(14.6%)、「住宅の価格や部屋の賃貸料が安い」(12.6%)、「知人や友人が近くにいる」(8.9%)が続いています。

問5. **以前の居住地** どちらから引っ越してこられましたか。(〇印は1つ)



以前の居住地は、「埼玉県内他市町村」（川口市、戸田市、さいたま市など）が 35.9%と最も多く、次いで「東京都」が 27.1%となっています。蕨市内の別の場所から現在の居住地に引っ越した人も 16.0%います。

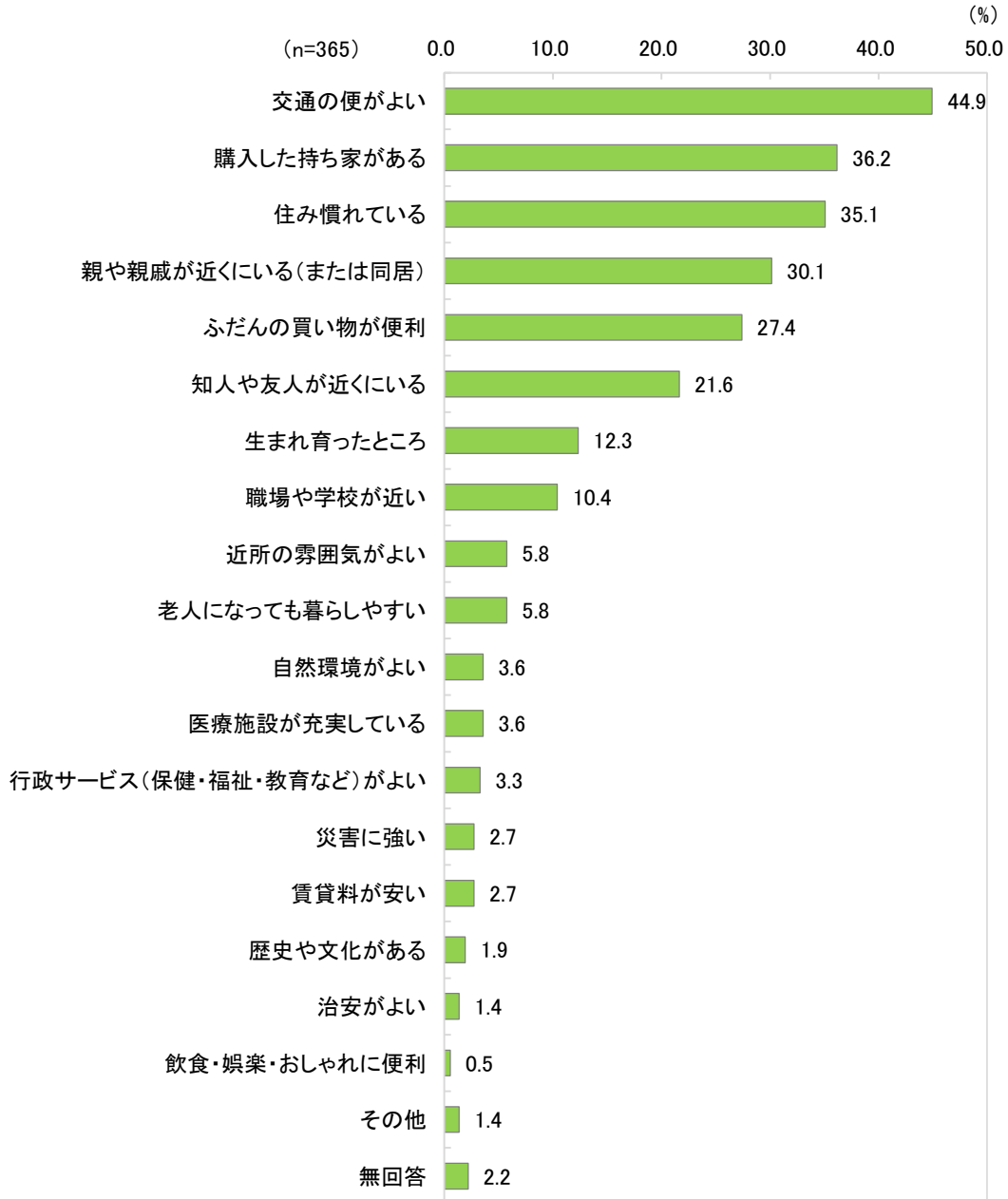
問6. **定住意向** あなたは今の場所に住み続けたいですか。(○印は1つ)



今の場所に住み続けたい人は、70.2%と最も多く、定住意向が高い傾向にあります。一方、「住み続けるか転出するか迷っている」(16.2%)、または「転出したい」(7.3%)の合計は、20%程度となっています。

【問6で「今の場所に住み続けたい」を選んだ方に伺います。】

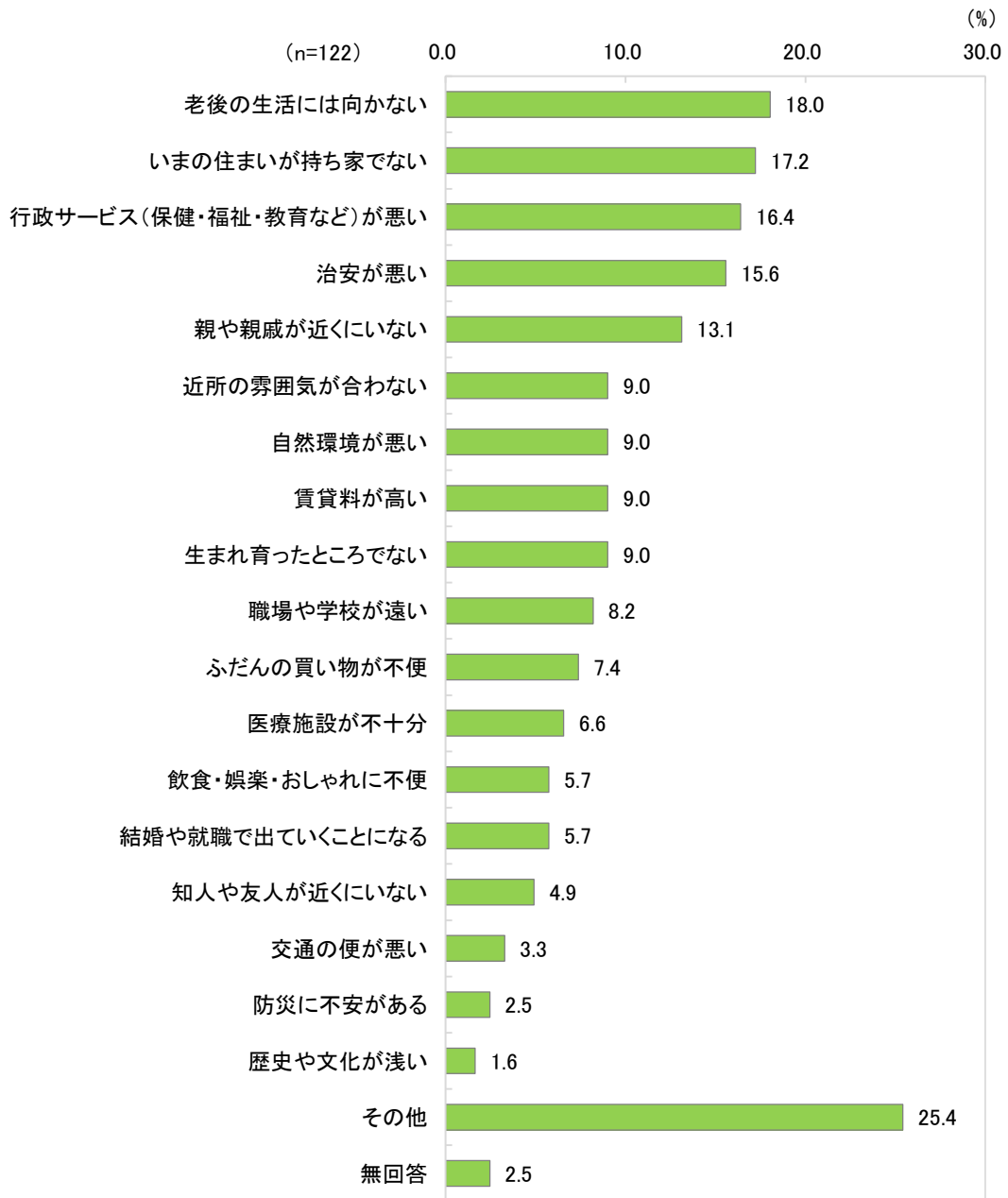
問7. **住み続けたい理由** 「今の場所に住み続けたい」理由について、あなたのお気持ちに近いものは何ですか。(〇印は3つまで)



住み続けたい理由は、「交通の便がよい」が 44.9%と最も多く、次いで「持ち家がある」が 36.2%、「住み慣れている」が 35.1%と上位になっています。このほか、「親や親戚が近くにいる(または同居)」(30.1%)、「ふだんの買い物が便利」(27.4%)、「知人や友人が近くにいる」(21.6%)が挙げられています。

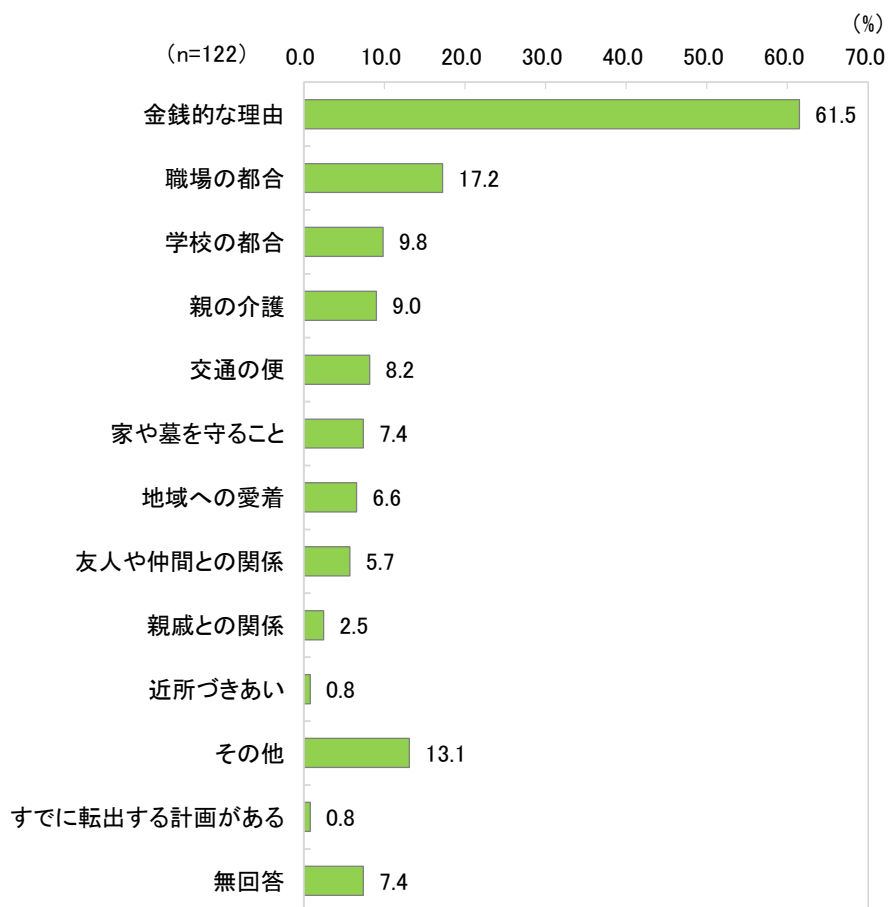
【問6で「住み続けるか転出するか迷っている」または「転出したい」を選んだ方に伺います。】

問8. **転出したい理由** 「住み続けるか転出するか迷っている」「転出したい」と考える理由として、あなたのお気持ちに近いものは何ですか。(〇印は3つまで)



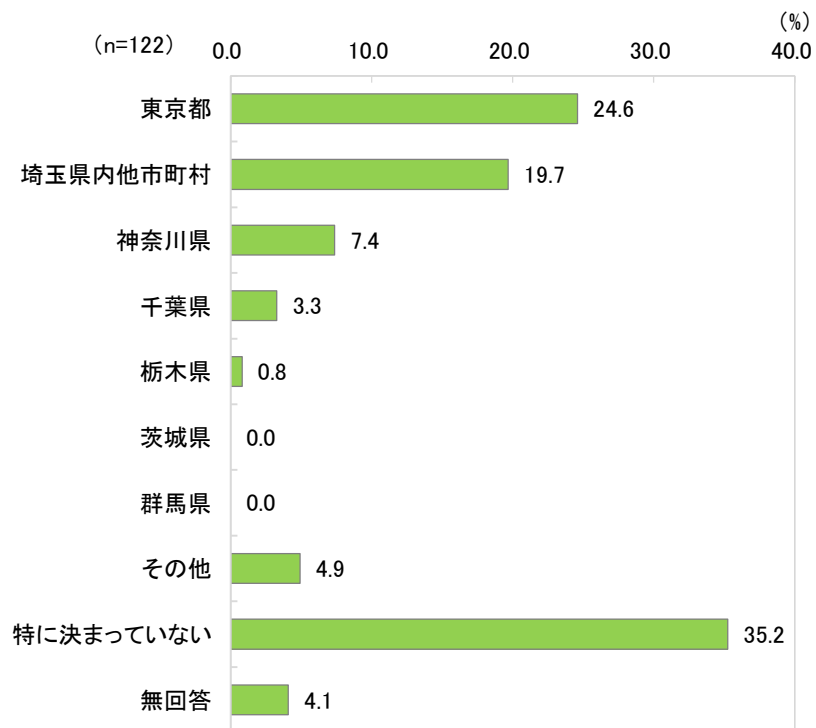
転出したい理由は、「老後の生活に向かない」(18.0%)、「いまの住まいが持ち家でない」(17.2%)、「行政サービス(保健・福祉・教育など)が悪い」(16.4%)、「治安が悪い」(15.6%)が上位となっています。

問9. すぐに転出しない理由 転出したくてもすぐに転出しない理由は何ですか。
 (〇印は3つまで)



すぐに転出しない理由は、「金銭的な理由」が 61.5%と最も多くなっています。次いで、「職場の都合」が 17.2%となっています。

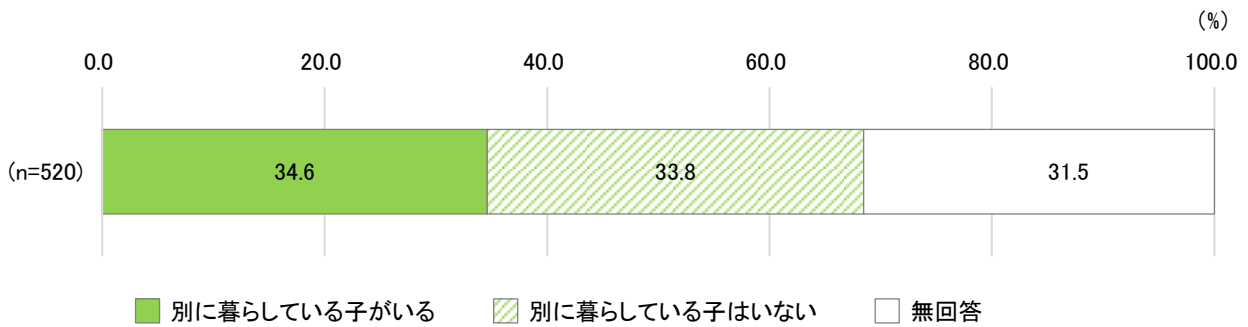
問10. **転出先** 他の場所に移り住む場合、どちらに引っ越したいと思いますか。
(○印は1つ)



転出希望先は、「特に決まっていない」が 35.2%と最も多く、次いで「東京都」が 24.6%、「埼玉県内他市町村」が 19.7%となっています。

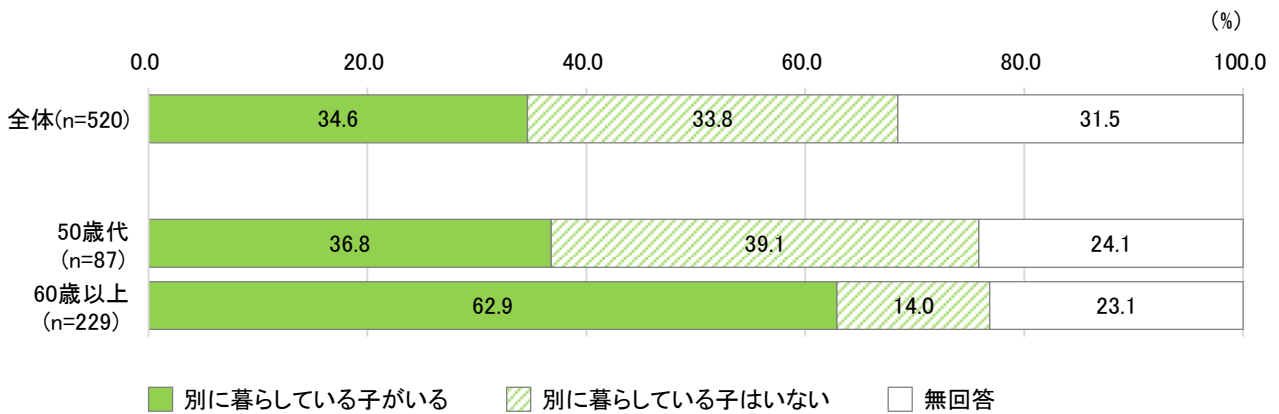
【お子さんがいらっしゃる方に伺います。】

問1 1. **子どもの状況** 現在、別に暮らしているお子さんはいますか。(〇印は1つ)



現在、別に暮らしている子がいる人は、34.6%となっています。一方、別に暮らしている子はいない人は、33.8%とほぼ同程度となっています。

<属性別>

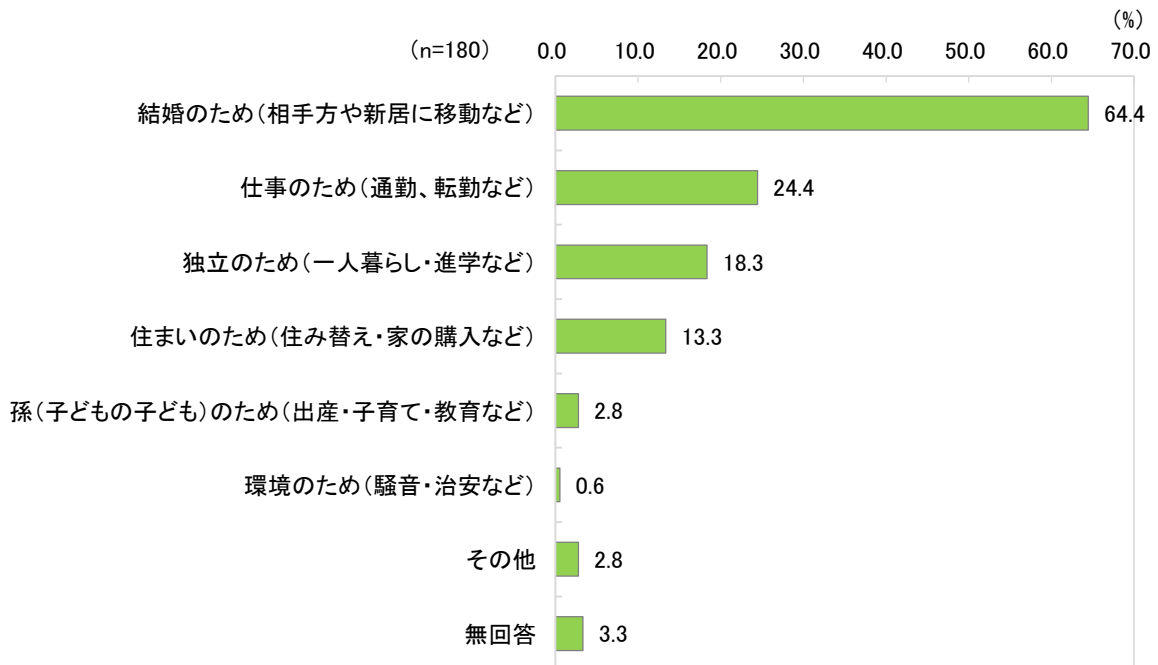


年齢別にみると、別に暮らしている子がいる人は、50歳代で36.8%、60歳以上ではほぼ2倍の62.9%と半数以上となっています。

なお、50歳未満では、別に暮らしている子がいる人は5%未満となっています。

【問11で「別に暮らしている子がいる」を選んだ方に伺います。別に暮らしているお子さんが複数いる場合には、直近で引っ越したお子さんについてお答えください。】

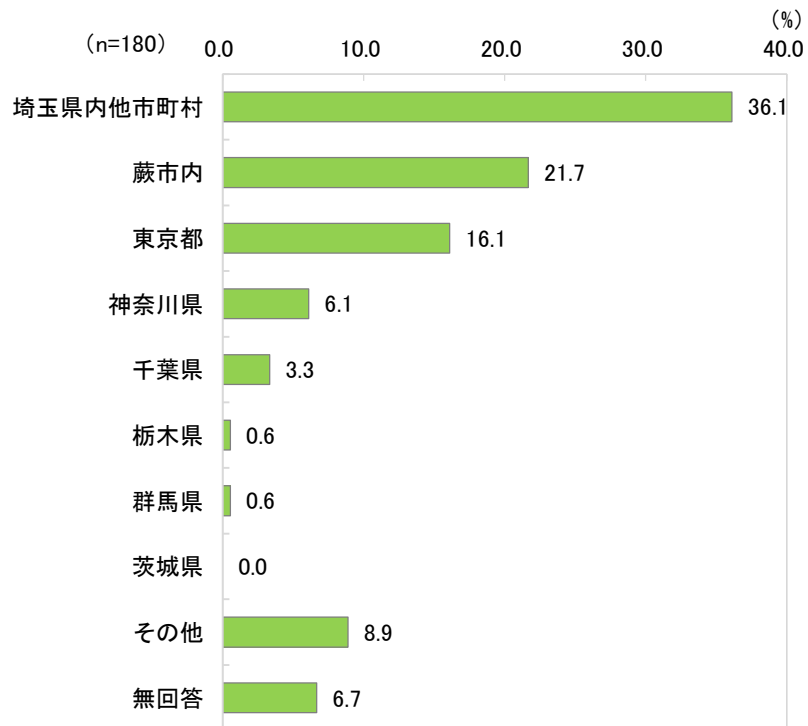
問12. 子どもの引っ越した状況 お子さんが引っ越したきっかけ（タイミング）は何ですか。（○印は2つまで）



子どもの引っ越した状況は、「結婚のため（相手方や新居に移動など）」が64.4%と最も多く、次いで「仕事のため（通勤、転勤など）」が24.4%となっています。このほか、「独立のため（一人暮らし・進学など）」が18.3%、「住まいのため（住み替え・家の購入など）」が13.3%と続いています。

回答者自身が現在の場所に引っ越したきっかけ（問3）は、「住まいのため」が最も多くなっていますが、子どもの引っ越しでは、「結婚」がきっかけとなっている傾向がみられます。

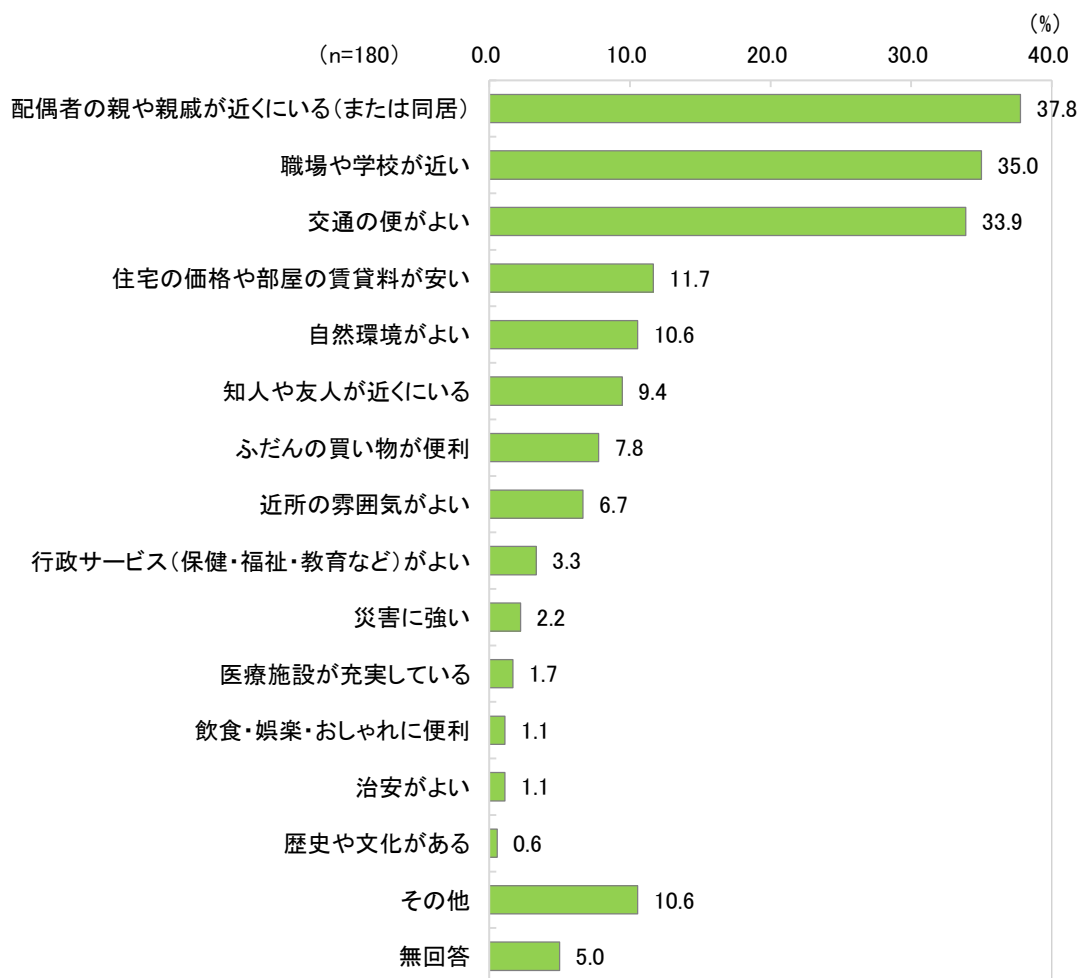
問13. **お子さんの引っ越し先** お子さんはどこに引っ越ししましたか。(〇印は1つ)



子どもの引っ越し先は、「埼玉県内各市町村」が 36.1%と最も多く、次いで「蕨市内」が 21.7%となっています。「東京都」は、16.1%となっています。

「埼玉県内各市町村」と「蕨市内」の合計は 57.8%で、半数以上が埼玉県内に引っ越ししており、子どもの引っ越し先は親元から比較的近い傾向がみられます。

問14. お子さんの引っ越し先選定理由 お子さんがその引っ越し先を選んだ理由は何ですか。(〇印は3つまで)

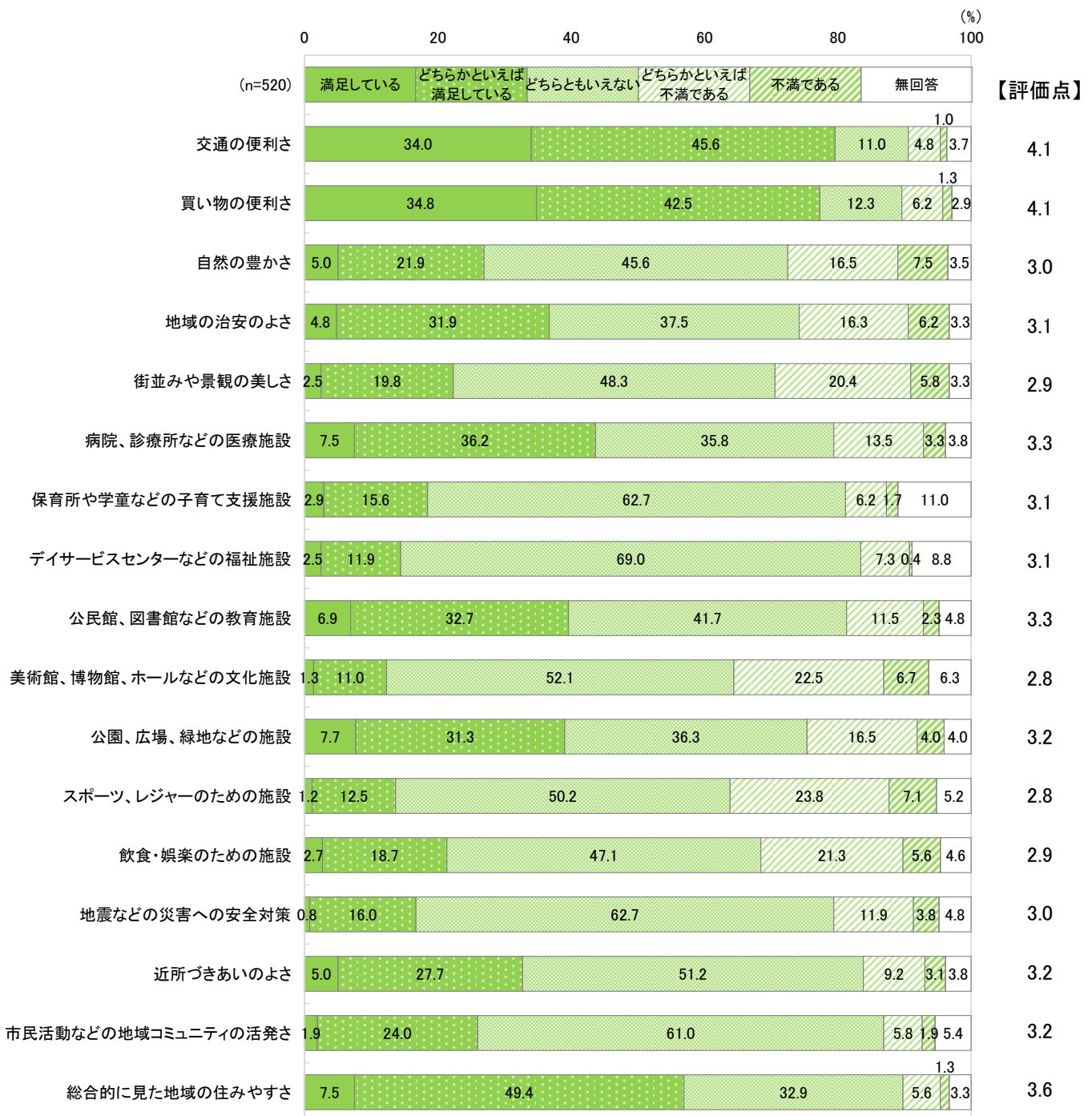


子どもの引っ越し先選定理由は、「配偶者の親や親戚が近くにいる(または同居)」が37.8%と最も多く、次いで、「職場や学校が近い」が35.0%、「交通の便がよい」が33.9%で上位となっています。

そのほか、「住宅の価格や部屋の賃貸料が安い」(11.7%)、「自然環境がよい」(10.6%)、「知人や友人が近くにいる」(9.4%)が続いています。

3. 藤市のまちづくりについて

問15. **満足度** あなたの普段の生活に対する満足度について、お答えください。
 ((1)～(17)それぞれについて○印は1つ)



満足度の評価点平均 3.2

注：満足度の評価点は、「満足している・どちらかといえば満足している・どちらともいえない・どちらかといえば不満である・不満である」の回答数に、「5・4・3・2・1」点を与え、その合計を回答数（無回答を除く）で除して算出。

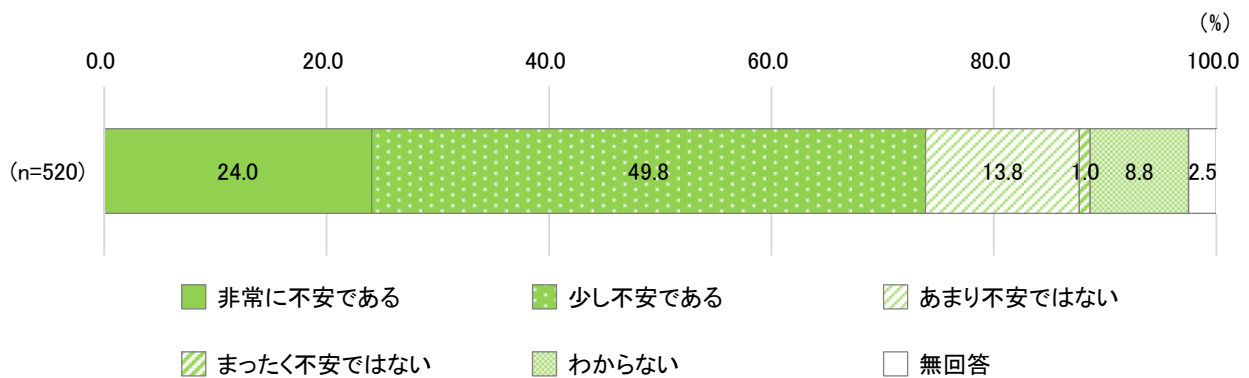
全項目に対する満足度の評価点の平均は、3.2 となっています。

普段の生活に対する満足度の評価点は、「買い物の便利さ」(4.1)、「交通の便利さ」(4.1)において高くなっています。

一方、「美術館、博物館、ホールなどの文化施設」(2.8)や「スポーツ、レジャーのための施設」(2.8)に対する満足度は低くなっています。また、「街並みや景観の美しさ」(2.9)、「飲食・娯楽のための施設」(2.9)でも満足度は低くなっています。

「総合的に見た地域の住みやすさ」は3.6で、結婚・出産・子育て等に関するアンケート(問18)と同水準となっています。

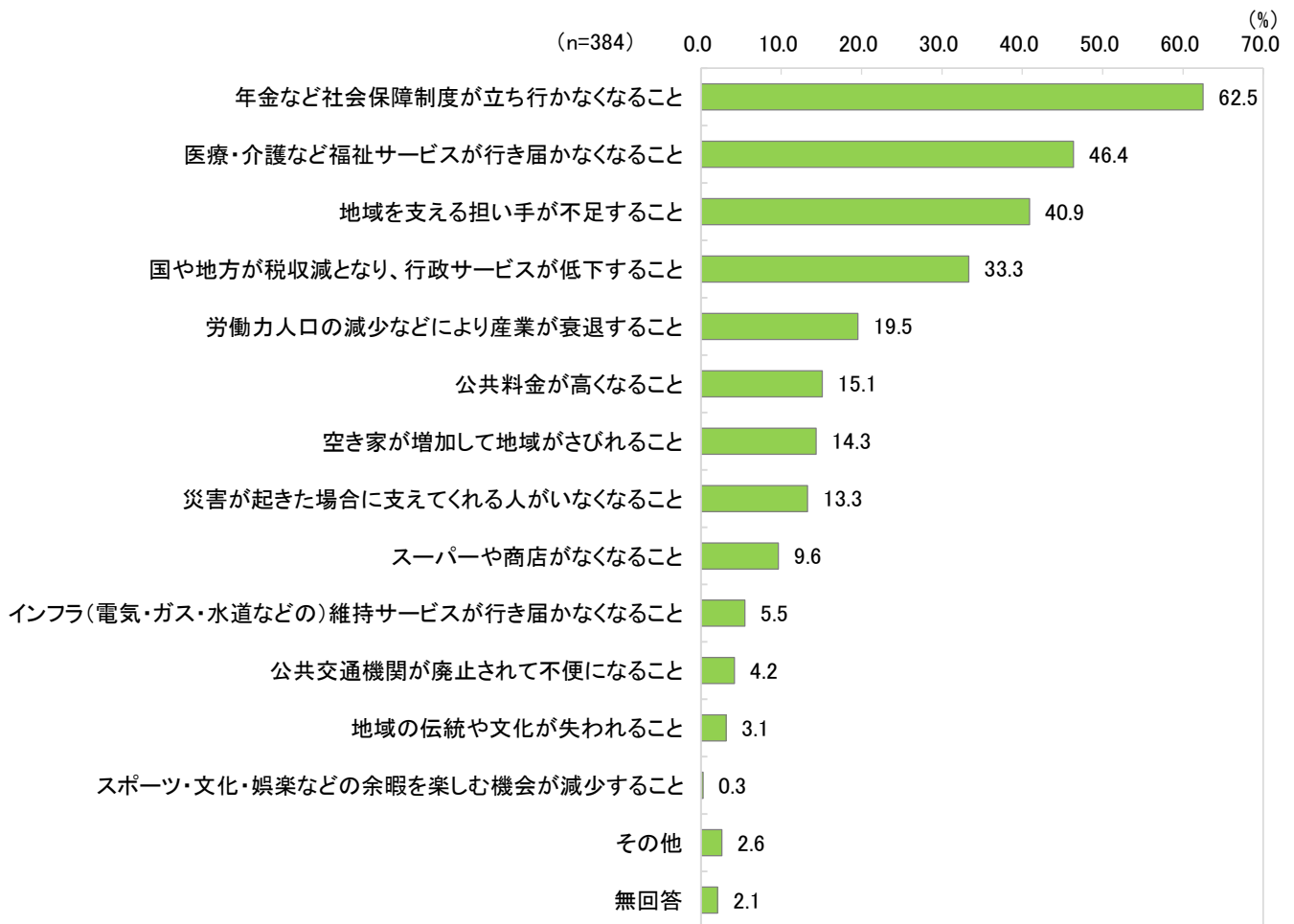
問16. **人口問題に対する不安** あなたは人口減少や高齢化といった人口問題に対して不安
 がありますか。(〇印は1つ)



人口減少や高齢化といった人口問題に対して、「非常に不安である」、または「少し不安である」の合計は、73.8%となっています。一方、「あまり不安ではない」、または「まったく不安ではない」の合計は、14.8%であり、多くの人が人口問題に対して不安を感じている傾向にあります。

【問16で「非常に不安である」または「少し不安である」を選んだ方に伺います。】

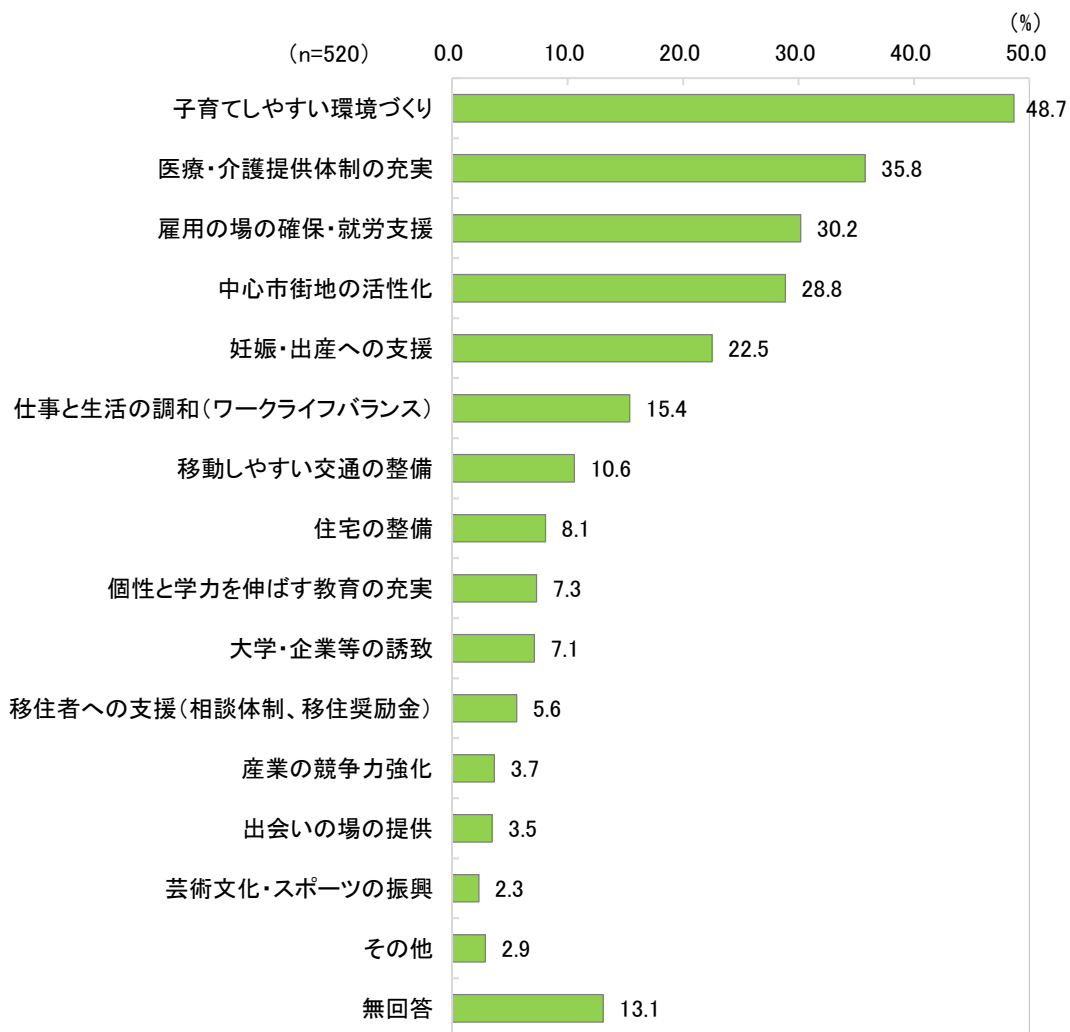
問17. **不安の内容** 人口問題に対して、どのような不安がありますか。(〇印は3つまで)



人口問題に対する不安の内容としては、「社会保障制度が立ち行かなくなること」が62.5%と最も多くなっています。次いで、「医療・介護など福祉サービスが行き届かなくなること」(46.4%)、「地域を支える担い手が不足すること」(40.9%)が上位となっています。このほか、「国や地方が税収減となり、行政サービスが低下すること」(33.3%)、「労働力人口の減少などにより産業が衰退すること」(19.5%)が続いています。

この回答傾向は、結婚・出産・子育て等に関するアンケート(問20)と同様となっています。

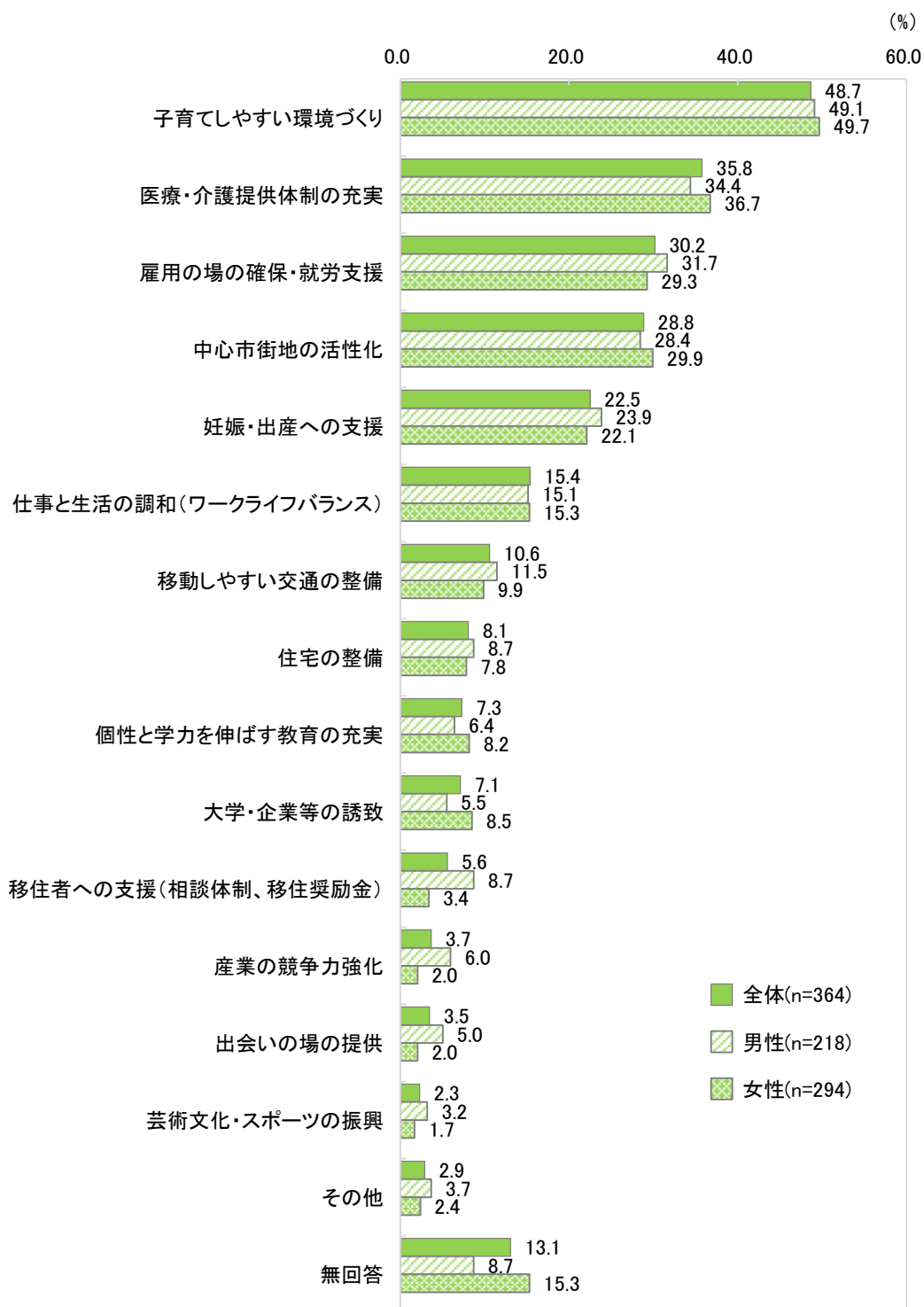
問18. **人口問題への対応** 人口問題に対応するため、行政はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(〇印は3つまで)



人口問題への対応として行政が取り組むべきことは、「子育てしやすい環境づくり」が48.7%と最も多くなっています。次いで「医療・介護提供体制の充実」(35.8%)、雇用の場の確保・就労支援(30.2%)、「中心市街地の活性化」(28.8%)が上位となっています。

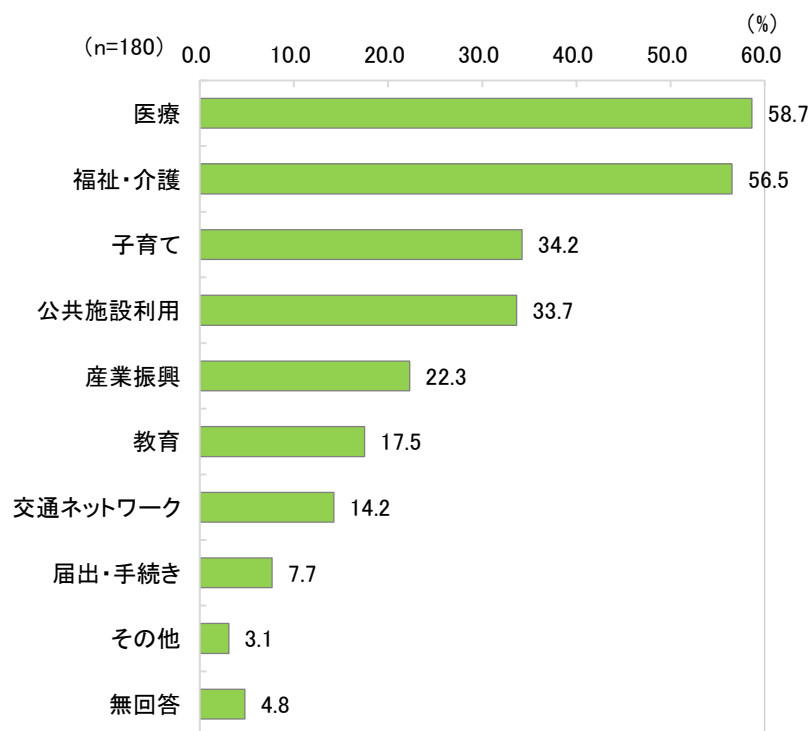
結婚・出産・子育て等に関するアンケート(問21)と比べると、「医療・介護提供体制の充実」と「中心市街地の活性化」が多い傾向がみられます。

<属性別>



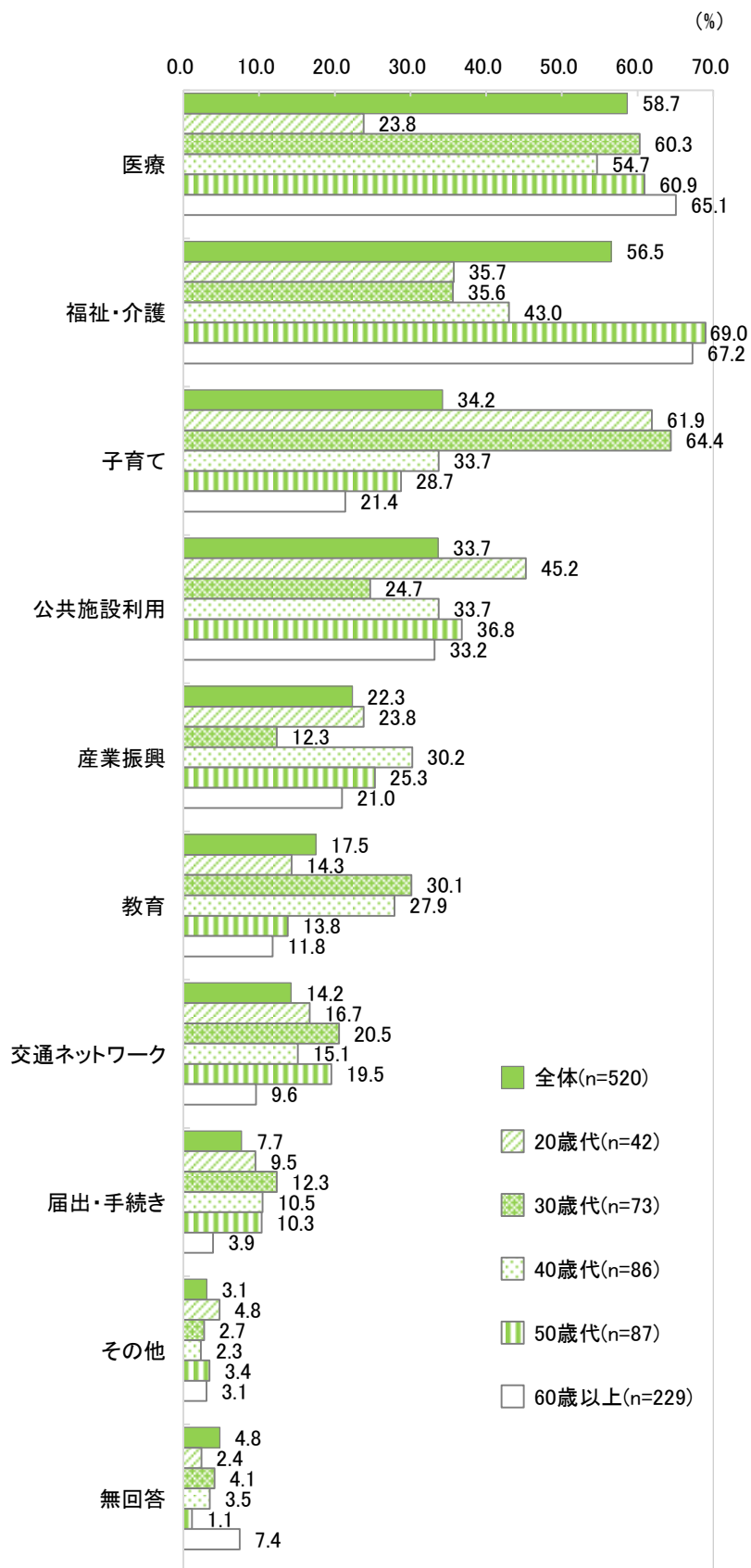
性別にみて、回答傾向に大きな違いはみられず、男女ともに「子育てしやすい環境づくり」が最も多くなっています。

問19. **地域連携** これから蕨市は、周辺市とどのようなテーマで協力していけばよいと思いますか。(〇印は3つまで)



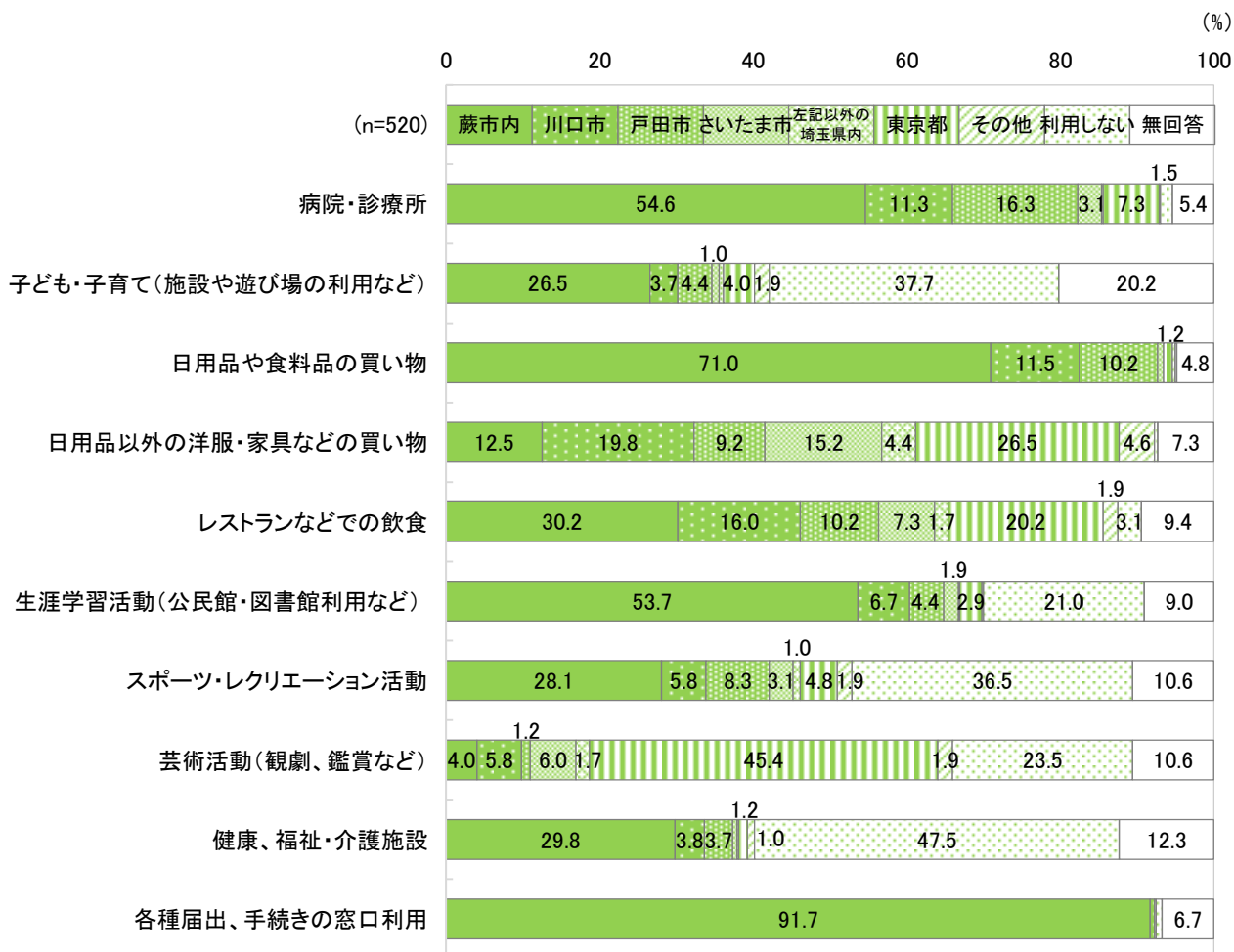
地域連携のテーマは、「医療」(58.7%)と「福祉・介護」(56.5%)がそれぞれ半数を超えて上位となっています。また、「子育て」(34.2%)、「公共施設利用」(33.7%)が続いています。

<属性別>



年齢別にみると、年齢が高いほど、地域連携のテーマは、「医療」、「福祉・介護」が多くなっています。一方、年齢が低いほど「子育て」が多い傾向がみられます。

問20. **主な利用先** あなたは、ふだんの生活で、次の(1)～(10)について主にどこを訪れますか。((1)～(10)それぞれについて○印は1つ)

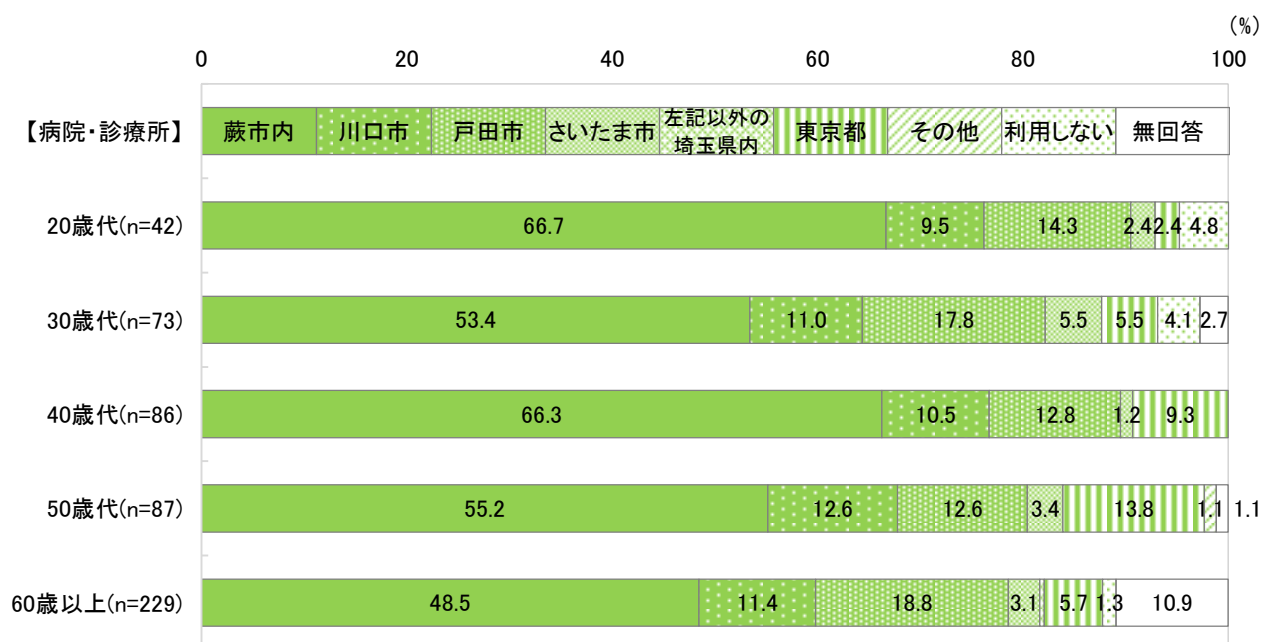


注：1.0%未満は非表示。

普段の生活で「蕨市内」を利用する先について、各種届出、手続きの窓口利用は91.7%が「蕨市内」となっています。また、病院・診療所(54.6%)、日用品や食料品の買い物(71.0%)、生涯学習活動(53.7%)が、それぞれ半数を超えています。

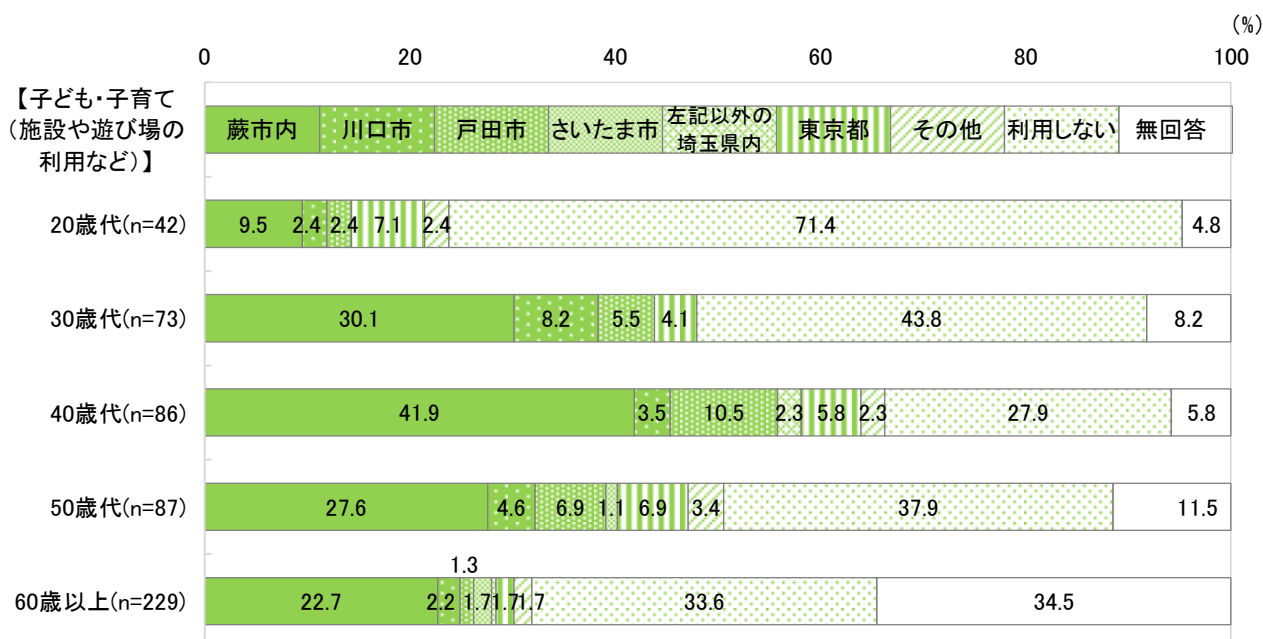
一方、「東京都」では、特に芸術活動(45.4%)、また日用品以外の洋服・家具などの買い物(26.5%)やレストランなどでの飲食(20.2%)において訪れることが多い傾向がみられます。

<属性別>



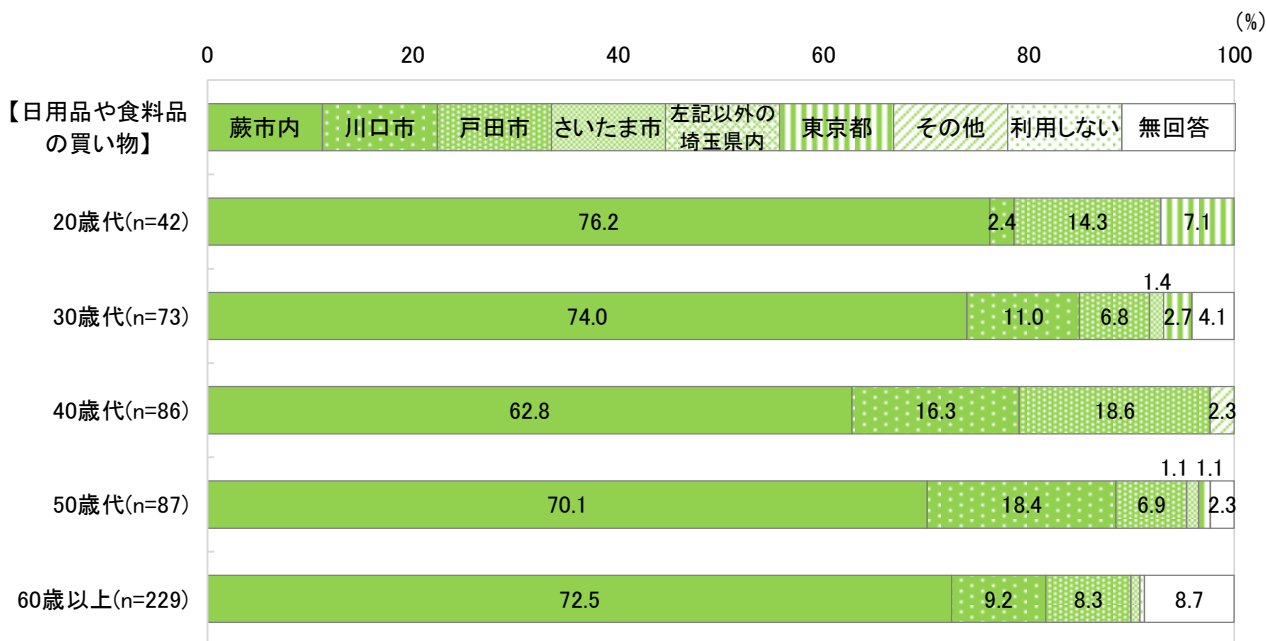
注：1.0%未満は非表示。

年代別にみると、各年代とも「蕨市内」の病院・診療所に訪れる人がほぼ半数で最も多くなっています。「川口市」、「戸田市」の病院・診療所の利用は、それぞれ10～20%程度となっています。



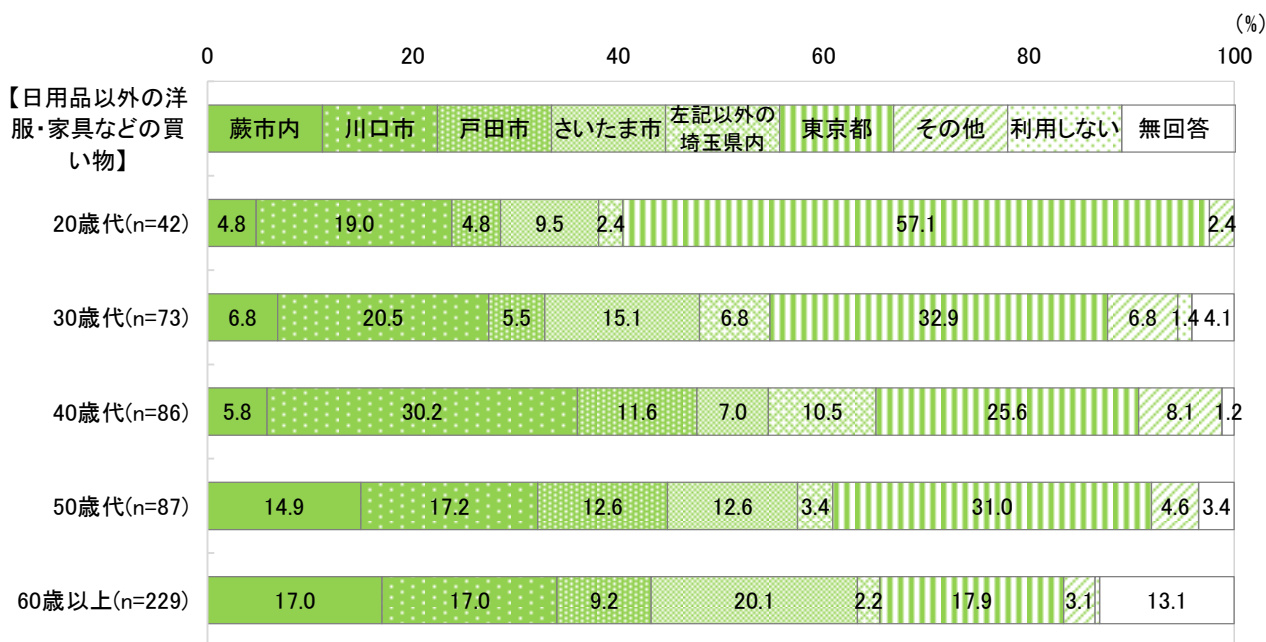
注：1.0%未満は非表示。

子ども・子育て（施設や遊び場の利用など）について、30歳代・40歳代の子育て世代は、「蕨市内」の施設の利用が30～40%程度となっています。また、50歳代・60歳代の「蕨市内」の施設の利用も20%を超えています。



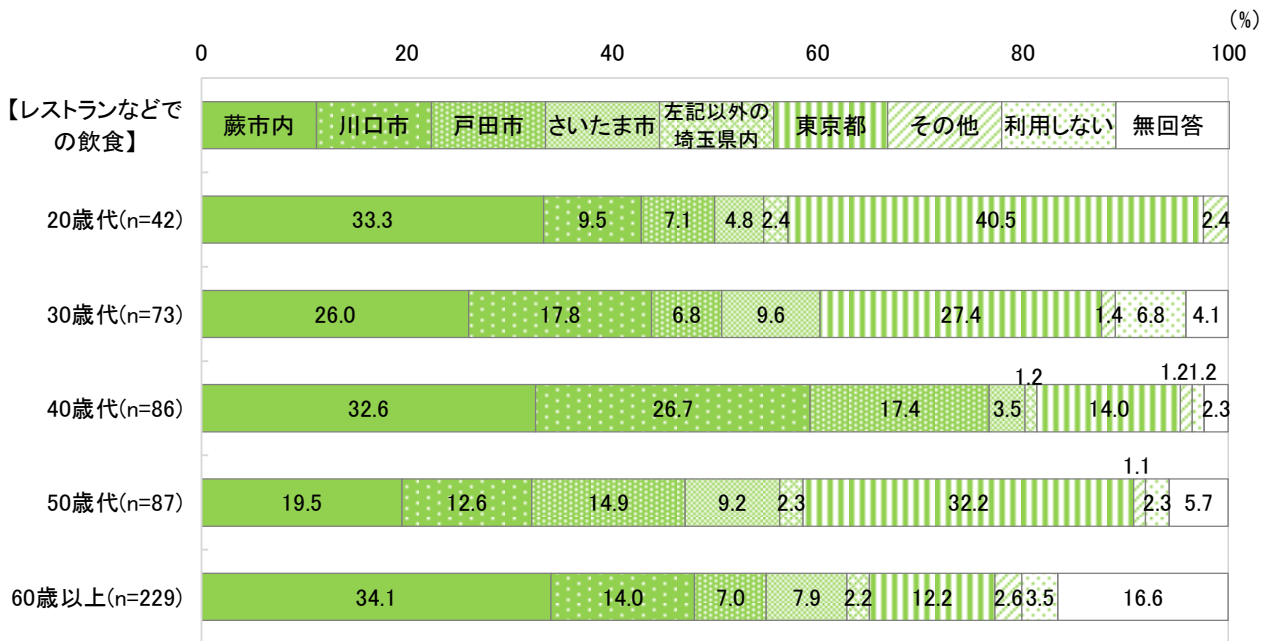
注：1.0%未満は非表示。

日用品や食料品の買い物について、各年代とも「蕨市内」の利用が60~70%程度で、40~50歳代では「川口市」、さらに40歳代では「戸田市」も15%を超えています。



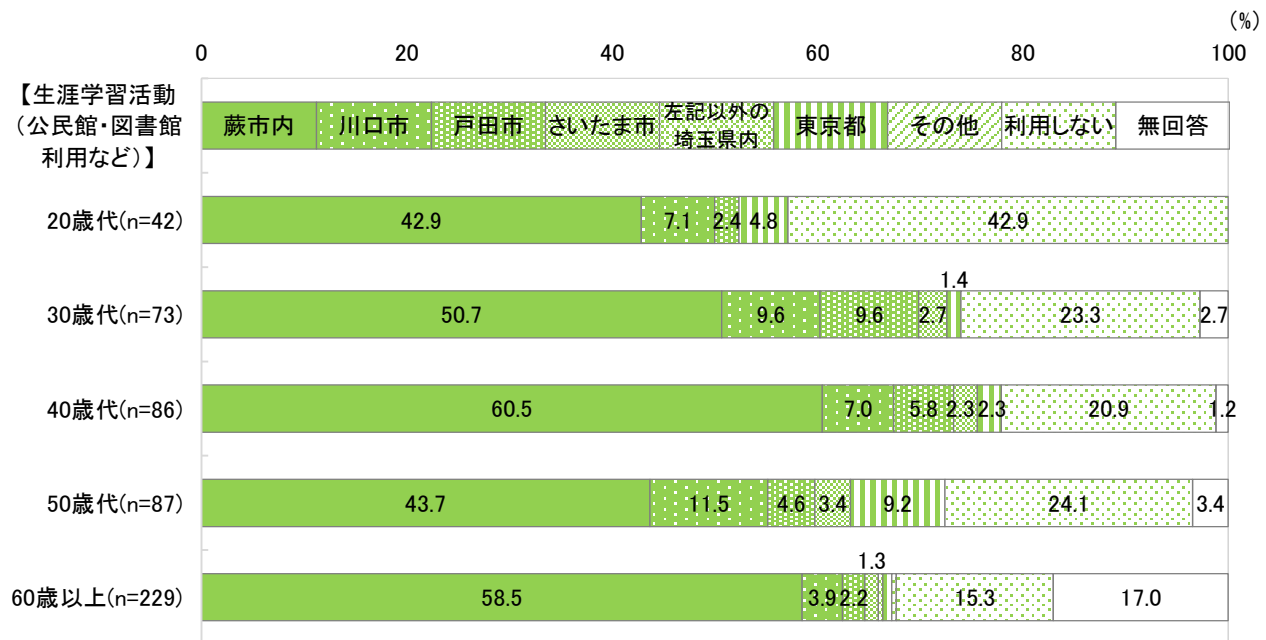
注：1.0%未満は非表示。

日用品以外の洋服・家具などの買い物について、20歳代では「東京都」が57.1%を占めており、30歳代・50歳代でも30%を超えて最も多くなっています。また、40歳代では「川口市」が30.2%、60歳以上では「さいたま市」が20.1%で最も多くなっています。



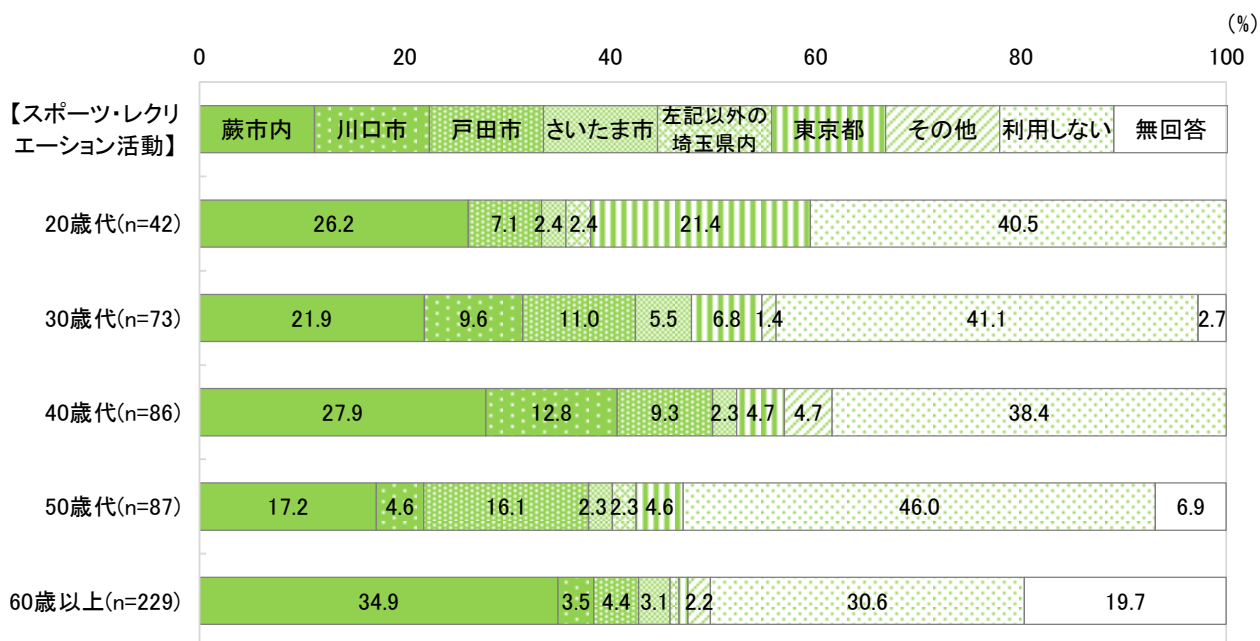
注：1.0%未満は非表示。

レストランなどでの飲食については、各年代で、「蕨市内」が20～30%程度となっています。20～30歳代、50歳代は、「東京都」が30～40%程度と「蕨市内」よりも多くなっています。



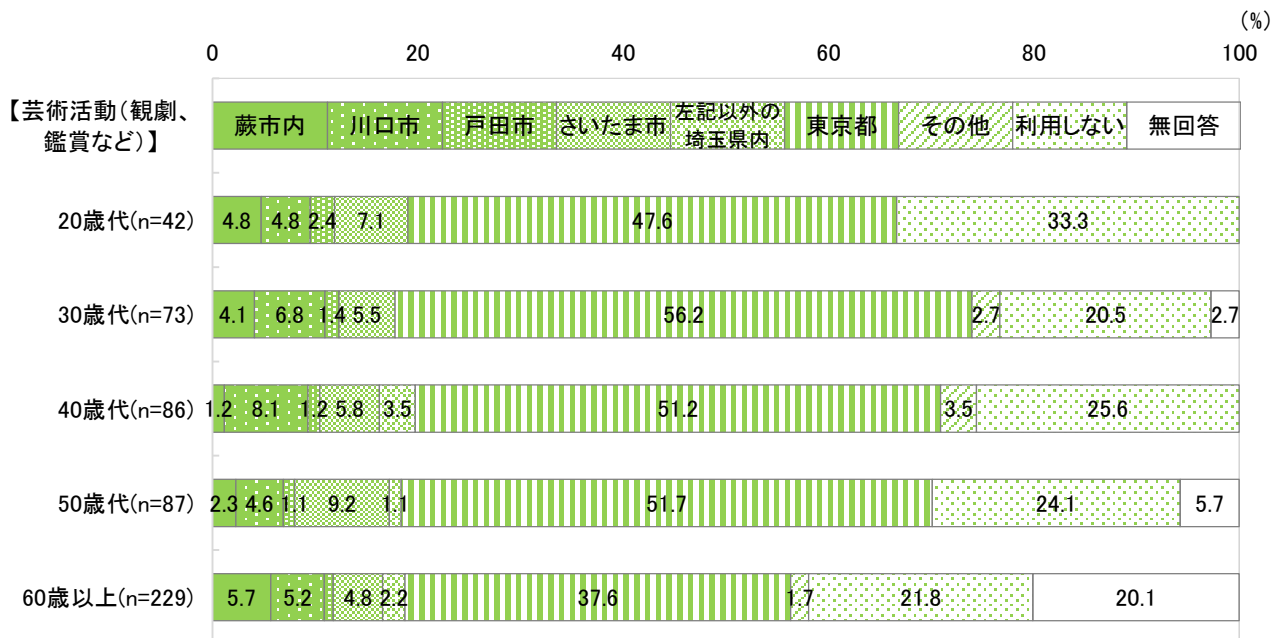
注：1.0%未満は非表示。

生涯学習活動（公民館・図書館 利用など）では、各年代で「蕨市内」の利用が最も多くなっています。特に、40歳代・60歳以上では、60%程度が利用しています。



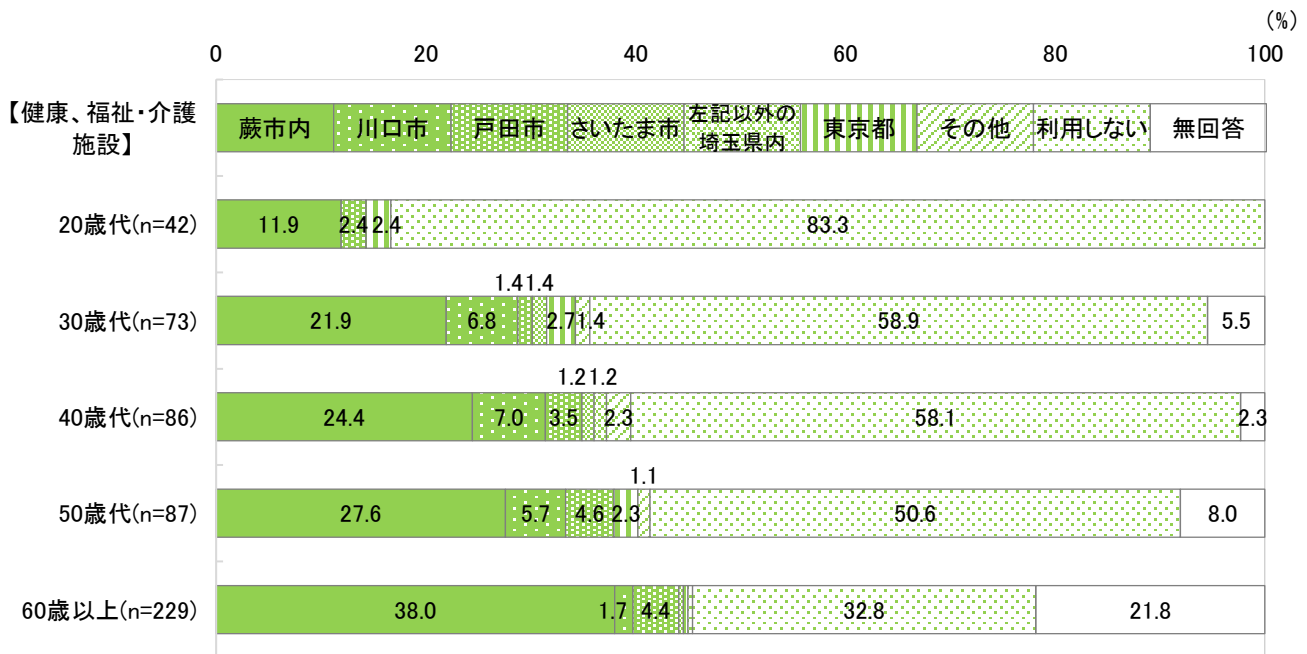
注：1.0%未満は非表示。

スポーツ・レクリエーション活動では、各年代とも「蕨市内」の利用が20～30%程度となっており、特に60歳以上では34.9%と他の年代よりも多くなっています。一方、20～50歳の約40%、60歳代以上の約30%は、利用しないと回答しています。



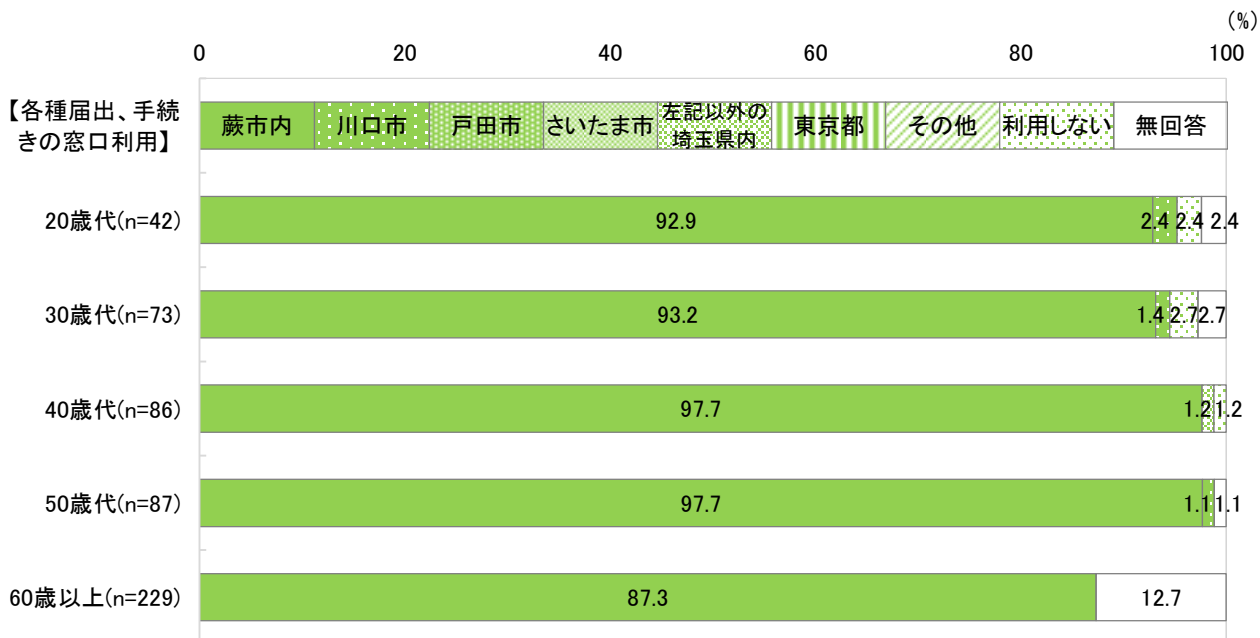
注：1.0%未満は非表示。

芸術活動（観劇、鑑賞など）について、各年代とも「東京都」の利用が最も多く、30～50歳代では半数を超えています。



注：1.0%未満は非表示。

健康、福祉・介護施設について、年齢が上がるほど利用割合が高くなっています。60歳以上は、「蕨市内」の利用が38.0%で最も多くなっています。



注：1.0%未満は非表示。

各種届出、手続きの窓口利用について、各年代とも「蕨市内」の利用が最も多く、回答傾向に大きな違いはみられません。

4. 自由意見

転入・転出や地域連携等に関するアンケートの回答者 520 人のうち、147 人（28.3%）から、延べ 192 件のご意見をいただきました。主なご意見は以下のとおりです。

1 安全で安心して暮らせるまち（13 件）

- ・狭い市であることを逆手に取り、防犯カメラを充実させてもらいたい。
- ・災害に対応した公園を充実させ、災害に強いまちにすると良い。
- ・清潔で安全なまちにする。活性化だけがまちづくりではないと思う。
- ・駅前やコンビニ前の外国人の座り込みをやめさせてほしい。

2 豊かな個性を育み子どもたちの未来輝くまち（13 件）

- ・高齢者が多いので、高齢者が子育てを手伝い、子どもが安全に暮らせる環境をつくる。
- ・10 人学級を導入するなど、子どもが主人公になれる教育のまちを目指す。
- ・公園がたくさんあるが、ボール遊びや自転車が禁止され、小学生が遊べる所が少ない。
- ・認可保育園が増え、仕事をする母親にとって暮らしやすいまちになってきている。

3 みんなにあたたかく健康に生活できるまち（25 件）

- ・コンパクトシティ蕨の特性を生かして、在宅介護やデイサービスなど、利用しやすい福祉制度を整えるべきだ。
- ・医師不足を解消してもらいたい。夜間診療に対応する病院を増やしてもらいたい。
- ・高齢者が多いのに介護施設が少ない。一人暮らしの高齢者を見守る体制も必要だ。
- ・空き教室などを活用して、高齢者がくつろげる場所を設けると良い。
- ・駅周辺に託児所と高齢者施設を兼ねた施設をつくり、「子育てと高齢者のまち」をアピールしてはどうか。

4 にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち（20 件）

- ・まちに華やかさがなく暗いイメージがある。商店街も空き店舗が目立つので、活気がほしい。
- ・企業誘致を進め、若い人を呼び込む必要がある。
- ・駅周辺を整備し、人が集まる大型商業施設をつくってもらいたい。
- ・平日は仕事でほとんど蕨市にはいないので、休日に地域交流イベントなど普段関わりがなくても参加できるものがあると、地域に目を向けられると思う。

5 快適で過ごしやすく環境にやさしいまち（29件）

- ・歩道や道路脇にゴミが目立つので、ゴミを正しく捨てる指導をお願いしたい。
- ・駅周辺に違法駐輪が多く汚らしく感じる。自転車の整理を検討してもらいたい。
- ・集中豪雨の際、水はけの悪い場所が多く、下水道の整備が必要だと感じる。
- ・公園や街路樹など自然景観の整備を図り、オアシスのような空間があると良い。
- ・空き家が増えているので、有効利用できるよう、積極的に取り組んでもらいたい。
- ・都心へのアクセスは良いが、県内の交通が不便だと感じる。

6 一人ひとりの心でつなぐ笑顔あふれるまち（15件）

- ・外国人がものすごく増えていて、中にはゴミの分別などマナーを守らない人がいるので、転居時にしっかりと指導してもらいたい。
- ・まちでたむろする外国人に不安、不満を感じる。
- ・町会の役員の高齢化が進んでおり、今後、町会をどのように運営するかが課題になると思う。
- ・オシャレなカフェなど、子どもから高齢者まで交流できる場所づくりを進めると良い。
- ・市民全体がエネルギーをそそげる行事があると良い。

7 行政（35件）

- ・目先のサービスばかりを追求せず、将来の蕨市をどのようにしたいのか、目標を持って改革を進めてもらいたい。
- ・障害者への支援、男女参画、介護などの情報が伝わりにくい状況なので、議員等が定期的に報告会を開き、市民と交流する機会を設けてはどうか。
- ・短時間でも良いので、市役所で土日も各種手続きができるようにしてもらいたい。
- ・日数がかかっても構わないので、公民館でも各種手続きができると良い。
- ・蕨市に転入した際、住民税の高さに驚いた。

8 地域連携（28件）

- ・蕨市だけで全ての施設を作らず、充実した内容の施設を周辺市と分担して作るべきだ。
- ・戸田市とは連携しているようだが、川口市の方が生活圏なので連携がとれるとうれしい。
- ・戸田市の病院でも子どもの医療費助成が手続きなしで受けられ助かっている。
- ・近隣市と合併して格差のない行政サービスを行うべきだ。
- ・近隣市のスポーツセンターや公民館など公共施設を使えると良い。
- ・近隣市と連携してコミュニティバスをもっと便利にしてもらいたい。

9 その他（12件）

- ・市議会議員の人数を減らすべきだ。
- ・インターネットアンケートにした方が、紙が不要で良いと思う。

Ⅲ. 就職・進学状況や定住意向等に関するアンケート

■ 調査の概要

1. 目的

この調査は、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、「(仮称) 蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」および「(仮称) 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するにあたり、市民の就職・進学状況や定住意向等に関する意見を把握するために実施しました。

2. 調査方法

- (1) 調査期間 平成 27 年 6 月
- (2) 調査対象 市内在住の 16 歳から 22 歳までの男女
- (3) 対象者数 1,000 人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から各地区の年齢層別の人口比率に基づき、男女別に無作為抽出
- (5) 調査方法 行政連絡員による送付、郵便による回答

3. 調査項目

- (1) 回答者自身について
- (2) 就職・進学について
- (3) 将来の定住意向について
- (4) 蕨市のまちづくりについて
- (5) 自由意見

4. 回収結果

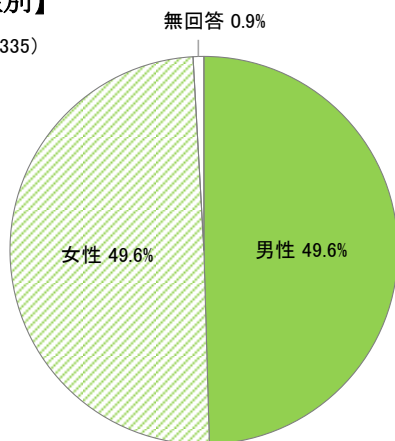
- (1) 配布数 1,000 票
- (2) 回収数 335 票
- (3) 回収率 33.5%
- (4) 有効回答数 335 票 (白票 0 票)

■ 調査の結果

1. あなたご自身について

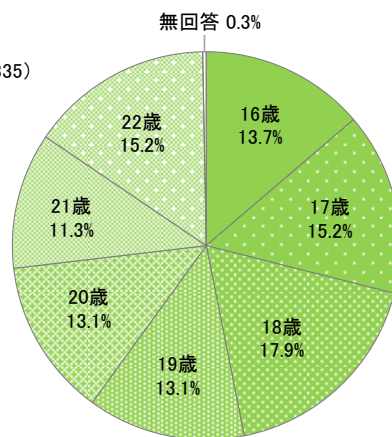
【性別】

(n=335)



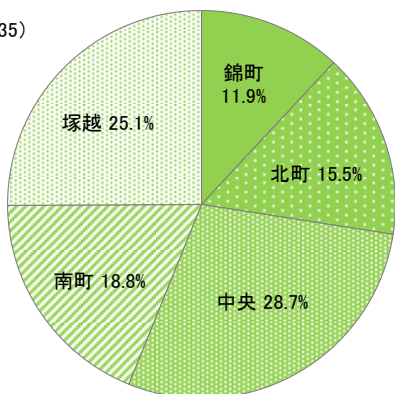
【年齢】

(n=335)



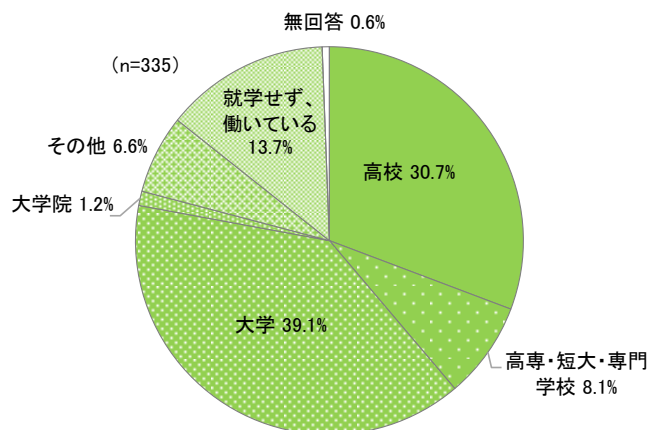
【居住地】

(n=335)



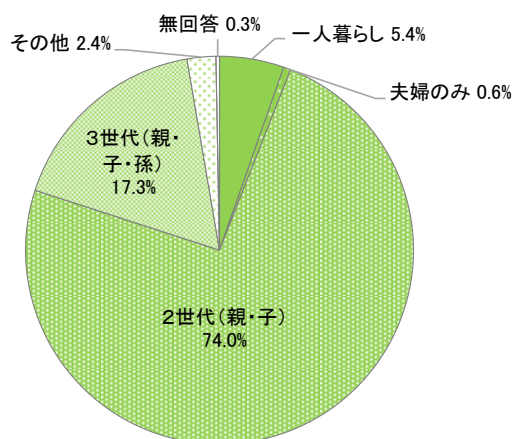
【就学・就職状況】

(n=335)



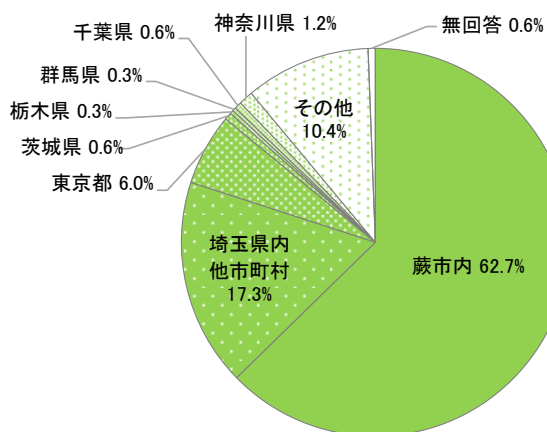
【同居の家族構成】

(n=335)



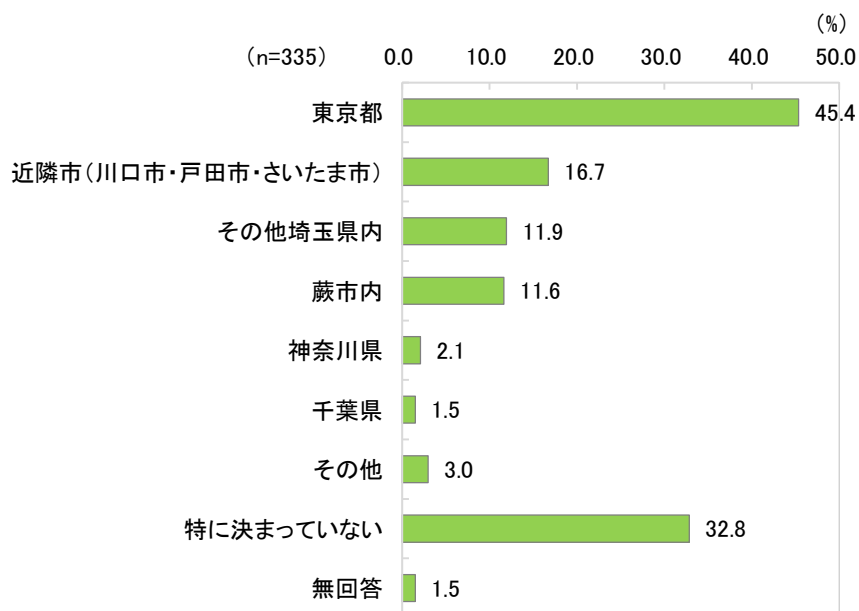
【出身地】

(n=335)



2. 就職・進学について

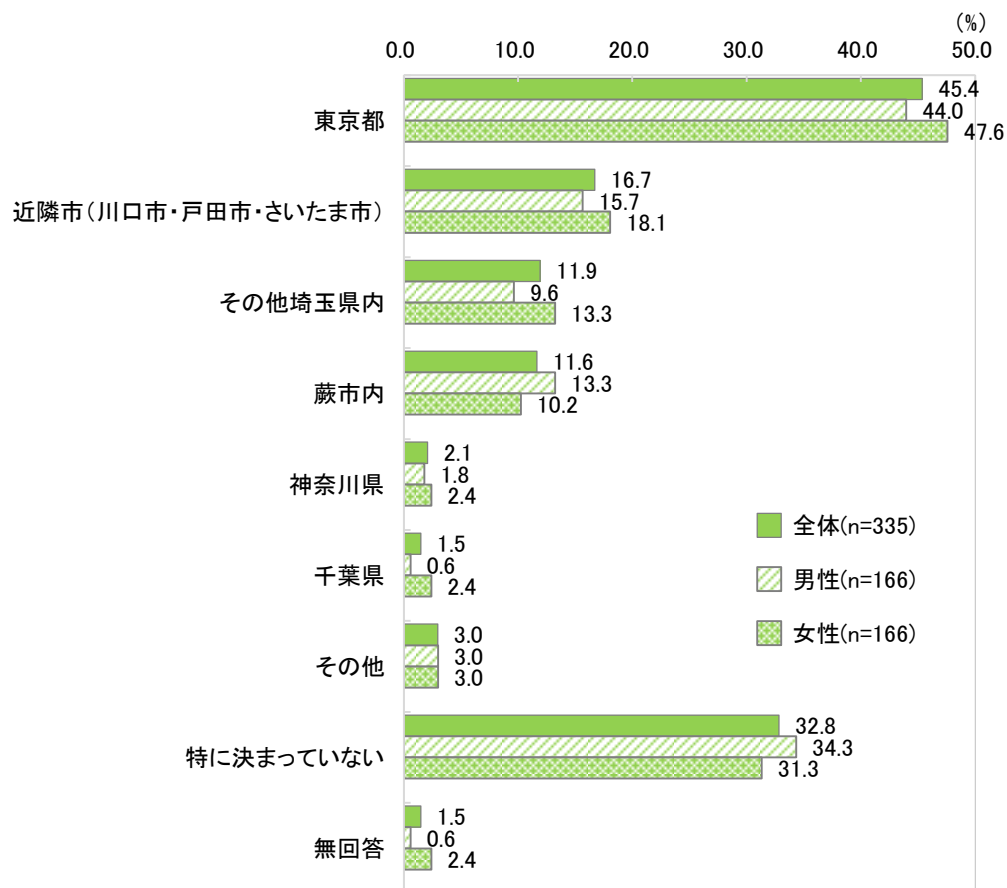
問1. 就職先として希望する地域 あなたは、将来、就職（または転職・再就職）先として希望する地域はありますか。（○印は2つまで）



就職先として希望する地域は、「東京都」が 45.4%で最も多く、次いで「近隣市（川口市・戸田市・さいたま市）」が 16.7%となっています。そのほか、「その他埼玉県内」（11.9%）、「蕨市内」（11.6%）が続いています。

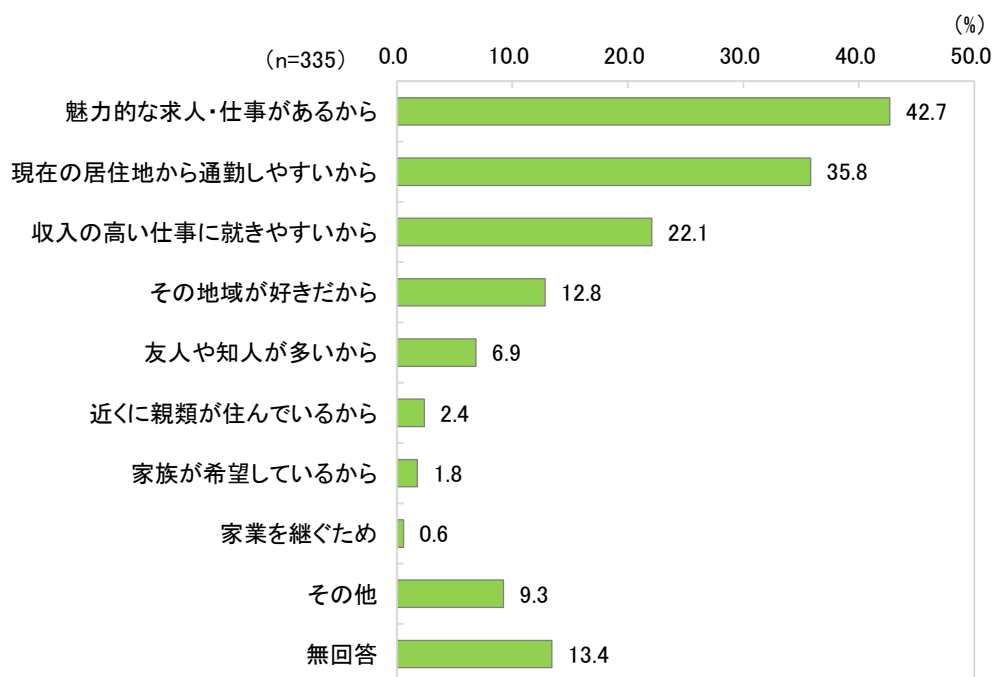
また、就職先として希望する地域が特に決まっていない人が 32.8%となっています。

<属性別>



性別にみて、回答傾向に大きな違いはなく、男女とも、「東京都」、次いで「近隣市（川口市・戸田市・さいたま市）」を希望する人が多くなっています。

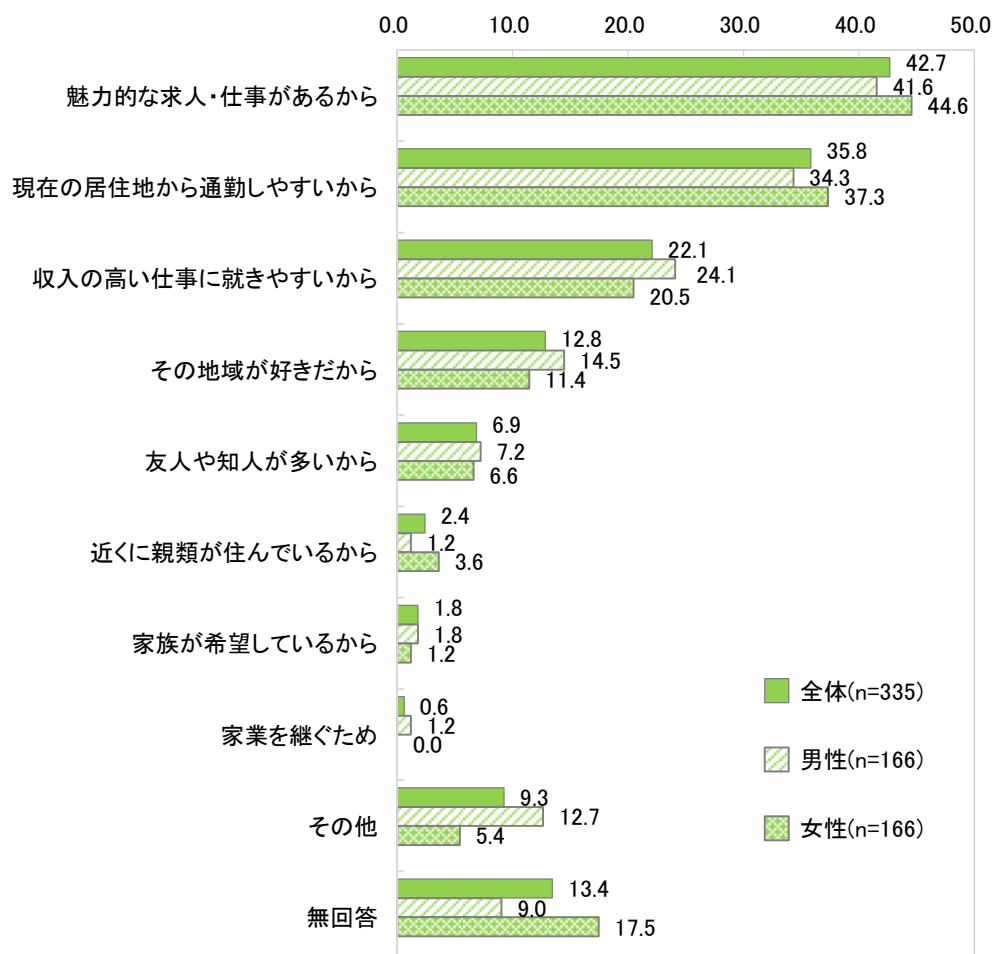
問2. 就職先として希望する理由 上記の地域を希望する理由は何ですか。
(○印は2つまで)



就職希望先として選ぶ理由は、「魅力的な求人・仕事があるから」が 42.7%と最も多く、次いで「現在の居住地から通勤しやすいから」が 35.8%となっています。また、「収入の高い仕事に就きやすいから」が 22.1%と続いています。

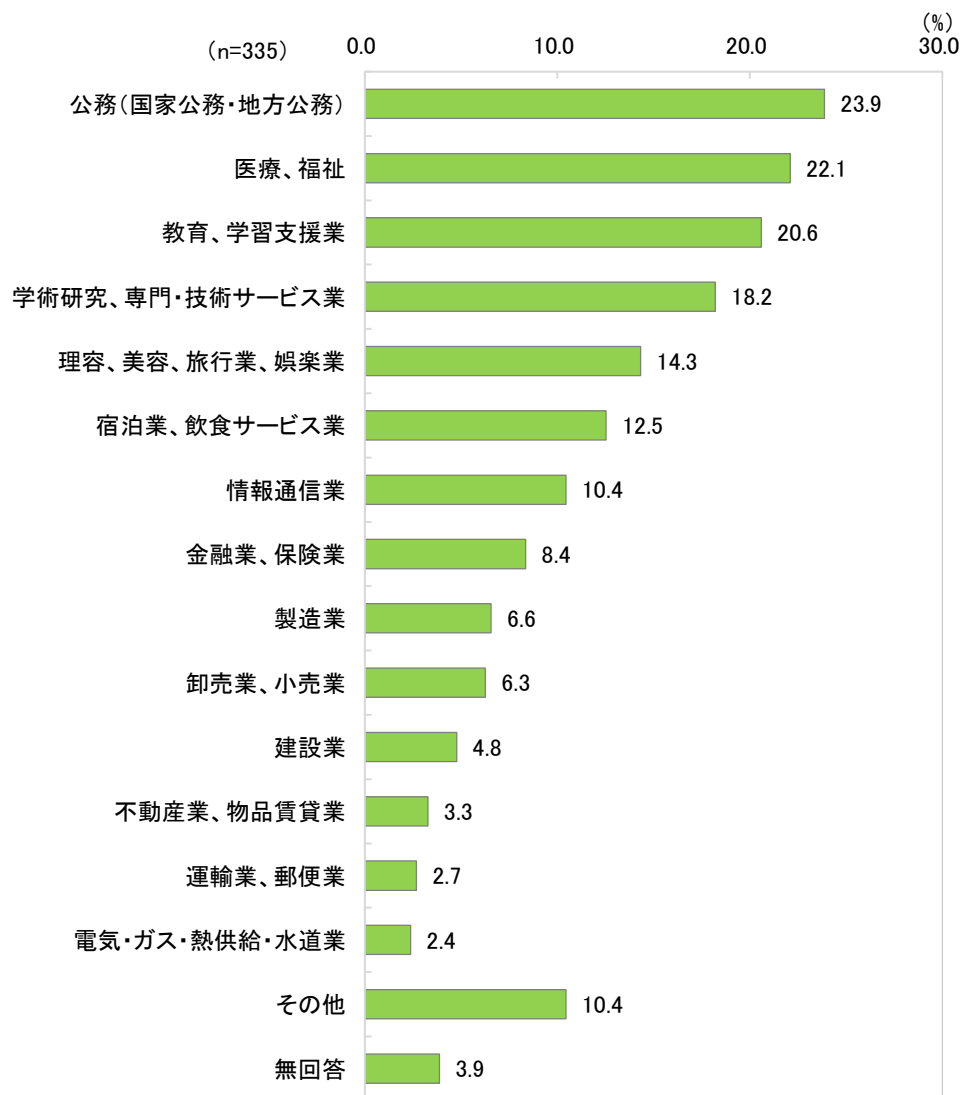
<属性別>

(%)



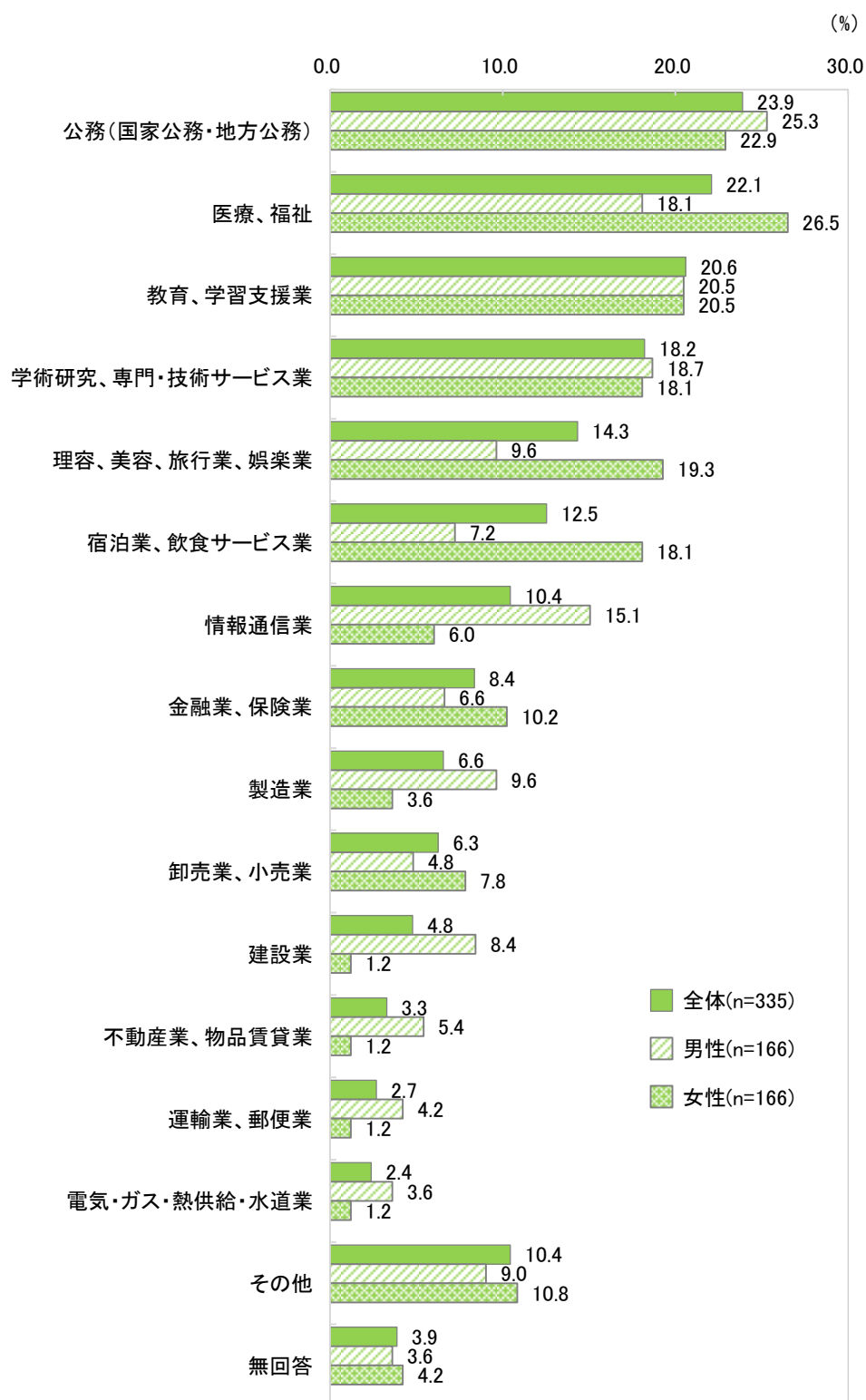
性別にみると、回答傾向に大きな違いはなく、男女ともに「魅力的な求人・仕事があるから」が最も多く、次いで「現在の居住地から通勤しやすいから」となっています。

問3. **就職したい業種** あなたは、どのような業種に就職したいと思いますか。
 (〇印は3つまで)



就職したい業種は、「公務（国家公務・地方公務）」が23.9%、「医療、福祉」が22.1%、「教育、学習支援業」が20.6%で上位となっています。また、「学術研究、専門・技術サービス業」が18.2%と続いています。

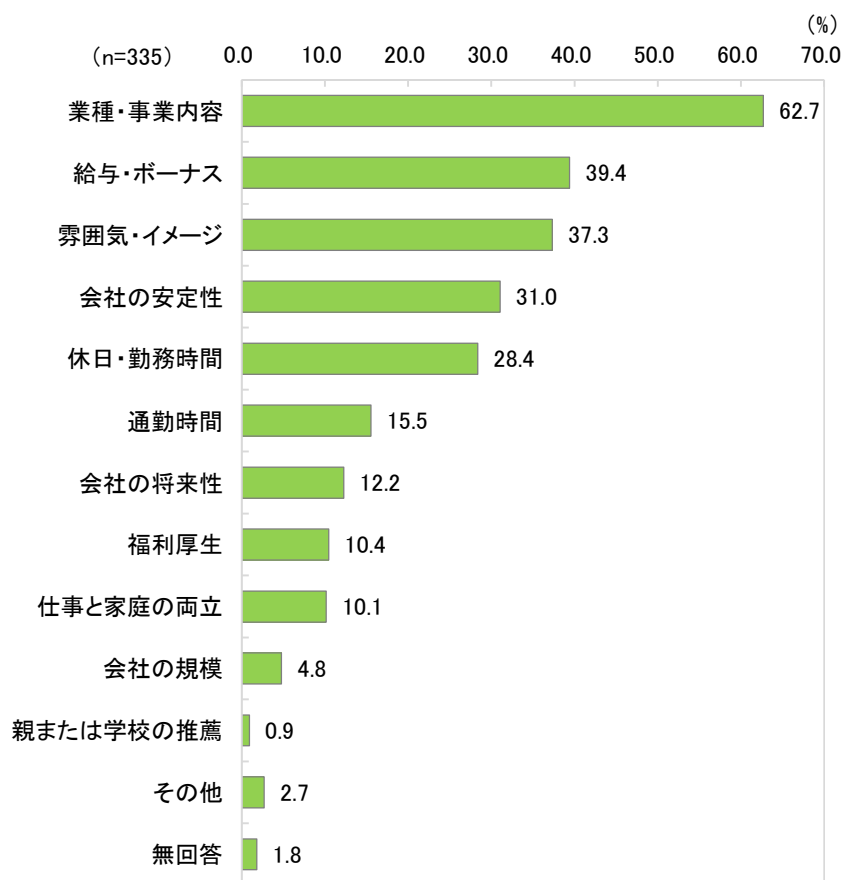
<属性別>



性別にみると、男女とも、「公務（国家公務・地方公務）」、「教育、学習支援業」、「学術研究、専門・技術サービス業」を就職したい業種として上位に挙げています。

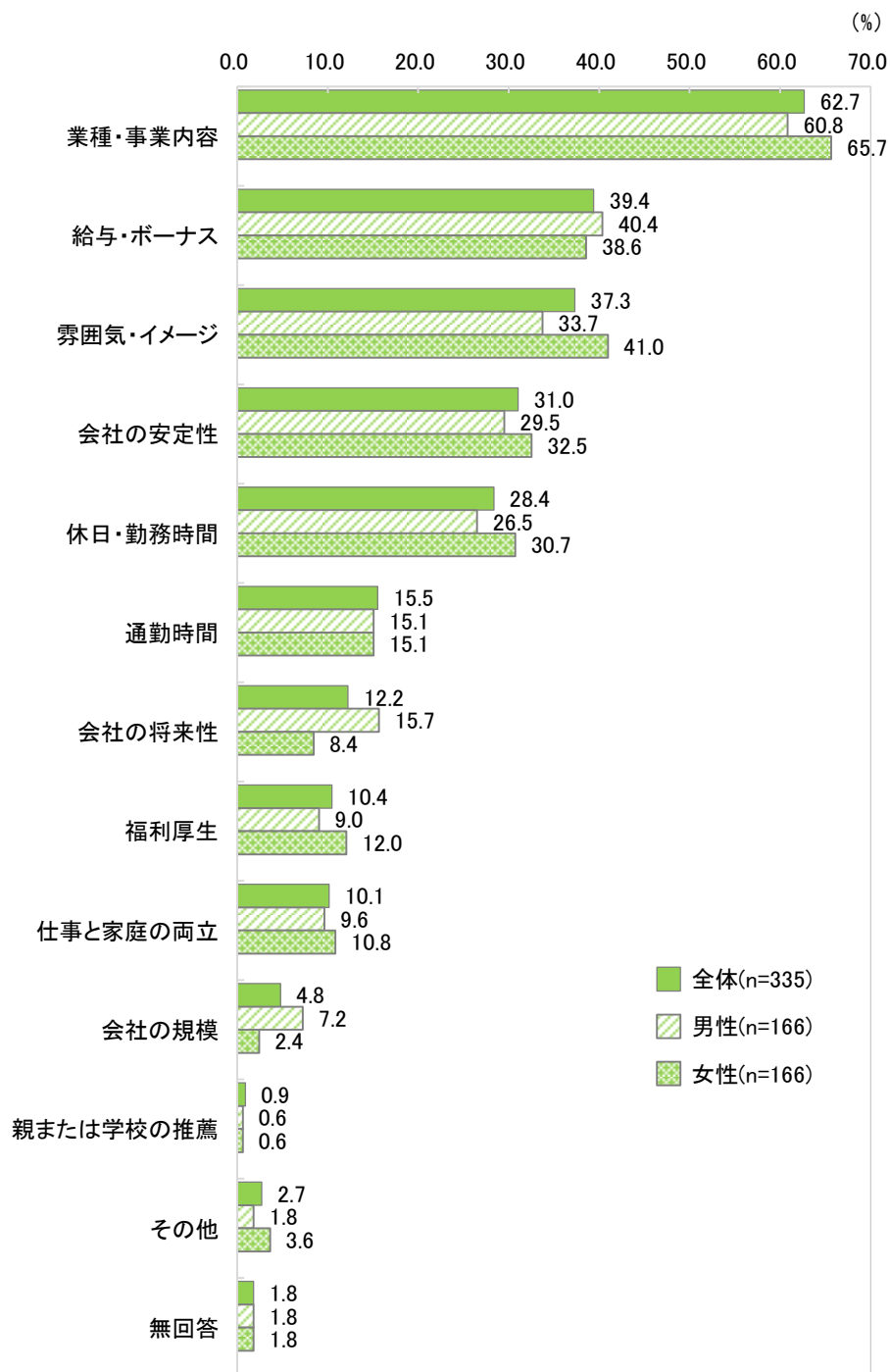
女性に多い就職希望業種は、「医療、福祉」が26.5%で最も多くなっています。このほか、「理容、美容、旅行業、娯楽業」、「宿泊業、飲食サービス業」もそれぞれ20%程度で、男性よりも約2倍多くなっています。一方、男性は、「情報通信業」、「製造業」、「建設業」といった業種において、女性よりも多くなっています。

問4. **就職先を選ぶ条件** あなたが就職先を選ぶ条件は何ですか。(〇印は3つまで)



就職先を選ぶ条件は、「業種・事業内容」が62.7%と半数を超えて最も多くなっています。次いで「給与・ボーナス」(39.4%)と「雰囲気・イメージ」(37.3%)が上位となっています。そのほか、「会社の安定性」(31.0%)、「休日・勤務時間」(28.4%)が続いています。

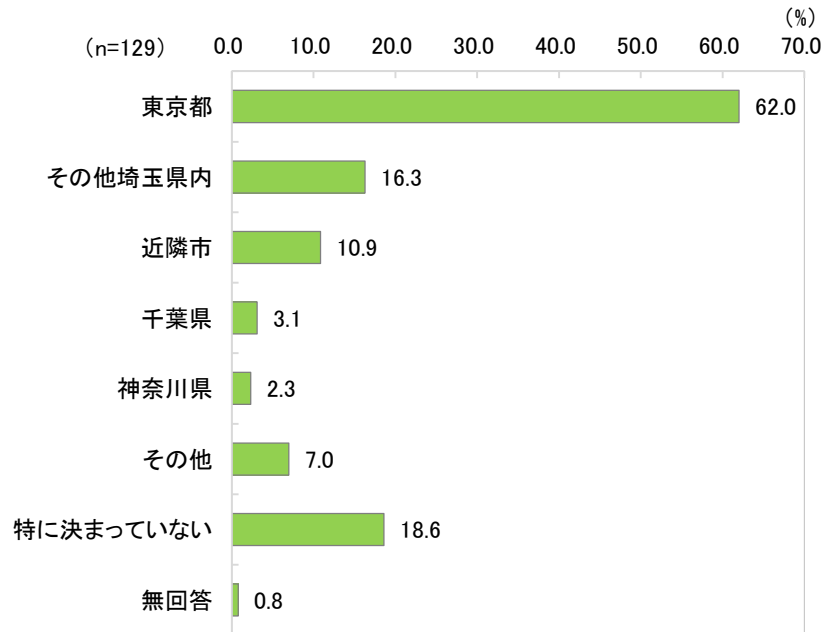
<属性別>



性別にみると、男女とも、「業種・事業内容」、「給与・ボーナス」について、就職先を選ぶ条件として上位に挙げています。また、「雰囲気・イメージ」については、女性の方がより重視する傾向にあります。一方、男性の方は「会社の将来性」を女性よりも重視する傾向にあります。

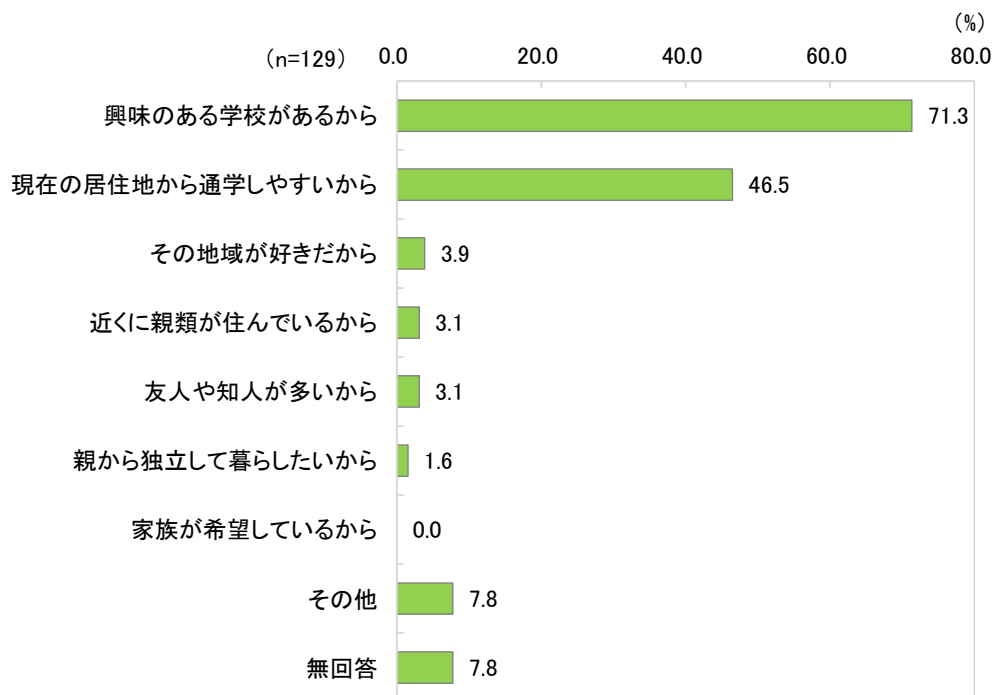
【進学を希望される方に伺います。】

問5. 進学先として希望する地域 あなたは、将来、進学先として希望する地域はありますか。(〇印は2つまで)



進学先として希望する地域は、「東京都」が 62.0%と半数を超えて最も多くなっています。次いで、「その他埼玉県内」が 16.3%、「近隣市」が 10.9%となっています。

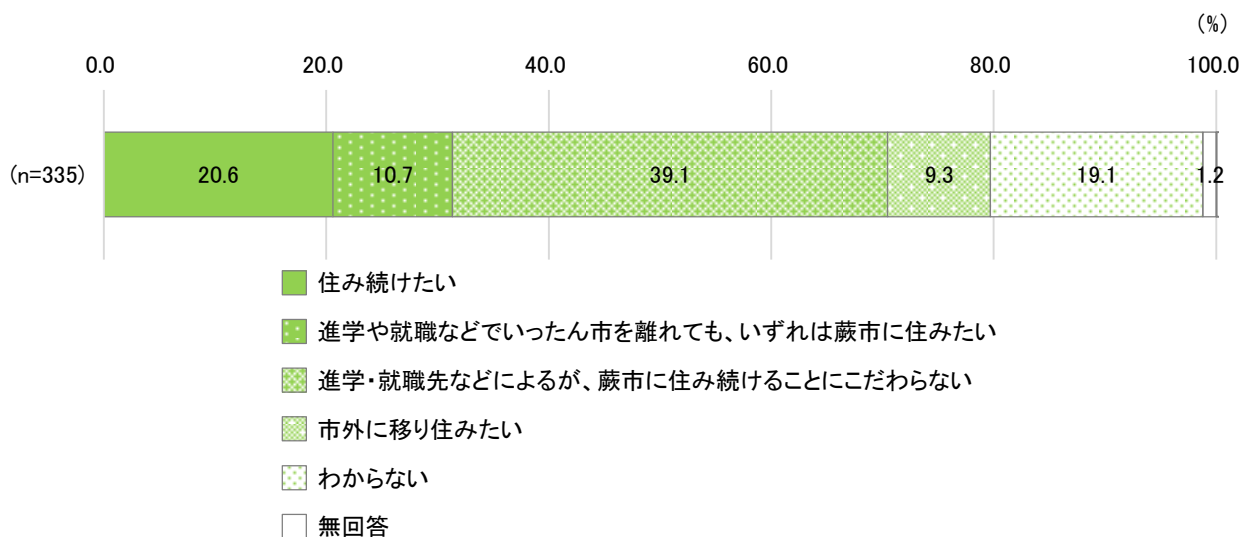
問6. 進学先として希望する理由 上記の地域を希望する理由は何ですか。
(○印は2つまで)



進学先として希望する理由は、「興味のある学校があるから」が71.3%と最も多く、次いで「現在の居住地から通学しやすいから」が46.5%となっています。

3. 将来の定住意向について

問7. **将来の定住意向** あなたは将来、進学や就職、結婚をしてからも、蕨市に住み続けたいと思いますか。(○印は1つ)

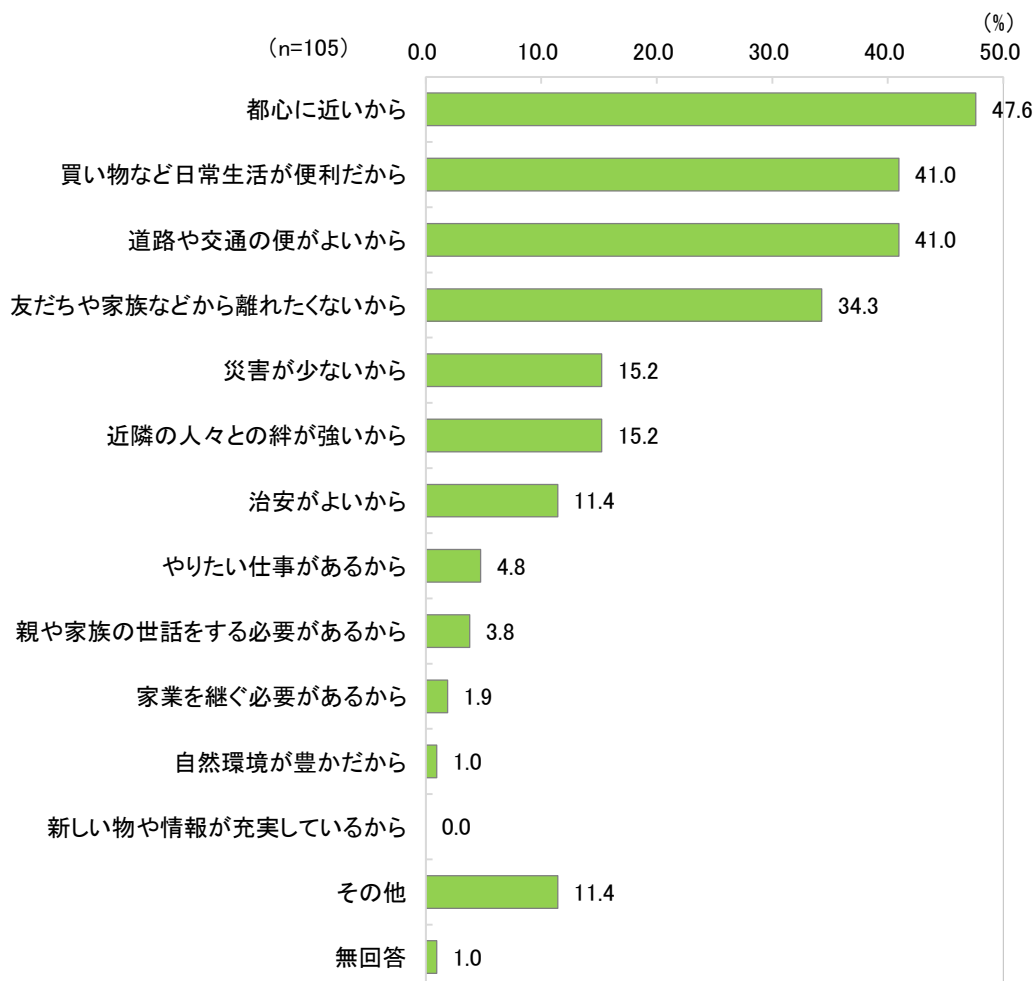


将来の定住意向について、「進学・就職先などによるが、蕨市に住み続けることにこだわらない」が 39.1%で最も多く、「市外に移り住みたい」(9.3%)と合計すると 48.4%となっています。一方、「住み続けたい」は 20.6%で、「進学や就職などでいったん市を離れても、いずれは蕨市に住みたい」(10.7%)と合計すると 31.3%となっています。

また、「わからない」は 19.1%となっています。

【問7で「住み続けたい」または「進学や就職などでいったん市を離れても、いずれは蕨市に住みたい」を選んだ方に伺います。】

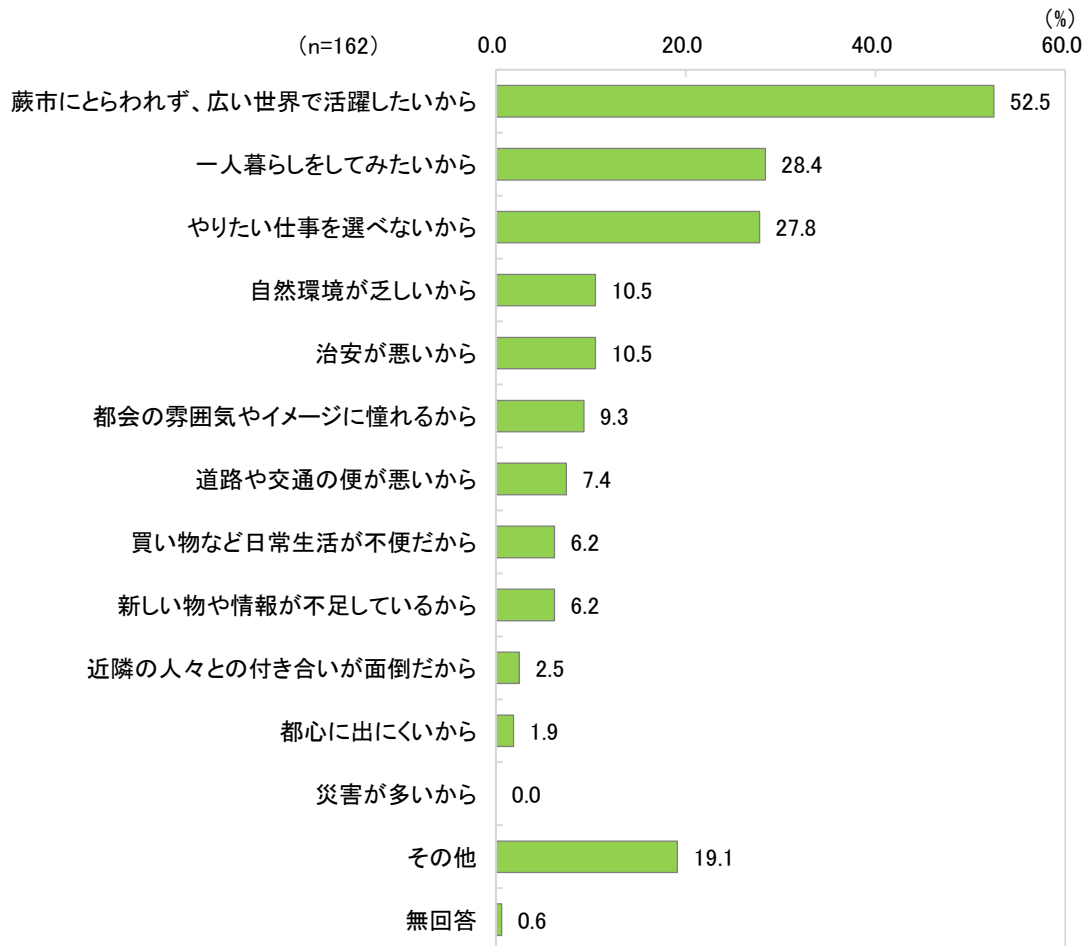
問8. **住みたい理由** あなたが蕨市に住みたいと思う理由は何ですか。(〇印は3つまで)



蕨市に住みたい理由は、「都心に近いから」が47.6%で最も多く、次いで、「買い物など日常生活が便利だから」と「道路や交通の便がよいから」がそれぞれ41.0%となっています。このほか「友だちや家族などから離れたくないから」が34.3%と続いています。

【問7で「進学・就職先などによるが、蕨市に住み続けることにこだわらない」または「市外に移り住みたい」を選んだ方に伺います。】

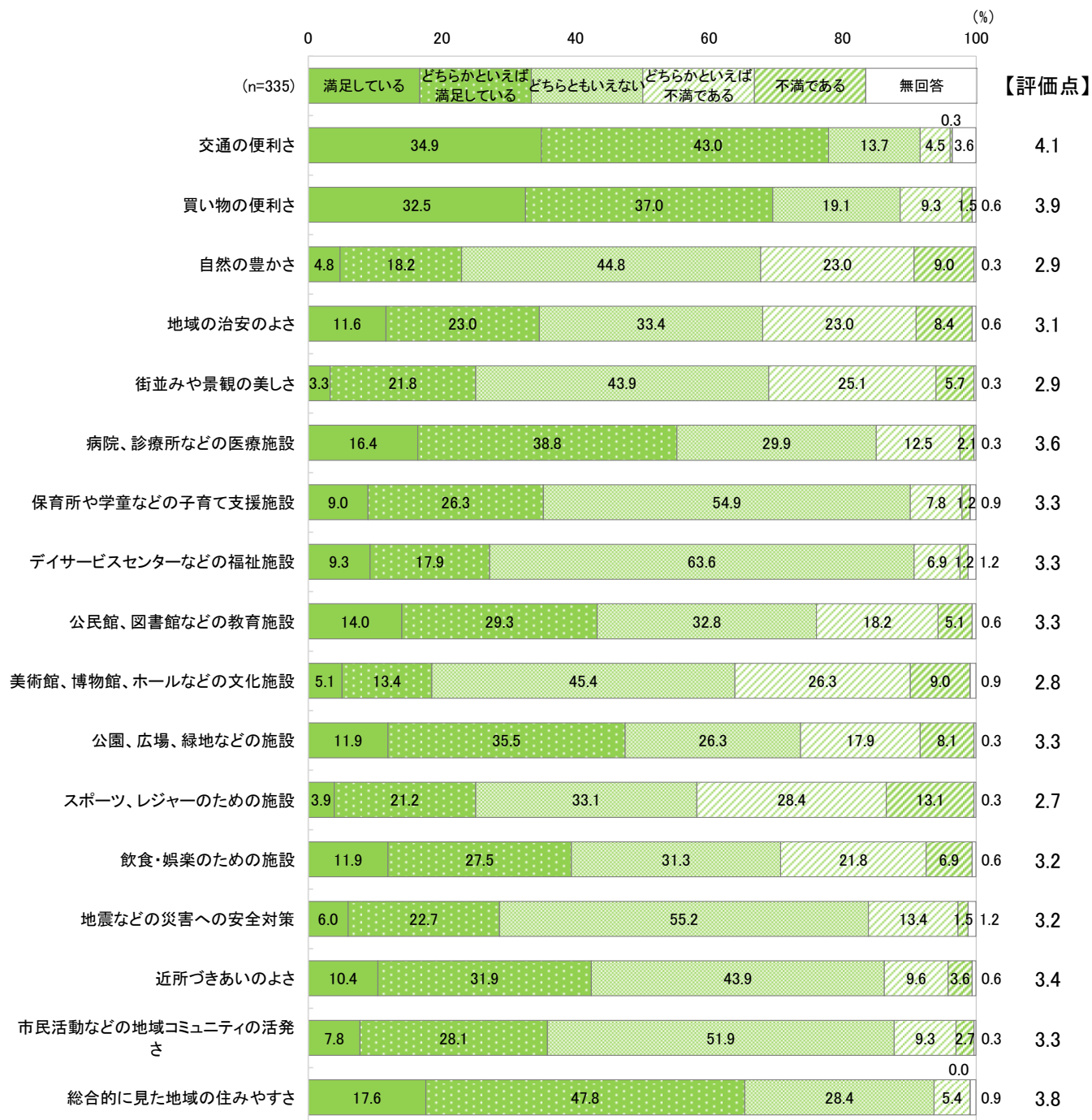
問9. **こだわらない・移りたい理由** あなたが蕨市に住み続けることにこだわらない理由、あるいは市外に移り住みたい理由は何ですか。(〇印は3つまで)



蕨市に住み続けることにこだわらない、あるいは市外に移り住みたい理由は、「蕨市にとらわれず、広い世界で活躍したいから」が52.5%と最も多くなっています。次いで、「一人暮らしをしてみたいから」(28.4%)と「やりたい仕事を選べないから」(27.8%)となっています。

4. 藤市のまちづくりについて

問10. **満足度** あなたの普段の生活に対する満足度について、お答えください。
 ((1)～(17)それぞれについて○印は1つ)



満足度の評価点平均 3.3

注：満足度の評価点は、「満足している・どちらかといえば満足している・どちらともいえない・どちらかといえば不満である・不満である」の回答数に、「5・4・3・2・1」点を与え、その合計を回答数（無回答を除く）で除して算出。

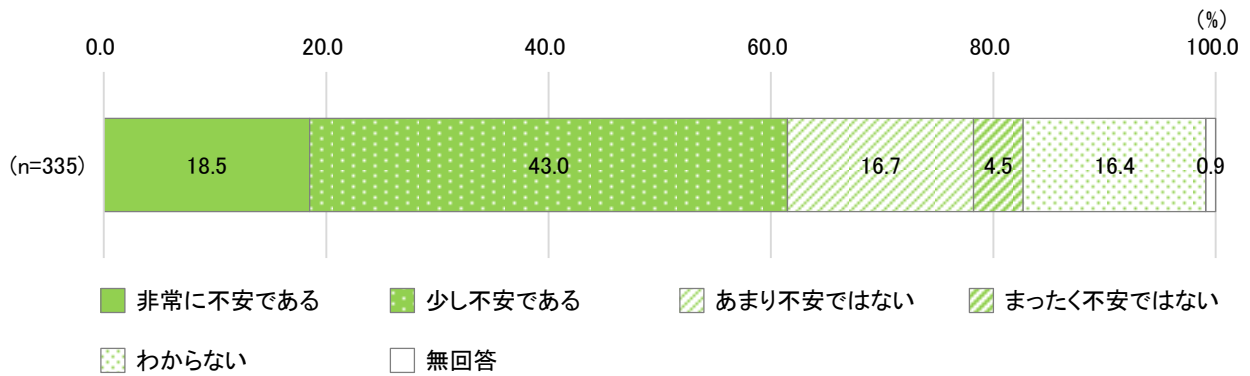
全項目に対する満足度の評価点の平均は、3.3 となっています。

普段の生活に対する満足度の評価点は、「交通の便利さ」(4.1)、「買い物の便利さ」(3.9)において高くなっています。

一方、「スポーツ、レジャーのための施設」(2.7)や「美術館、博物館、ホールなどの文化施設」(2.8)に対する満足度は低くなっています。また、「自然の豊かさ」(2.9)や「街並みや景観の美しさ」(2.9)でも満足度は低くなっています。

「総合的に見た地域の住みやすさ」は3.8で、結婚・出産・子育て等に関するアンケート(問18)や転入・転出や地域連携等に関するアンケート(問15)と比べて高くなっています。

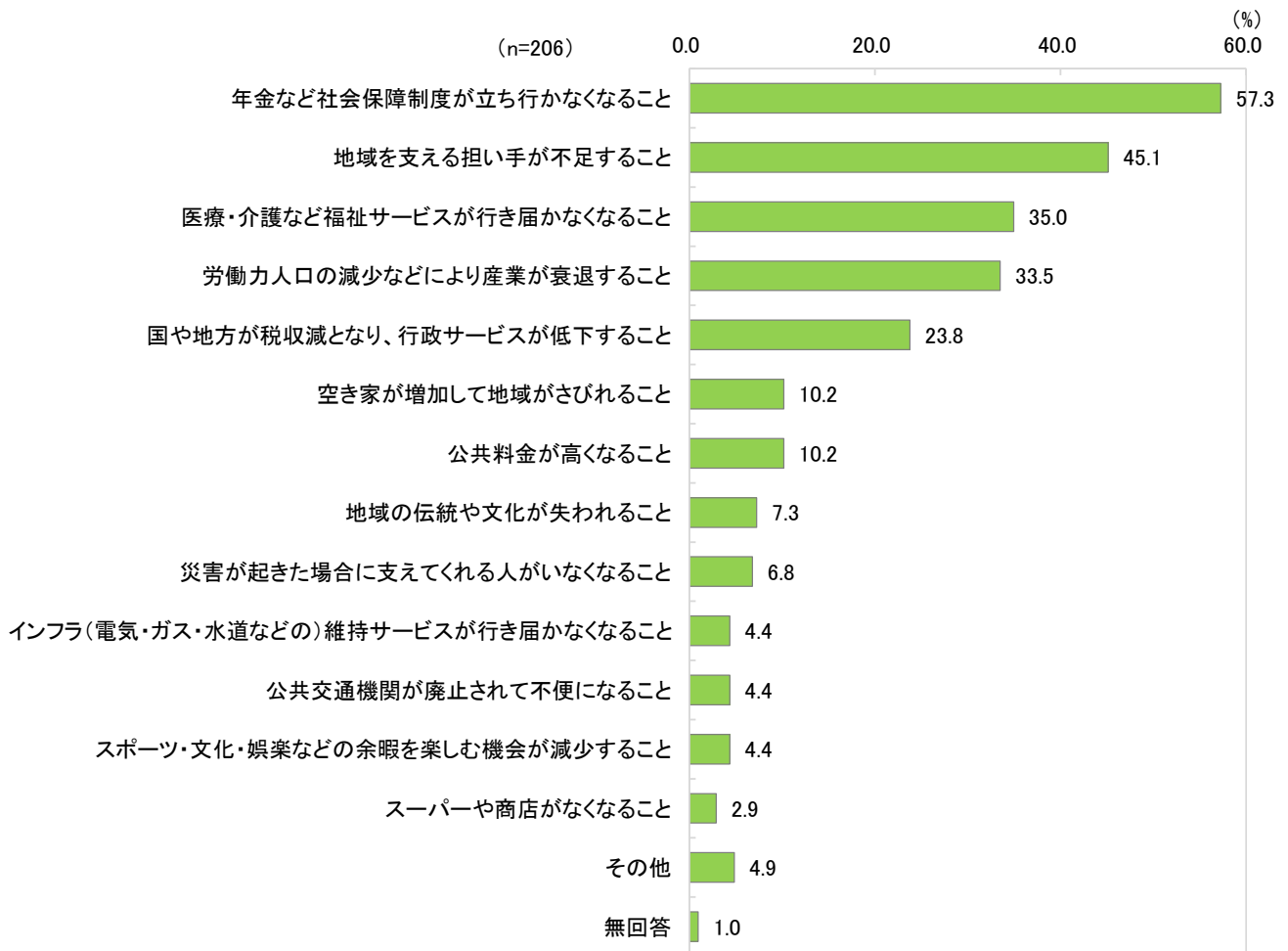
問 1 1. **人口問題に対する不安** あなたは人口減少や高齢化といった人口問題に対して不安
 がありますか。(〇印は1つ)



人口減少や高齢化といった人口問題に対して、「非常に不安である」(18.5%)、または「少し不安である」(43.0%)の合計は、**61.5%**となっています。一方、「あまり不安ではない」(16.7%)、または「まったく不安ではない」(4.5%)の合計は、**21.2%**であり、多くの人が人口問題に対して不安を感じている傾向にあります。

【問11で「非常に不安である」または「少し不安である」を選んだ方に伺います。】

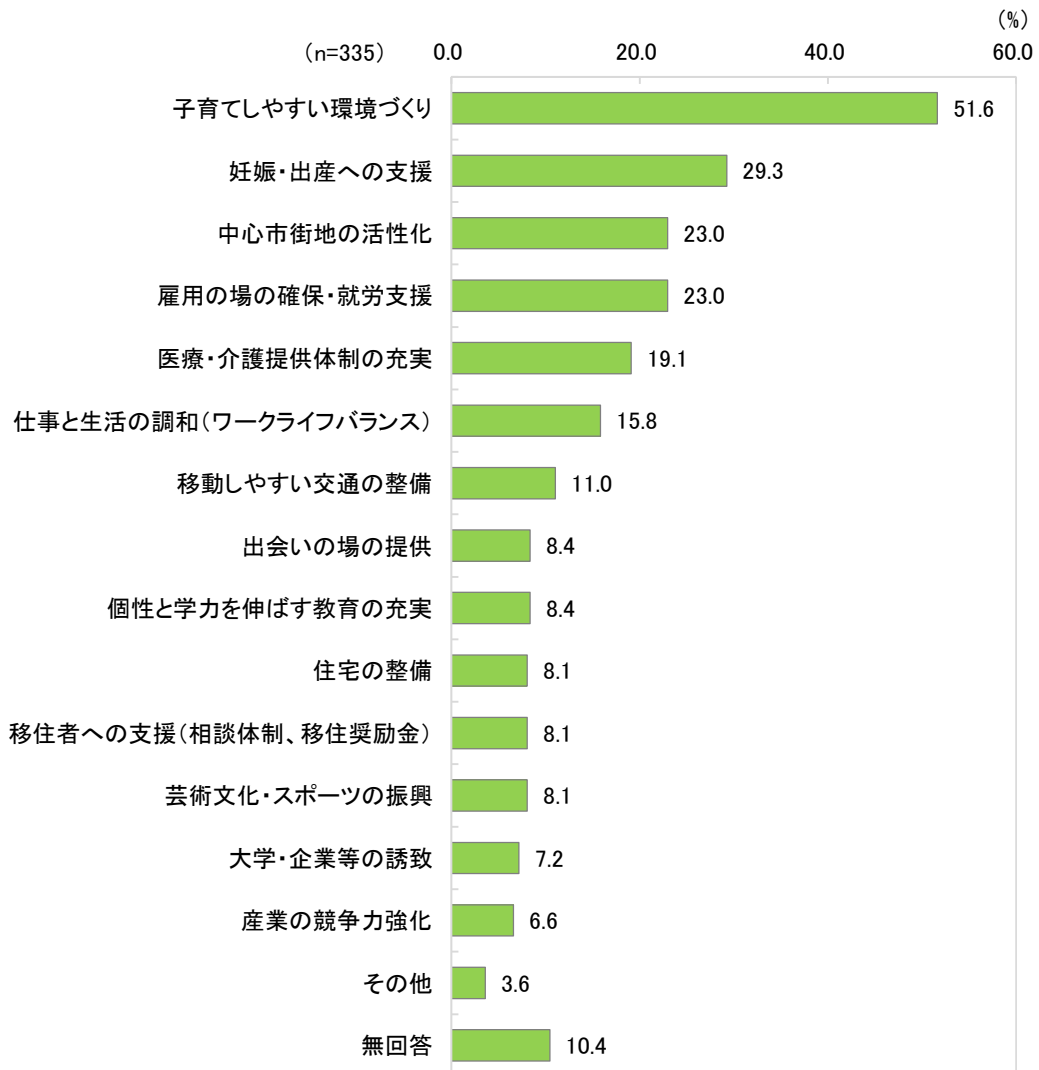
問12. **不安の内容** 人口問題に対して、どのような不安がありますか。(〇印は3つまで)



人口問題に対する不安の内容としては、「社会保障制度が立ち行かなくなること」が57.3%と半数を超えて最も多くなっています。次いで、「地域を支える担い手が不足すること」(45.1%)、「医療・介護など福祉サービスが行き届かなくなること」(35.0%)、「労働力人口の減少などにより産業が衰退すること」(33.5%)が上位となっています。

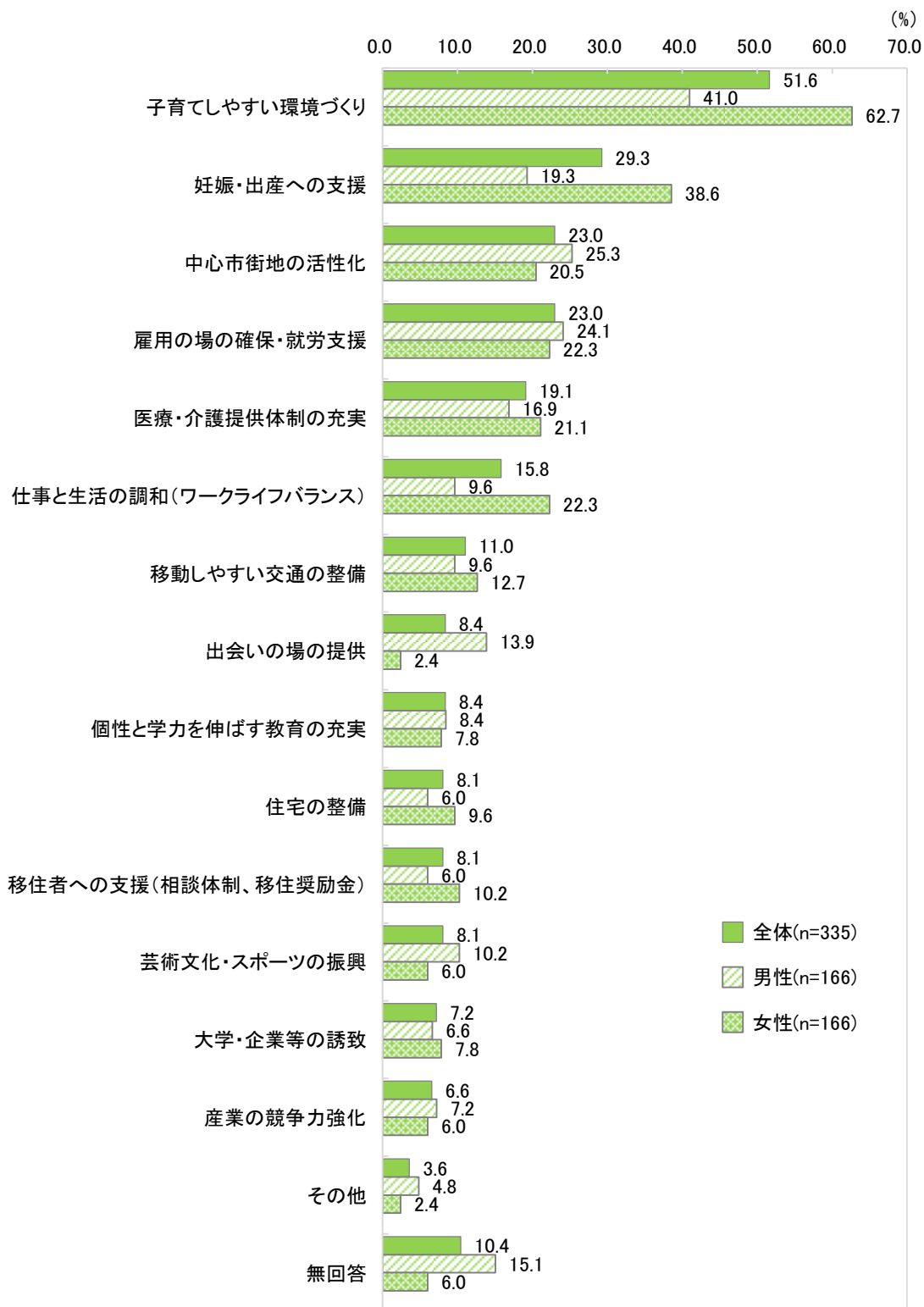
結婚・出産・子育て等に関するアンケート(問20)や、転入・転出や地域連携等に関するアンケート(問17)と比べると、「地域を支える担い手が不足すること」と「労働力人口の減少などにより産業が衰退すること」が多い傾向がみられます。

問13. **人口問題への対応** 人口問題に対応するため、行政はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(〇印は3つまで)



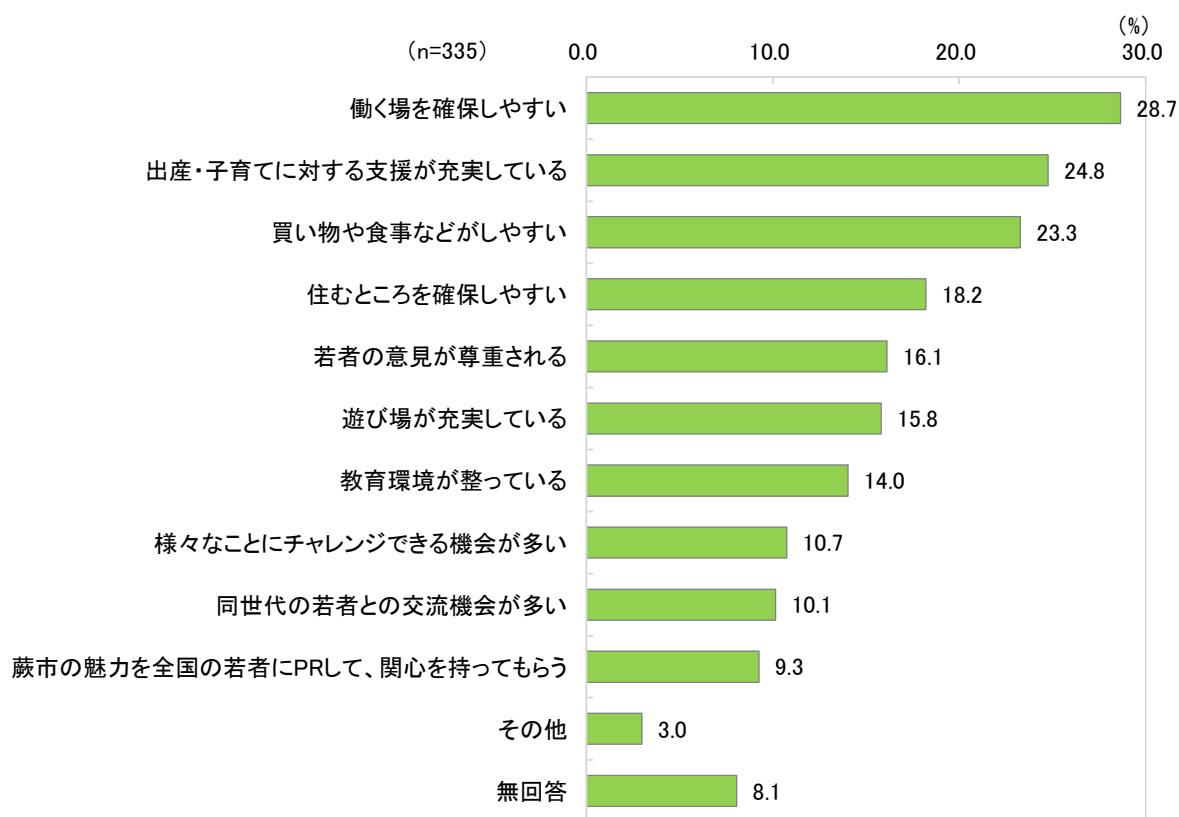
人口問題への対応として行政が取り組むべきことは、「子育てしやすい環境づくり」が51.6%と半数を超えて最も多くなっています。次いで「妊娠・出産への支援」(29.3%)、中心市街地の活性化」(23.0%)、「雇用の場の確保・就労支援」(23.0%)が上位となっています。このほか、「医療・介護提供体制の充実」(19.1%)、「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」(15.8%)が続いています。

<属性別>



性別にみると、「子育てしやすい環境づくり」や、「妊娠・出産への支援」、「仕事と生活の調和」については、女性の方が男性よりも多い傾向があります。

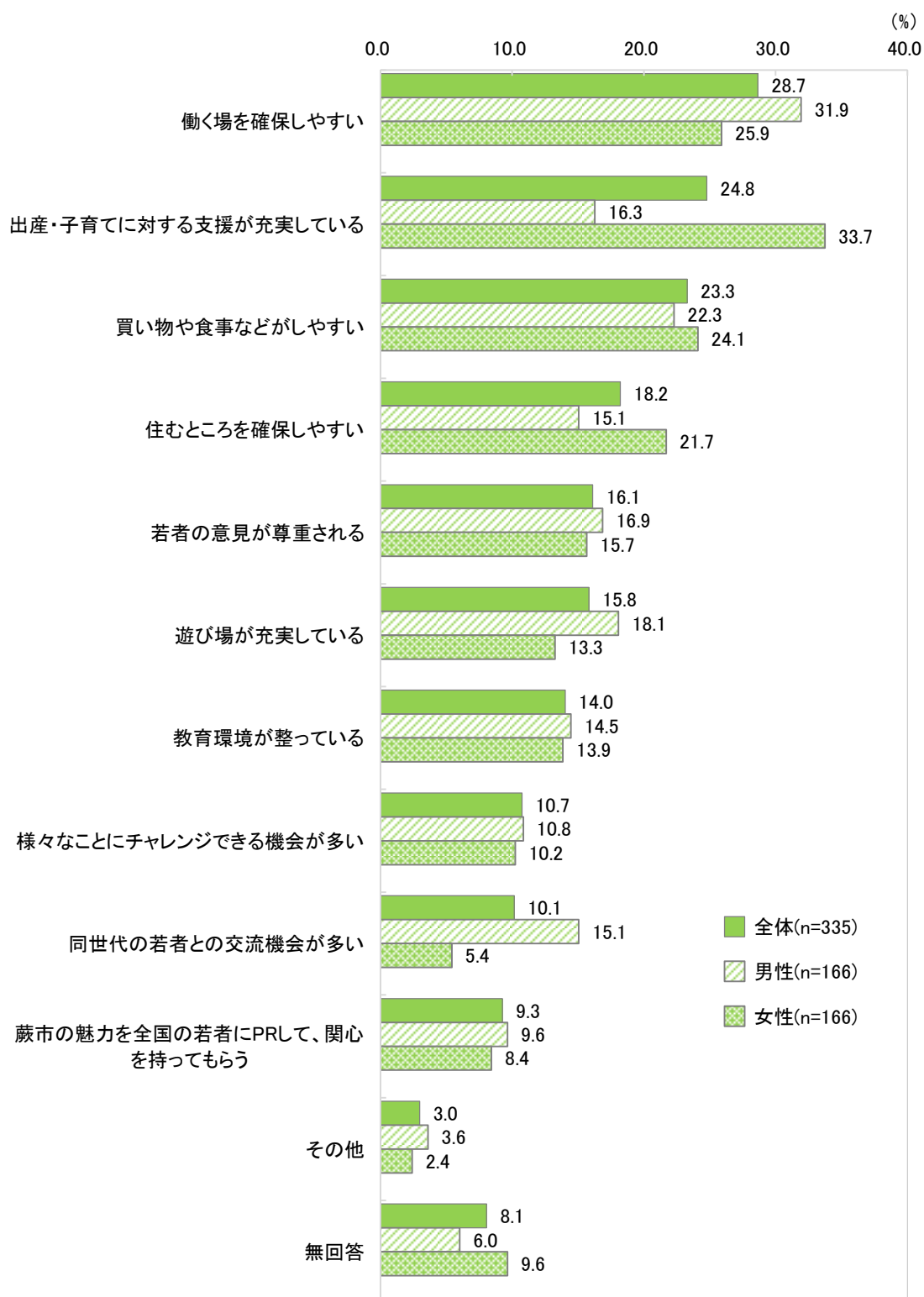
問14. **若者に選ばれるまちづくり** これから蕨市が若者に選ばれるまちを目指していくうえで、どのようなことが重要だと思いますか。(〇印は2つまで)



若者に選ばれるまちづくりに重要なことは、「働く場を確保しやすい」が28.7%、「出産・子育てに対する支援が充実している」が24.8%、「買い物や食事などがしやすい」が23.8%で上位となっています。

このほか、「住むところを確保しやすい」(18.2%)、「若者の意見が尊重される」(16.1%)、「遊び場が充実している」(15.8%)、「教育環境が整っている」(14.0%)が続いています。

<属性別>



若者に選ばれるまちづくりに重要なことは、性別にみると、男性は「働く場を確保しやすい」(31.9%)、女性は「出産・子育てに対する支援が充実している」(33.7%)がそれぞれ最も多くなっています。男性は、「出産・子育てに対する支援が充実している」が16.3%と女性の半数以下となっており、男女の意識の差が表れています。

5. 自由意見

就職・進学状況や定住意向等に関するアンケートの回答者 335 人のうち、89 人 (26.6%) から、延べ 109 件のご意見をいただきました。主なご意見は以下のとおりです。

1 就職・進学について (17 件)

- ・蕨市で働く場合、職種幅が狭くなると感じる。
- ・蕨市内に就職先があまりなく、埼玉県内、東京都内で就職活動をしている。
- ・生まれてからずっと蕨に住んでいるが、どのような会社があるのかよく分からない。
- ・子どもたちが興味のあることに対して、実際に見たり、体験したりできる機会があると、働く意欲が出るのではないかと思う。
- ・地域にこだわる前に、自分がやりたい仕事に就くことを最優先にしたい。その上でもし可能なら蕨に住み続けたい。

2 定住意向 (17 件)

- ・東京圏にあり、ある程度恵まれた環境であると感じる。
- ・夜道が安全で、子育ての支援がしっかりしていて、治安が良くなれば住み続けたい。
- ・都心に近く、電車の本数も多く、住みやすいと感じている。
- ・蕨駅付近の治安の悪さに不安があり、将来、家庭を持ったときに今のような状態では安心して住めないのではないかと思う。
- ・蕨市はとても小さい市なので小学校や中学校の数も少なく、子ども同士、親同士の距離が近くて繋がりをもちやすいと感じる。

3 まちづくり全体 (41 件)

- ・蕨市は狭いので、職場や学校が市外にある人の定住を促進すべきだと思う。一人暮らし用のアパートを充実させ、駅前に飲食店やスーパー、ドラッグストアを揃えると良い。
- ・外国人移住者がたくさんいるので治安の悪化を心配している。
- ・地震対策の講座や、マンション、地域における防災訓練が必要だと思う。
- ・蕨市のみで考えると物足りない事が多いが、戸田市が近いため、交通、買い物などが便利だ。
- ・蕨駅と戸田駅の間にはバスが通ると良い。
- ・図書館の開館時間を延ばしてもらいたい。
- ・ワラビーのいるオーストラリアの都市と姉妹都市提携を結んだら面白そうだ。
- ・蕨という市を他の地域の人に売りこむために、まず、蕨に住んでいる人自身が蕨を好きになるようなまちづくりをしたら良いと思う。

4 人口問題（6件）

- ・高齢者への対応も大切だが、若者への対応をしっかりとしないと10年、20年経った時に若い力がなくなってしまう。
- ・蕨市は高齢者に優しいまちだと思う。このままだと他の市から高齢者が移り住んで少子高齢化が進んでしまい、働く人の負担になる。
- ・人口を増やすなら、まずは現在市内に住んでいる若者たちを外へ逃がさない工夫をする必要がある。市と若者が意見交換する場を設け、共にこれからの蕨をつくっていくことが重要だ。

5 若者に選ばれるまちづくり（21件）

- ・若者が住み続けたいと思えるまちにするため、地域の景観を整備することを提案する。特に駅と駅周辺を整備してもらいたい。
- ・商店街が若者も買い物ができるような雰囲気になればうれしい。
- ・蕨駅に遊ぶ施設や店が集まっていないから、若者が少ないのだと思う。
- ・駅から少し離れると店も少なく、特に夜は暗いので街灯を増やし、一人暮らしや家族向けの住宅を増やすと良い。
- ・学生でも気軽に参加できるイベントやボランティアがあると良い。
- ・学生が勉強できる場所をつくってほしい。
- ・蕨は青年式発祥の地であるにもかかわらず、知名度が低すぎると感じる。
- ・私を含めて、若者はもっと今の蕨市の現状を知るべきで、若者が先頭に立って蕨市をPRしても良いと思う。
- ・公共事業が高齢者福祉に偏りすぎている。もっと若者のための施策があると良い。
- ・高齢者ばかりに良い施設ができて、子どもの遊び場所が少なくなっているので増やしてもらいたい。
- ・蕨市に将来性が感じられないので、未来志向の戦略を打ち出した方が良い。

6 その他（7件）

- ・まだ決まっていないことが多いので、16歳にこのアンケートは早いと思う。
- ・東京の高校に通っているため、蕨市の教育などについては分からない。
- ・同じ市長が3期も続くのは良くない。